佐久市埋蔵文化財調査報告書第43集

GONGENHIRA　　IKEHATA

権現平遺跡・池端遺跡

佐久市大字新子田権現平遺跡・池端遺跡調査報告書

1996. 3

セキスイハイム信州株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書第43集

GONGENHIRA　　IKEHATA

権現平遺跡・池端遺跡

佐久市大字新子田権現平遺跡・池端遺跡調査報告書

1996. 3

セキスイハイム信州株式会社
佐久市教育委員会

写１　権現平遺跡・池端遺跡航空写真

写２　権現平遺跡・池端遺跡航空写真

写３　権現平遺跡・池端遺跡航空写真

写４　H12号住居跡

例　　言

1　本書は、平成６年度セキスイハイム信州株式会社による宅地造成に伴う、佐久市大字新子田及び安原に所在する権現平遺跡・池端遺跡の発掘調査報告書である。

2　事業主体者　長野県松本市両島６番11号
　　セキスイハイム信州株式会社

3　調査主体者　佐久市教育委員会　教育長

4　遺跡名及び発掘調査所在地籍
　　権現平遺跡・池端遺跡（略称ＳＹＧ）
　　佐久市大字新子田字権現平77他

5　調査期間　平成６年10月３日～平成６年12月５日（発掘調査）
　　平成６年12月６日～平成８年３月31日（整理作業）

6　面　　積　6,460㎡

7　調査体制　（平成６年度）

教　育　長　大井　季夫
教育次長　奥原　秀雄
埋蔵文化財課長　戸塚　満
管理係長　谷津　恭子
管　理　係　田村　和広
埋蔵文化財係長　草間　芳行
埋蔵文化財係　林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　真寿
　　羽毛田　卓也　冨沢　一明　上原　学
調査担当者　冨沢　一明　上原　学
調　査　員　相沢　今朝義　荒井　かつ　荒井　ふみ子　池田　勝子
　　市川　チイ子　岩下　吉代　岩下　とも子　岩下　文子
　　碓氷　健　江原　富子　金森　治代　工藤　しず子
　　工藤　晴吉　棚沢　三之助　高地　正雄　小林　静江
　　小林　立江　小林　まさ子　佐藤　玉枝　清水　佐知子
　　鈴木　多比　高橋　サチコ　高橋　ふみ　武田　千里
　　武田　まつ子　角田　すい　橋詰　信子　花里　四之助
　　花里　三佐子　堀込　成子　水間　雅義　武者　幸彦

吉原　照美　依田　みち　渡辺　久美子

（平成７年度）

教　　育　　長　大井　季夫（平成７年６月退任）

依田　英夫（平成７年７月就任）

教　育　次　長　市川　源

埋蔵文化財課長　戸塚　満

管　理　係　長　谷津　恭子

管　　理　　係　田村　和広

埋蔵文化財係長　大塚　達夫

埋蔵文化財係　林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　真寿

羽毛田　卓也　冨沢　一明　上原　学

調査担当者　上原　学

調　　査　　員　荒井　ふみ子　棚沢　三之助　高地　正雄　小林まさ子

小林　百合子　小山　澄江　清水　佐知子　高橋サチコ

高橋　敬子　高橋　ふみ　花里　四之助　花里　三佐子

比田井　久美子　細谷　秀子　武者　幸彦

8　第Ⅱ章、佐久市安原付近の環境（地形・地質）は佐久市埋蔵文化財センター調査報告書第２集池畑・西御堂遺跡発掘調査報告書「第Ⅱ章・遺跡の立地と環境」と大半が重複するため、若干の修正を得て掲載した。

9　本書の執筆・編集は上原が行った。

10　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1　遺構・遺物の略称はＨ－竪穴住居跡　Ta－竪穴状遺構　Ｄ－土坑　Ｆ－掘立柱建物

Ｍ－溝状遺構　　Ｐ－ピット　ＩＤ－井戸跡

2　スクリーントーンによる表示は以下のとおりである。

焼土　粘土　カマド　須恵器　黒色処理

3　挿図の縮尺は以下の通りである。

遺構　　竪穴住居跡１／80　竪穴状遺構１／80・１／120　土抗１／80

掘立柱建物跡　１／80　溝跡１／160・１／120　井戸跡１／40

遺物　　縄文土器１／２　土師器・須恵器１／３

4　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

5　土層・遺物等の色調は、「新版標準土色調」による。

目　次

巻頭カラー写真図版

例　言

凡　例

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査の経緯と経過……1

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　佐久市安原付近の環境（地形・地質）……3

第Ⅲ章　基本層序及び調査遺構

第１節　基本層序……5

第２節　調査遺構……5

第Ⅳ章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡（H）……7

第２節　竪穴状遺構（Ta）……87

第３節　掘立柱建物跡（F）……101

第４節　土抗（D）……102

第５節　溝跡（M）……123

第６節　井戸跡（ＩＤ）……125

第７節　出土石器・鉄器

試掘・グリッド遺物……127

写真図版

挿　図　目　次

第１図　権現平遺跡・池端遺跡位置図 …１
第２図　権現平遺跡・池端遺跡位置図 …２
第３図　基本層序模式図……５
第４図　遺構配置図……６
第５図　Ｈ１号住居跡実測図……７
第６図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図…９
第７図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図…10
第８図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図…11
第９図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図…12
第10図　Ｈ２号住居跡実測図……15
第11図　Ｈ２号住居跡出土遺物実測図…17
第12図　Ｈ３・４号住居跡実測図 ……19
第13図　Ｈ３号住居跡出土遺物実測図…20
第14図　Ｈ４号住居跡出土遺物実測図…21
第15図　Ｈ４号住居跡出土遺物実測図…22
第16図　Ｈ５号住居跡実測図……24
第17図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…26
第18図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…27
第19図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…28
第20図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…29
第21図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…30
第22図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図…31
第23図　Ｈ６号住居跡実測図……34
第24図　Ｈ６号住居跡出土遺物実測図…35
第25図　Ｈ７号住居跡実測図……35
第26図　Ｈ７号住居跡出土遺物実測図…36
第27図　Ｈ８号住居跡実測図……37
第28図　Ｈ８号住居跡出土遺物実測図…38
第29図　Ｈ９号住居跡実測図……39
第30図　Ｈ９号住居跡出土遺物実測図…41
第31図　Ｈ10号住居跡実測図……43
第32図　Ｈ10号住居跡出土遺物実測図…46
第33図　Ｈ11号住居跡実測図……47
第34図　Ｈ11号住居跡出土遺物実測図…48
第35図　Ｈ12号住居跡実測図……49
第36図　Ｈ12号住居跡出土遺物実測図…52
第37図　Ｈ12号住居跡出土遺物実測図…53
第38図　Ｈ13号住居跡実測図……55
第39図　Ｈ13号住居跡カマド実測図……56
第40図　Ｈ13号住居跡出土遺物実測図…58
第41図　Ｈ14号住居跡実測図……60
第42図　Ｈ15号住居跡実測図……62
第43図　Ｈ16号住居跡実測図……63
第44図　Ｈ16号住居跡出土遺物実測図…64
第45図　Ｈ17号住居跡実測図……64
第46図　Ｈ17号住居跡出土遺物実測図…66
第47図　Ｈ18号住居跡実測図……67
第48図　Ｈ18号住居跡出土遺物実測図…68
第49図　Ｈ19号住居跡実測図……69
第50図　Ｈ19号住居跡出土遺物実測図…70
第51図　Ｈ20号住居跡実測図……72
第52図　Ｈ20号住居跡出土遺物実測図…74
第53図　Ｈ20号住居跡出土遺物実測図…75
第54図　Ｈ21号住居跡実測図……78
第55図　Ｈ21号住居跡出土遺物実測図…80
第56図　Ｈ22号住居跡実測図……81
第57図　Ｈ22号住居跡出土遺物実測図…83
第58図　Ｈ23号住居跡実測図……84

第59図　H23号住居跡出土遺物実測図…85
第60図　H23号住居跡出土遺物実測図…60
第61図　Ta１号竪穴状遺構実測図 ……87
第62図　Ta２号竪穴状遺構実測図 ……88
第63図　Ta３号竪穴状遺構実測図 ……89
第64図　Ta４号竪穴状遺構実測図 ……91
第65図　Ta５号竪穴状遺構実測図 ……92
第66図　Ta６号竪穴状遺構実測図 ……93
第67図　Ta７号竪穴状遺構実測図 ……94
第68図　Ta８号竪穴状遺構実測図 ……95
第69図　Ta９号竪穴状遺構実測図 ……96
第70図　Ta10号竪穴状遺構実測図 ……98
第71図　Ta11号竪穴状遺構実測図 ……99
第72図　Ta12号竪穴状遺構実測図……100
第73図　Ｆ１号掘立柱建物跡実測図 …101
第74図　土抗（D）実測図 ……102
第75図　土抗（D）実測図 ……103
第76図　土抗（D）実測図 ……104
第77図　土抗（D）実測図 ……105
第78図　土抗出土遺物実測図 ……111
第79図　土抗出土遺物実測図 ……112
第80図　土抗出土遺物実測図 ……113
第81図　土抗出土遺物実測図 ……114
第82図　土抗出土遺物実測図 ……115
第83図　土坑出土遺物実測図 ……115
第84図　土坑出土遺物実測図 ……116
第85図　Ｍ１号溝跡実測図 ……123
第86図　Ｍ２号溝跡実測図 ……124
第87図　ＩＤ１号井戸跡実測図 ……125
第88図　ＩＤ２号井戸跡実測図 ……126
第89図　権現平遺跡・池端遺跡試掘・グリッド出土遺物実測図 ……132

付　表　目　録

第１表　Ｈ１号住居跡出土遺物観察表…13
第２表　Ｈ１号住居跡出土遺物観察表…14
第３表　Ｈ１号住居跡出土遺物観察表…15
第４表　Ｈ２号住居跡出土遺物観察表…18
第５表　Ｈ３号住居跡出土遺物観察表…23
第６表　Ｈ４号住居跡出土遺物観察表…23
第７表　Ｈ５号住居跡出土遺物観察表…32
第８表　Ｈ５号住居跡出土遺物観察表…33
第９表　Ｈ６号住居跡出土遺物観察表…35
第10表　Ｈ７号住居跡出土遺物観察表…37
第11表　Ｈ８号住居跡出土遺物観察表…38
第12表　Ｈ９号住居跡出土遺物観察表…42
第13表　H10号住居跡出土遺物観察表…46
第14表　H11号住居跡出土遺物観察表…48
第15表　H12号住居跡出土遺物観察表…54
第16表　H13号住居跡出土遺物観察表…59
第17表　H16号住居跡出土遺物観察表…64
第18表　H17号住居跡出土遺物観察表…66
第19表　H18号住居跡出土遺物観察表…68
第20表　H19号住居跡出土遺物観察表…71
第21表　H20号住居跡出土遺物観察表…76
第22表　H20号住居跡出土遺物観察表…77
第23表　H21号住居跡出土遺物観察表…80
第24表　H22号住居跡出土遺物観察表…83
第25表　H23号住居跡出土遺物観察表…86
第26表　土坑土層説明 ……109

第27表　土坑土層説明 ……110
第28表　土坑出土遺物観察表 ……116
第29表　土坑出土遺物観察表 ……117
第30表　土坑出土遺物観察表 ……118
第31表　土坑出土遺物観察表 ……118
第32表　土坑出土遺物観察表 ……119
第33表　権現平遺跡・池端遺跡出土
石器観察表 ……127
第34表　権現平遺跡・池端遺跡出土
石器観察表 ……129
第35表　権現平遺跡・池端遺跡出土
石器観察表 ……130
第36表　権現平遺跡・池端遺跡出土
石器観察表 ……131
第37表　権現平遺跡・池端遺跡出土
鉄器観察表 ……132
第38表　権現平遺跡・池端遺跡試掘・グリッド
出土遺物観察表 ……132

写　真　目　録

写１　権現平遺跡・池端遺跡航空写真
写２　権現平遺跡・池端遺跡航空写真
写３　権現平遺跡・池端遺跡航空写真
写４　H12号住居跡
写５　Ｈ１号住居跡…… 8
写６　Ｈ１号住居跡…… 8
写７　Ｈ２号住居跡……16
写８　Ｈ２号住居跡……16
写９　Ｈ３・Ｈ４号住居跡 ……19
写10　Ｈ３・Ｈ４号住居跡 ……20
写11　Ｈ５住居跡……24
写12　Ｈ５号住居跡遺物出土状態……25
写13　Ｈ５号住居跡遺物出土状態……25
写14　Ｈ５号住居跡堀方……25
写15　Ｈ６号住居跡……34
写16　Ｈ７号住居跡……36
写17　Ｈ８号住居跡……38
写18　Ｈ９号住居跡……39
写19　Ｈ９号住居跡遺物出土状態……40
写20　Ｈ９号住居跡……40
写21　H10号住居跡遺物出土状態……44
写22　H10号住居跡……44
写23　H10号住居跡カマド……45
写24　H10号住居跡堀方……45
写25　H11号住居跡……47
写26　H12号住居跡遺物出土状態……50
写27　H12号住居跡……50
写28　H12号住居跡カマド……51
写29　H12号住居跡カマド堀方……51
写30　H13号住居跡……56
写31　H13号住居跡カマド……57
写32　H13号住居跡カマド堀方……57
写33　H13号住居跡出土砥石・臼玉 ……59
写34　H14号住居跡……60
写35　H14号住居跡カマド……61
写36　H14号住居跡堀方……61
写37　H15号住居跡……62
写38　H16号住居跡遺物出土状態……63
写39　H16号住居跡……63
写40　H17号住居跡……65

写41　H18号住居跡……67
写42　H19号住居跡……69
写43　H19号住居跡堀方……70
写44　H20号住居跡……73
写45　H20号住居跡カマド……73
写46　H20号住居跡カマド……73
写47　H21号住居跡……78
写48　H21号住居跡遺物出土状態……79
写49　H21号住居跡カマド……79
写50　H21号住居跡遺物出土状態……79
写51　H22号住居跡……81
写52　H22号住居跡カマド……82
写53　H22号住居跡カマド……82
写54　H22号住居跡カマド堀方……82
写55　H22号住居跡堀方……82
写56　H23号住居跡……84
写57　Ta 1 号竪穴状遺構 ……87
写58　Ta 2 号竪穴状遺構 ……88
写59　Ta 3 号竪穴状遺構 ……90
写60　Ta 3 号竪穴状遺構 ……90
写61　Ta 4 号竪穴状遺構 ……91
写62　Ta 5 号竪穴状遺構 ……92
写63　Ta 6 号竪穴状遺構 ……93
写64　Ta 7 号竪穴状遺構 ……94
写65　Ta 8 号竪穴状遺構 ……95
写66　Ta 9 号竪穴状遺構 ……97
写67　Ta 9 号竪穴状遺構 ……97
写68　Ta10号竪穴状遺構 ……98
写69　Ta11号竪穴状遺構 ……99
写70　Ta12号竪穴状遺構……100
写71　F 1 号掘立柱建物跡……101
写72　F 1 号掘立柱建物跡……101
写73　D1・D2・D36号土坑 ……119
写74　D 3 号土坑 ……119
写75　D 5 号土坑 ……119
写76　D 6 号土坑 ……119
写77　D 7 号土坑 ……120
写78　D 9 号土坑 ……120
写79　D10号土坑 ……120
写80　D11号土坑 ……120
写81　D12号土坑 ……120
写82　D15号土坑 ……120
写83　D18号土坑 ……120
写84　D18号土坑 ……120
写85　D21号土坑 ……121
写86　D26号土坑 ……121
写87　D27号土坑 ……121
写88　D29号土坑 ……121
写89　D30号土坑 ……121
写90　D31号土坑 ……121
写91　D32号土坑 ……121
写92　D33号土坑 ……121
写93　D36号土坑 ……122
写94　D38号土坑 ……122
写95　D39号土坑 ……122
写96　D40号土坑 ……122
写97　D43号土坑 ……122
写98　D44号土坑 ……122
写99　D45号土坑 ……122
写100　D46号土坑 ……122
写101　M 1 号溝跡 ……123
写102　M 2 号溝跡 ……124
写103　1 号井戸跡 ……125
写104　2 号井戸跡出土遺物 ……126

写105　2号井戸跡 ……126
写106　2号井戸跡 ……126
写107　権現平遺跡・池端遺跡出土石器…127
写108　権現平遺跡・池端遺跡出土石器…128
写109　権現平遺跡・池端遺跡出土石器…129
写110　権現平遺跡・池端遺跡出土石器…130
写111　権現平遺跡・池端遺跡出土鉄器…132

写　真　図　版

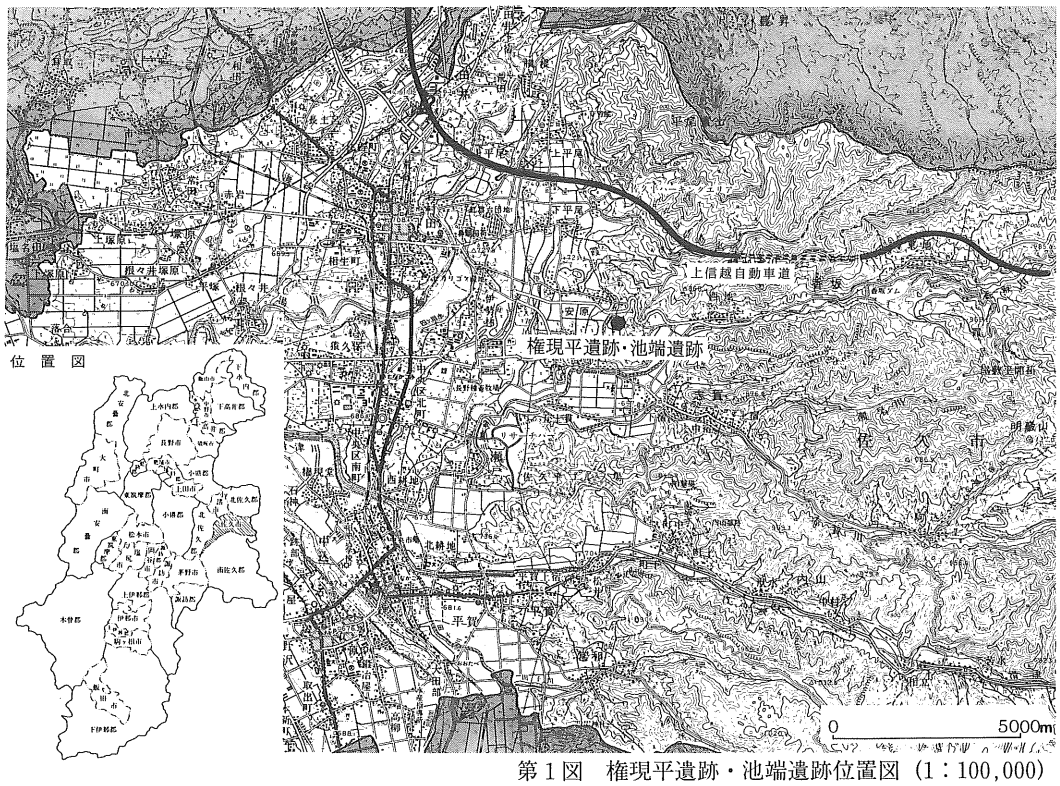
写112　H１号住居跡出土遺物
写113　H１号住居跡出土遺物
写114　H１号住居跡出土遺物
写115　H１号住居跡出土遺物
写116　H２号住居跡出土遺物
写117　H３号住居跡出土遺物
写118　H４号住居跡出土遺物
写119　H４号住居跡出土遺物
写120　H５号住居跡出土遺物
写121　H５号住居跡出土遺物
写122　H５号住居跡出土遺物
写123　H５号住居跡出土遺物
写124　H５号住居跡出土遺物
写125　H５号住居跡出土遺物
写126　H６号住居跡出土遺物
写127　H７号住居跡出土遺物
写128　H８号住居跡出土遺物
写129　H９号住居跡出土遺物
写130　H９号住居跡出土遺物
写131　H10号住居跡出土遺物
写132　H10号住居跡出土遺物
写133　H11号住居跡出土遺物
写134　H12号住居跡出土遺物
写135　H12号住居跡出土遺物
写136　H13号住居跡出土遺物
写137　H13号住居跡出土遺物
写138　H16号住居跡出土遺物
写139　H17号住居跡出土遺物
写140　H18号住居跡出土遺物
写141　H19号住居跡出土遺物
写142　H19号住居跡出土遺物
写143　H20号住居跡出土遺物
写144　H20号住居跡出土遺物
写145　H21号住居跡出土遺物
写146　H21号住居跡出土遺物
写147　H22号住居跡出土遺物
写148　H23号住居跡出土遺物
写149　権現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物
写150　権現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物
写151　権現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物
写152　権現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物
写153　権現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物
写154　権現平遺跡・池端遺跡試掘出土遺物
写155　G－く－１グリット出土遺物
写156　権現平遺跡・池端遺跡試掘出土鉄滓

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

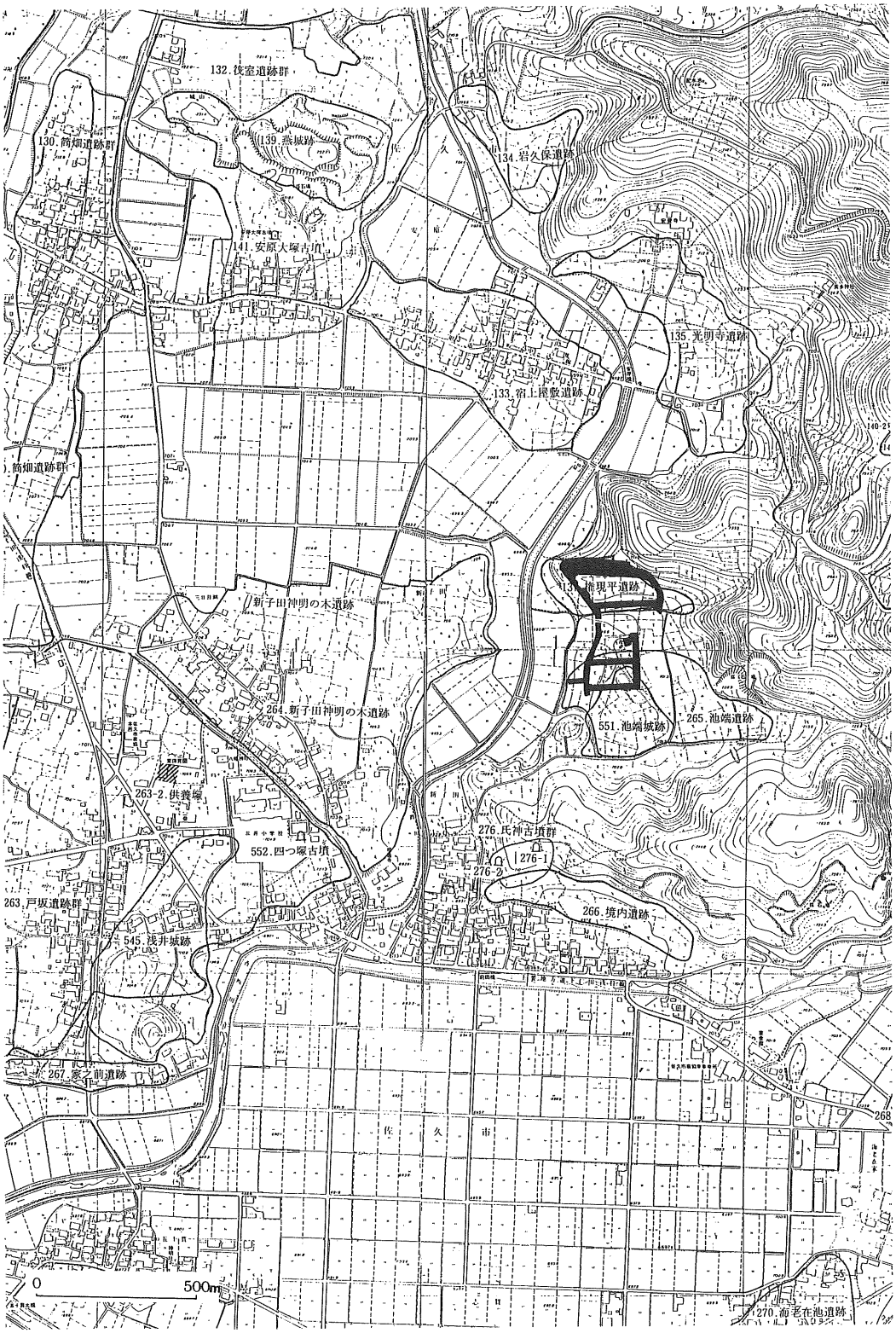
第１節　発掘調査の経緯と経過

権現平遺跡・池端遺跡は、佐久市大字新子田及び安原地積に所在し、標高696m～710mを測る。地形的には、北・南・東の三方を山に囲まれた台地状を呈し、西側は小河川をはさみ比較的平坦な地形が湯川に向かって広がっている。また昭和60年には、権現平遺跡・池端遺跡の西300mに位置する筒畑遺跡群池畑遺跡の調査が行われており、弥生時代から古墳時代初頭に位置付けられる住居跡などが確認されている。

今回、セキスイハイム信州株式会社による宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため、平成６年８月９日～平成６年８月26日にかけて試掘調査を行った。その結果、縄文時代から中世にいたる多数の遺構・遺物が確認されたため、主体者を含め改めて協議をおこない、造成により遺構の破壊が予想される、掘削部及び道路部分の調査をおこなうこととなった。このためセキスイハイム信州株式会社から委託を受けた佐久市教育委員会が記録保存を目的として、発掘調査を行う運びとなった。



第１図　権現平遺跡・池端遺跡位置図（1：100,000）



第２図　権現平遺跡・池端遺跡位置図(1：5,000)

第II章　遺跡の立地と環境

第１節　佐久市安原付近の自然環境

地形

上信国境に聳ゆる浅間山は標高2560m、わが国の代表的な活火山で常時火山活動状況を観測する施設を有する数少ないＡ級火山に分類されている。浅間火山は溶岩流・火山弾・火山砂・浮石・火山灰などの火山噴出物が互層する成層火山で、現在の最高地点噴火口は黒斑火山・前掛火山の上部中心に形成されたもので、これらを含めて浅間山全体は模式的な三重式成層火山である。この浅間山は古くから親しまれ、恐れられ佐久地域には特に自然・歴史人類生活の上に偉大な影響を及ぼしてきたが、現在では火山・地震等の地球物理学上から、日本だけでなく、世界的にも広く知られてきている。その理由は次の三点に要約できる。

1　活火山浅間山は地形・地質構造・火山活動・火山形態（成層・楯状・溶岩円頂丘等）などの各面から各種の火山としての条件を兼備しており、火山の模型的存在で、火山研究には最も適しており興味深いものがある。

2　古代からの火山活動の古記録が残されており、火山活動の歴史的研究では世界的に珍しいとされている。ことに天明３年（1783）発生の大噴火について、絵図・公式古文書・日記・書信などこの地方にも多くの記録が残っている。

3　火山活動の地球物理学的研究が、日本では勿論、世界的にも最も早くから行われ、その成果が日本の火山学・地震学を進歩させた原動力となっており、世界的にも高く評価されている。

当遺跡はこの浅間山の南斜面山麓が佐久平の平坦面に交わってゆるやかな南斜面の続く標高700m～710m付近の湯川の東沿岸の台地上に立地している。湯川は軽井沢町千ヶ滝に源を発し、南流して、同町油井地籍で南軽井沢から西流して来る泥川と合流して流路を西に変え、御代田町に入るまでに北の浅間山麓・南の森泉山方向の両側の小支流を合わせて水量を増し、深い浸蝕峡谷を作って流路を西北に変え、湯川ダムの多目的大貯水を作り、佐久市横根地籍北方で再び流路を南に変えて佐久市内に入る。横根附近から河幅も広めとなり、両岸に浸蝕河岸段丘を作り、谷中に小沖積地を作り、最も古い開拓水田がここに存在する。当遺跡はこの湯川東方1.7kmの台地上に位置する。

湯川西岸の佐久平地方（岩村田台地）には火山山麓特有な田切り地形が見事に発達している。これは新しい火山であり、浅間山の火山噴出物・火山砂・火山灰・浮石の堆積層が未分解で粘土化せず凝結力が乏しいため流水・洪水等の浸蝕に対する抵抗力が頗る弱く、一度流路になると大

きな断面が垂直に近い谷に発達する可能性が高くなり、火山国日本の第四紀の新しい火山の裾野地帯各地に見られる田切り地形と同形となっている。御代田駅から小海線三岡駅附近が最も顕著である。湯川東岸地区には田切り地形の著しいものはないが当遺跡の西側の旧平尾道・安原用水・東中学東側凹地・霞川等の凹地が田切り初期の地形である。それらの初期地形間の南北に続く台地が古墳時代以来、古代・中世の住居遺跡の分布地である。

地質

権現平遺跡・池端遺跡周辺の地質構成で、野外で直接観察できる最も古いものは平尾山（1155m）を構成する平尾溶岩である。平尾溶岩は塊状火山（トロイデ火山）として噴出した濃青緑色の緻密な玻璃質複輝石安山岩で、石材としては頗る良材であり、佐久産出の姫小松石と称して珍重され、他の地方にも搬出されている。平尾山は荒船火山より古く、長い間の風化浸蝕をうけて山全体に放射谷が発達し、佐久平の東北隅に屹立して展望も広く、市民に親しまれている。

平尾山の東麓に覆い重なっているのが荒船山の噴出物の溶結凝灰岩（佐久石）で、霞川の左岸に所在する安原・新子田附近及び閼伽流山の奇岩絶壁の東側一帯に広く分布している。佐久石と称せられているものの中で、特に業者間では安原石が最も良質のものとされ、古くから石造加工品の原材として珍重されている。この溶結凝灰岩（安原石）は荒船火山の活動最盛期に多量の安山岩質灼熱火山灰を長期間噴出し、厚い堆積層を構成し、熱と加重圧によって再溶融固結したもので、荒船火山を中心として志賀谷山峡の奇岩から田口及び青沼まで広く分布している。

堆積岩層としては英多神社南の香坂越尾根南部に小部分相浜層の砂質凝灰岩・凝灰岩の互層が認められ、この中から広葉樹化石を産出したこともあり、洪積世初期の地層が僅かに分布していることが明らかとなっている。

安原・新子田・平根地区の平坦地を構成する地層は浅間火山の噴出物の堆積層で、基盤は黒斑火山の噴出物起源の湖沼性堆積火山性砂岩・凝灰岩・凝灰質礫岩の互層であり、これは湯川の谷底部に一部露出が見られ、黒岩城跡埋蔵文化財発掘調査の際、深掘りトレンチで確認され、その上部には大小の軽石の礫を多量に含んだ厚い火山灰砂の層が重なっている。この層を第一軽石流と呼んでいるが、前掛火山の噴出物で浅間山の南斜面の大部分と佐久平の北半を広く、厚く覆っている。第一軽石流は空中堆積物であるので原地形によって厚さの変化が著しいが、この地層分布内には田切り地形が発達し、田切りの崖面では構成物質の層厚が観察でる。遺跡付近では鼻顔稲荷社境内の高さ20mに及ぶ断崖が顕著な例である。また軽石流は2回にわたって流出したものであるが、第二回軽石流中に含まれる炭化木幹について、C^{14}年代測定では10,650～11,300年前と測定値がでている。（小諸市誌）

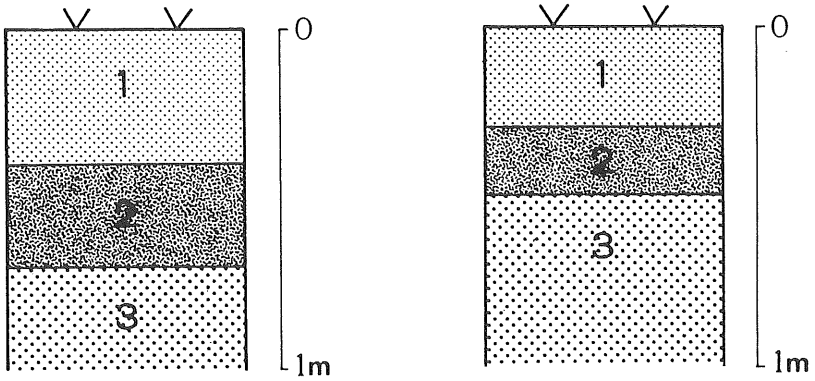
この軽石流の上面が今回権現平遺跡・池端遺跡の層序模式図地山第3層含軽石礫黄褐色土層（ローム）である。

（白倉盛男）

第Ⅲ章　基本層序及び調査遺構

第１節　基本層序

権現平遺跡は三方を山に囲まれた盆地上に存在するため、遺構もわずかな平地及び山の緩やかな斜面を利用して構築されている。このため層序確認は、斜面・平地の２カ所で行った。斜面の層序は３層に分層でき、１層は黒褐色で厚さは40cm内外を測る。２層は暗褐色土の粘性の強い土質で、遺物を含む包含層である。厚さは30cm内外を測る。３層は黄褐色土のロームで、この上面が遺構検出面である。平地の層序は３層に分層でき、１層は畑に利用された耕作土で黒褐色の柔らかい土質で厚さ30cmを測る。２層は暗褐色土だが斜面に比べ、粘性のない土質である。厚さは20cmを測る。３層は黄褐色のローム土でこの上面が遺構の検出面となる。



第３図　基本層序模式図

第２節　調査遺構

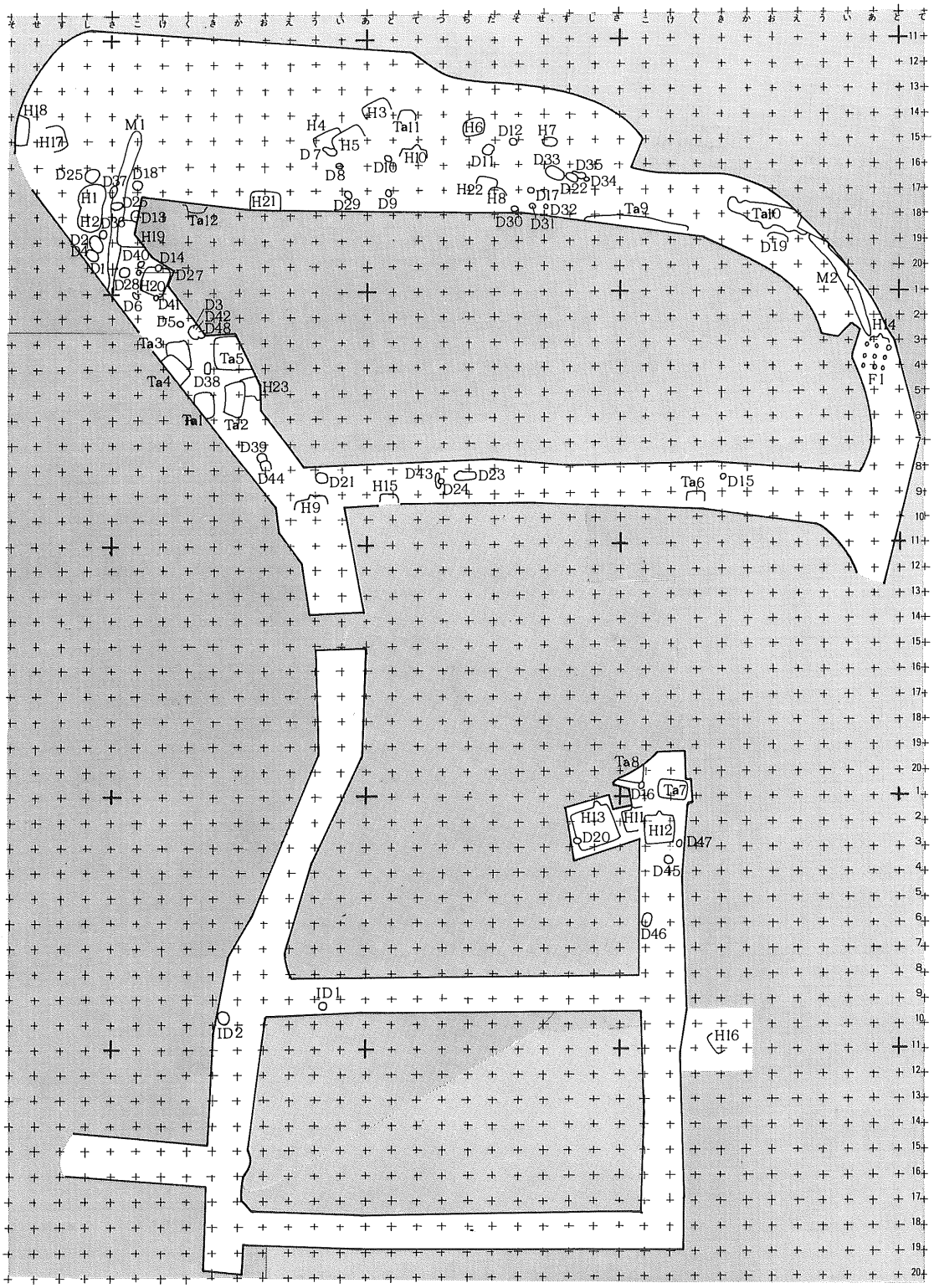
今回の調査は、宅地造成によって遺構の破壊が予想される掘削部及びとりつけ道路部分の調査を行い、下記の遺構・遺物を検出した。

竪穴住居跡　23棟　縄文時代　８棟　古墳時代　８棟　平安時代　７棟

竪穴状遺構　10棟　掘立柱建物跡　１棟

土坑　48基　縄文時代　22基　古墳時代・平安時代　11基　時期不明　15基

溝　２条　　井戸跡　２

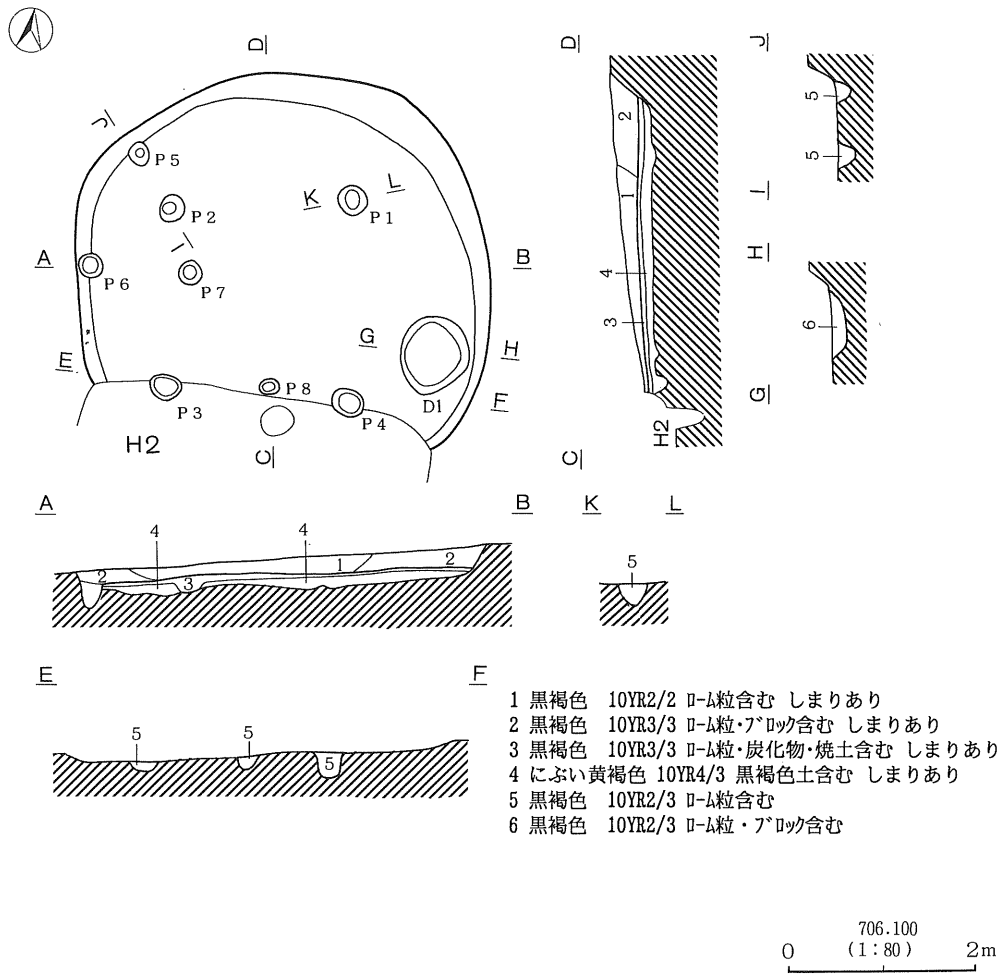


第４図　権現平遺跡・池端遺跡遺構配置図（1：1,000）

第Ⅳ章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

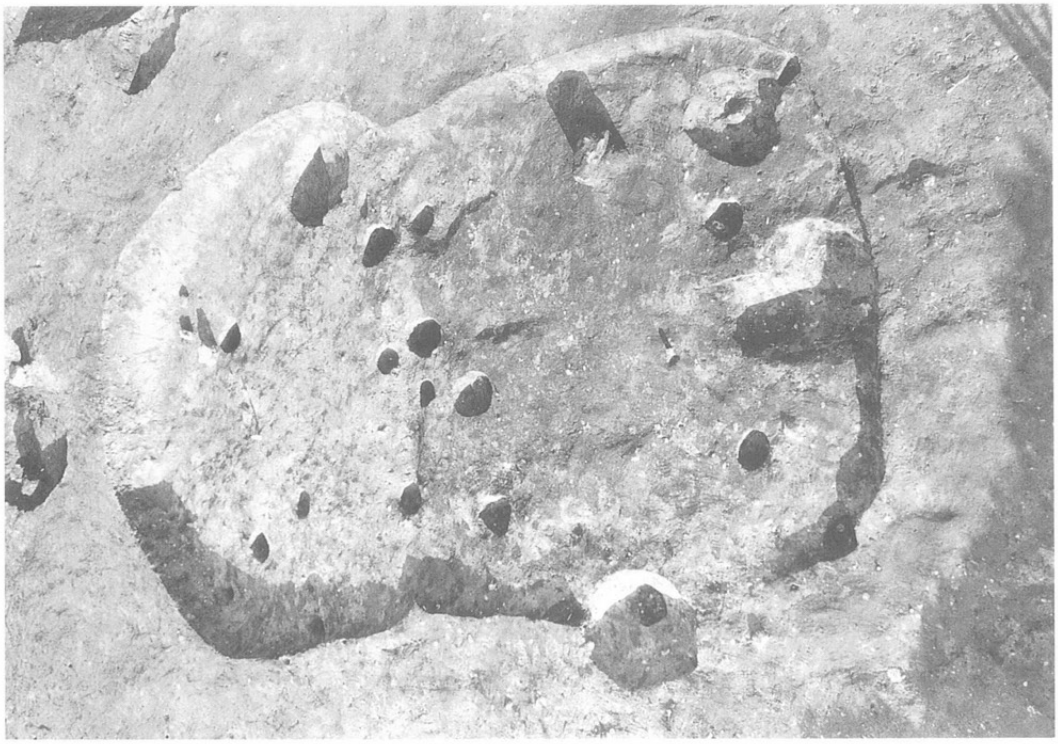
Ｈ１号住居跡（縄文時代）



第５図　Ｈ１号住居跡実測図

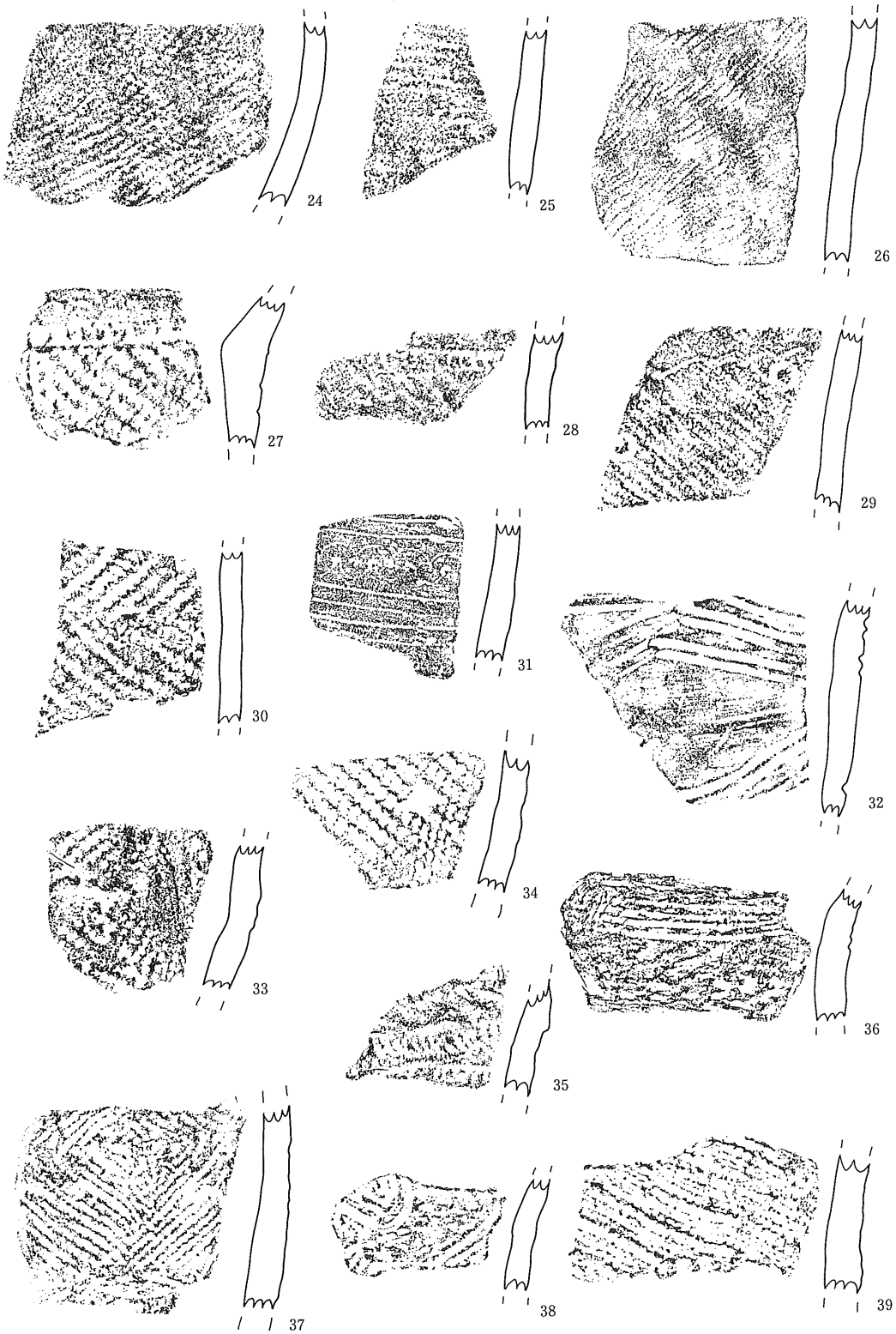
遺構は、Ｄ－し－17グリット付近の緩斜面上に位置する。Ｈ２と重複関係にあり、南壁の一部を切られる。平面形は南北3.4m、東西4.4mのやや東西に長い円形を呈する。壁高は床面から25cmを測り外傾しながら立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは８個確認できた。また南壁際には貯蔵穴と思われる土抗が認められる。炉及び焼土の確認はできなかった。

写5　H１号住居跡

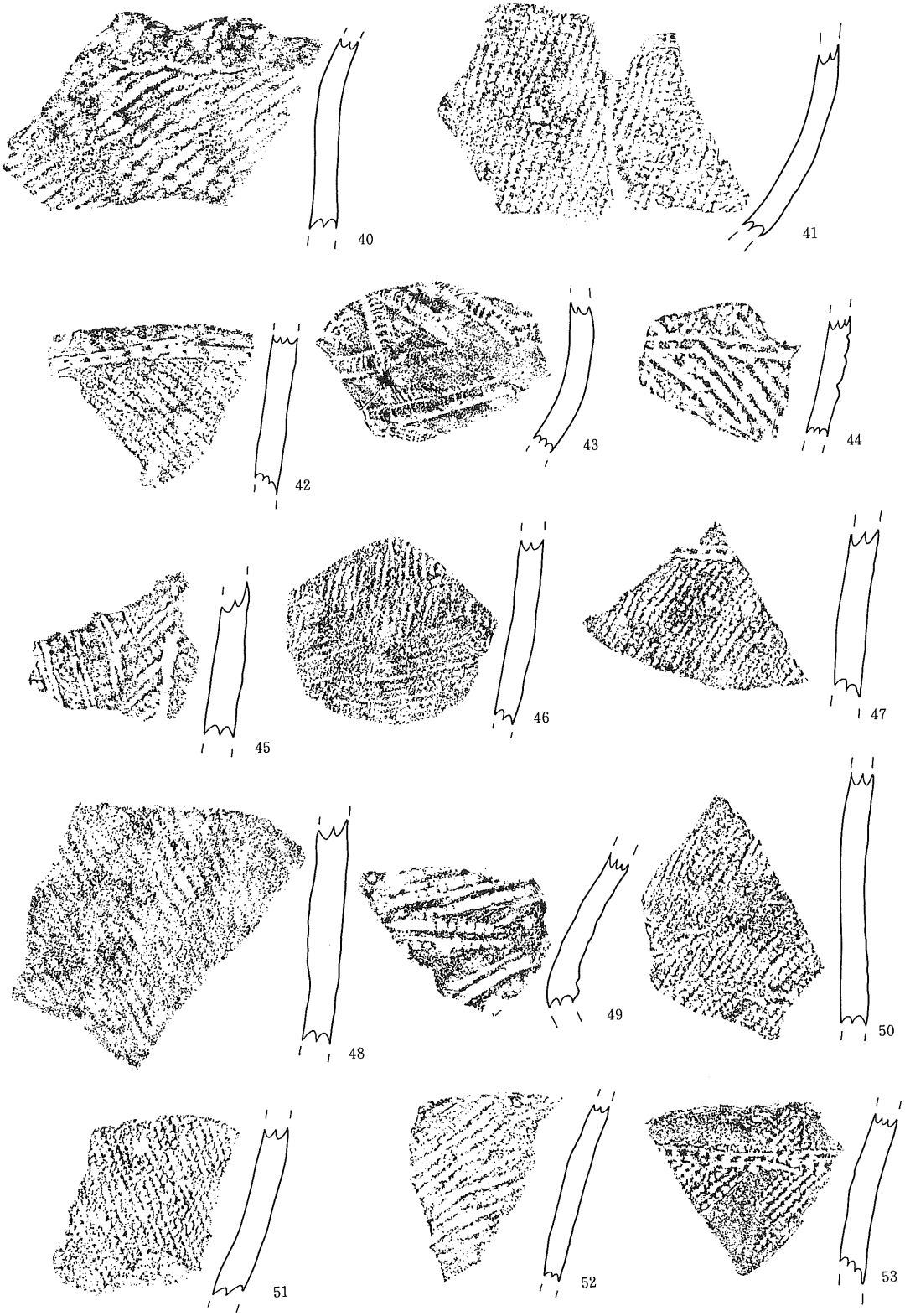


写6　H１号住居跡

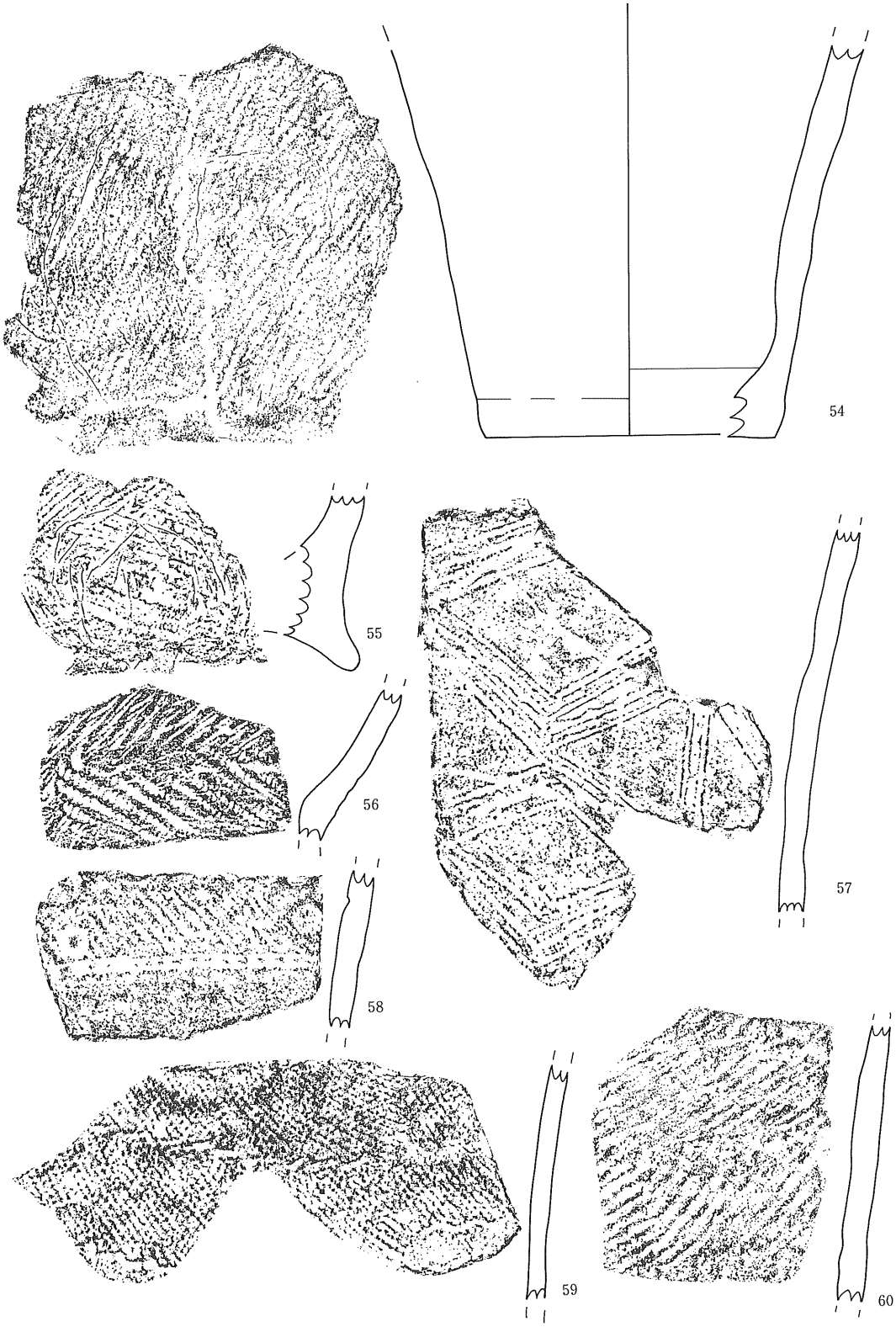
第６図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図



第７図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図



第８図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図



第９図　Ｈ１号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	含有鉱物
1	縄文土器	－	－	0.5	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	長石・雲母
2	縄文土器	－	－	0.8	口縁	5YR3/3 暗赤褐色	良	
3	縄文土器	－	－	1.0	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	長石・雲母
4	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR2/2 黒褐色	良好	雲母
5	縄文土器	－	－	0.7	口縁	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	雲母
6	縄文土器	－	－	0.8	口縁	10YR2/2 黒褐色	良	雲母
7	縄文土器	－	－	0.8	口縁	5YR4/8　赤褐色	良好	
8	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR3/1 黒褐色	良	雲母
9	縄文土器	－	－	1.0	口縁	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	雲母・長石
10	縄文土器	－	－	0.6	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
11	縄文土器	－	－	0.9	口縁	5YR4/8 赤褐色	良好	雲母・長石
12	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR3/2 暗赤褐色	良好	金雲母
13	縄文土器	－	－	0.7	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	
14	縄文土器	－	－	0.8	口縁	10YR4/1 褐灰色	良好	
15	縄文土器	－	－	0.9	口縁	5YR3/3 暗赤褐色	良	雲母・長石
16	縄文土器	－	－	0.9	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
17	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR7/1 灰褐色	良	雲母
18	縄文土器	－	－	1.3	口縁	7.5YR5/2 灰褐色	良	長石
19	縄文土器	－	－	0.9	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	雲母・長石
20	縄文土器	－	－	0.9	口縁	10YR3/3 暗褐色	良好	
21	縄文土器	－	－	0.9	口縁	7.5YR6/6 橙色	良	金雲母・長石
22	縄文土器	－	－	0.9	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
23	縄文土器	－	－	0.7	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母・長石
24	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
25	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	長石
26	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	雲母

(単位　cm)

第１表　Ｈ１号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	調整	焼成	備考
27	縄文土器	−	−	1.3	体部	5YR4/1 褐灰色	良好	雲母・長石
28	縄文土器	−	−	0.9	体部	7.5YR7/2 明褐灰色	不良	金雲母・長石
29	縄文土器	−	−	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	金雲母・長石
30	縄文土器	−	−	0.7	体部	5YR6/4 にぶい橙色	不良	長石
31	縄文土器	−	−	1.0	体部	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	
32	縄文土器	−	−	0.9	体部	7.5YR4/3 褐色	良	雲母
33	縄文土器	−	−	0.9	体部	7.5YR7/6 橙色	良	長石
34	縄文土器	−	−	0.8	体部	5YR5/6 明褐色	良好	長石
35	縄文土器	−	−	0.8	体部	10YR7/3 にぶい黄橙色	不良	金雲母・長石
36	縄文土器	−	−	0.9	体部	10YR4/2 灰黄褐色	良好	雲母
37	縄文土器	−	−	0.9	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	雲母
38	縄文土器	−	−	0.7	体部	5YR6/8 橙色	良	雲母
39	縄文土器	−	−	1.1	体部	10YR4/1 褐灰色	良好	雲母
40	縄文土器	−	−	0.9	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良好	
41	縄文土器	−	−	0.8	体部	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	雲母
42	縄文土器	−	−	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石
43	縄文土器	−	−	0.8	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	金雲母・長石
44	縄文土器	−	−	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
45	縄文土器	−	−	1.2	体部	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	
46	縄文土器	−	−	0.7	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母・長石
47	縄文土器	−	−	0.9	体部	10YR2/3 黒褐色	良好	雲母
48	縄文土器	−	−	1.0	体部	7.5YR4/3 褐色	良	長石
49	縄文土器	−	−	0.9	体部	10YR5/4 にぶい黄橙色	良	
50	縄文土器	−	−	0.8	体部	10YR2/2 黒褐色	良好	雲母
51	縄文土器	−	−	0.8	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母・長石
52	縄文土器	−	−	0.6	体部	5YR6/6 橙色	良	長石

(単位　cm)

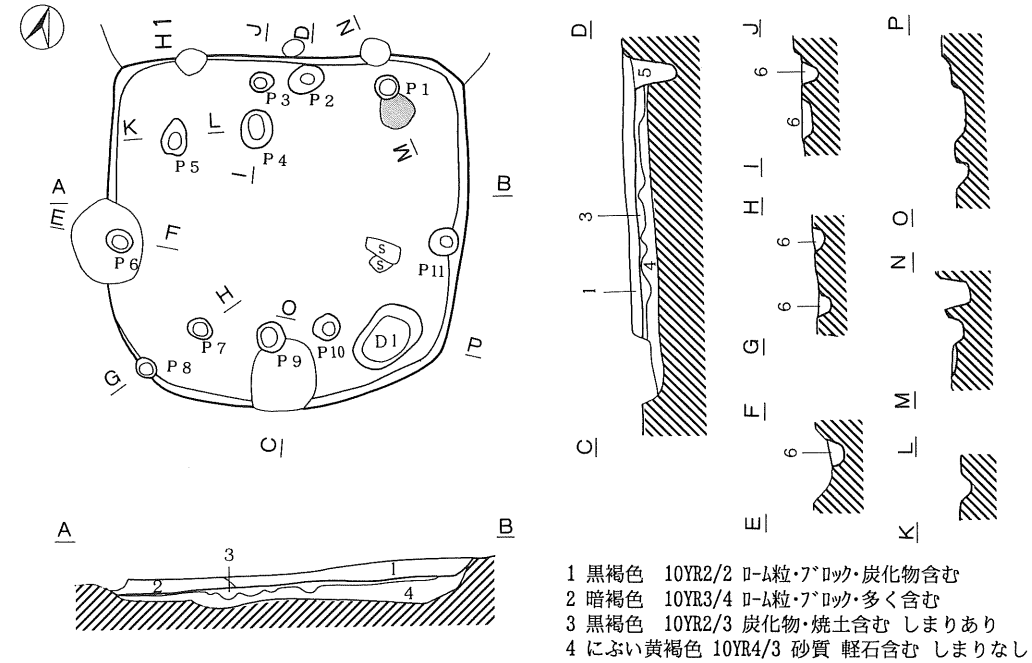
第２表　Ｈ１号住居跡出土遺物観察表

番号	器　種	器　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
53	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR3/1 黒褐色	良	雲母・長石
54	縄文土器	－	底径(9.2)	1.0	体部	5YR4/6 褐色	良	金雲母・長石
55	縄文土器	－	底径(9.4)	1.3	体部	5YR4/6 褐色	良	雲母
56	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	長石
57	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR3/4 暗赤褐色	良	金雲母・長石
58	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR4/1 褐灰色	良	金雲母・長石
59	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	雲母
60	縄文土器	－	－	0.8	体部	2.5YR5/6 明赤褐色	良	長石

(単位　cm)

第3表　H1号住居跡出土遺物観察表

H2号住居跡（縄文時代）



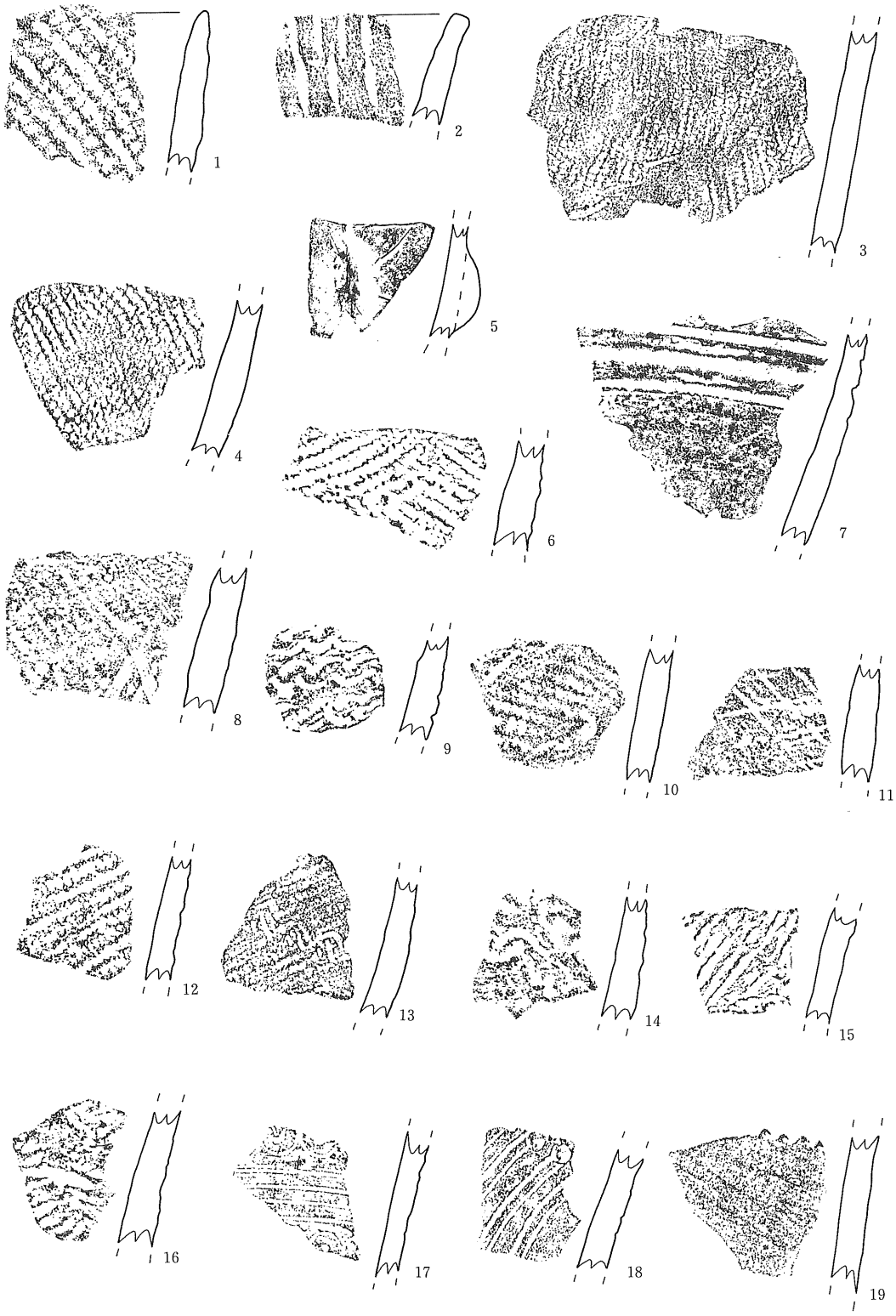
1 黒褐色　10YR2/2 ﾛｰﾑ粒･ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物含む
2 暗褐色　10YR3/4 ﾛｰﾑ粒･ﾌﾞﾛｯｸ･多く含む
3 黒褐色　10YR2/3 炭化物･焼土含む しまりあり
4 にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質 軽石含む しまりなし
5 黒褐色　10YR2/3 ﾛｰﾑ粒･ﾊﾟﾐｽ含む
6 黒褐色　10YR2/2 ﾛｰﾑ粒含む

第10図　H2号住居跡実測図

遺構はD－し－18グリット付近の緩斜面上に位置する。Ｈ１と重複関係にありＨ１の北壁を切る。平面形は南北3.7m、東西3.8mの隅丸方形を呈する。壁高は床面から10cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは11個確認できた。また南東壁際には土抗が認められ、床面には僅かに焼土が分布するが炉などの施設は認められなかった。

写７　Ｈ２号住居跡

写８　Ｈ２号住居跡



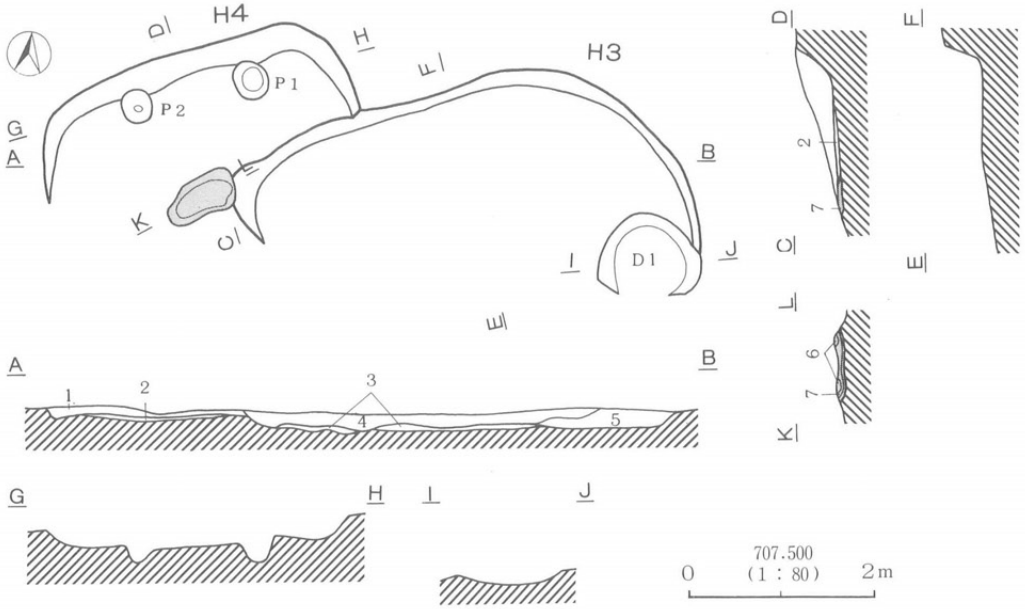
第11図　Ｈ２号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	調　　整	焼成	備　　考
1	縄文土器	－	－	0.8	口縁	5YR3/4 暗褐色	良	雲母
2	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	長石
3	縄文土器	－	－	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
4	縄文土器	－	－	0.7	体部	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
5	縄文土器	－	－	0.7	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
6	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	
7	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
8	縄文土器	－	－	1.0	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
9	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
１０	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR5/4にぶい黄橙色	良	雲母・長石
１１	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
１２	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良	雲母
１３	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
１４	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	雲母・長石
１５	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	雲母
１６	縄文土器	－	－	0.9	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
１７	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	雲母
１８	縄文土器	－	－	0.6	体部	7.5YR4/1 褐灰色	良好	雲母
１９	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR3/4 暗褐色	良好	金雲母・長石

(単位　cm)

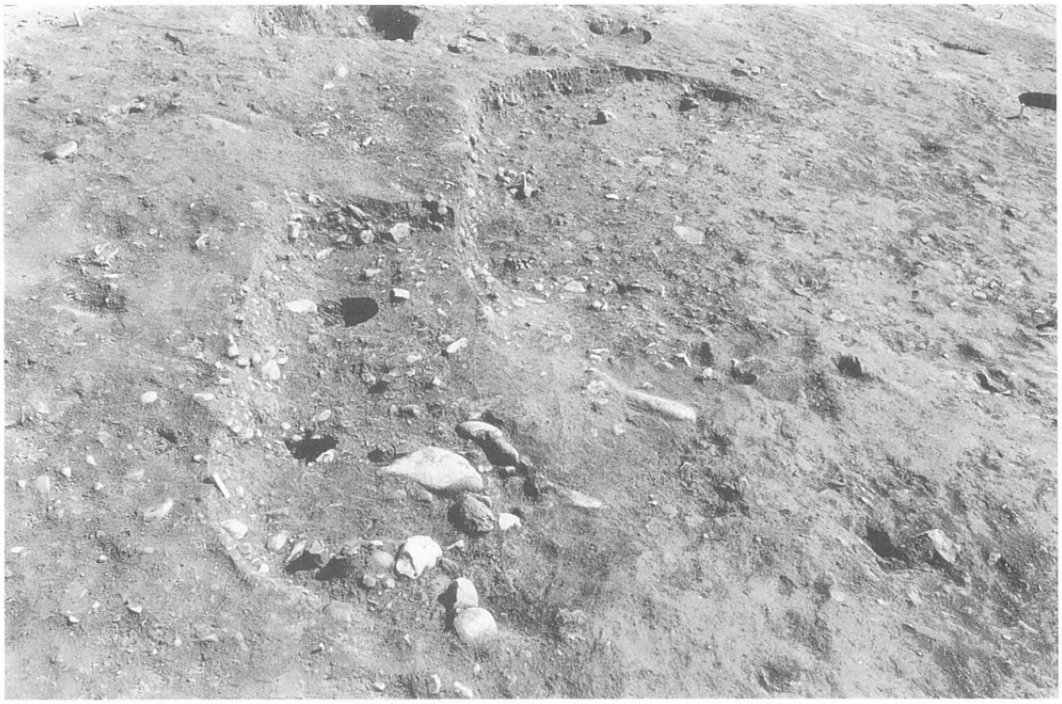
第４表　Ｈ２号住居跡出土遺物観察表

Ｈ３・４号住居跡（縄文時代）



1 暗褐色　10YR2/3 炭化物・焼土粒含む 粘性しまりあり
2 黒褐色　10YR3/2 炭化物含む しまり粘性あり
3 褐色　10YR4/6 白色・ローム粒含む しまり粘性あり
4 暗褐色　10YR3/3 白色粒含む しまり粘性あり
5 褐色　10YR4/6 ローム粒含む
6 赤褐色　2.5YR4/8 砂質 しまり粘性あり
7 暗赤褐色 2.5YR3/4 しまり粘性なし

第12図　Ｈ３・Ｈ４号住居跡実測図

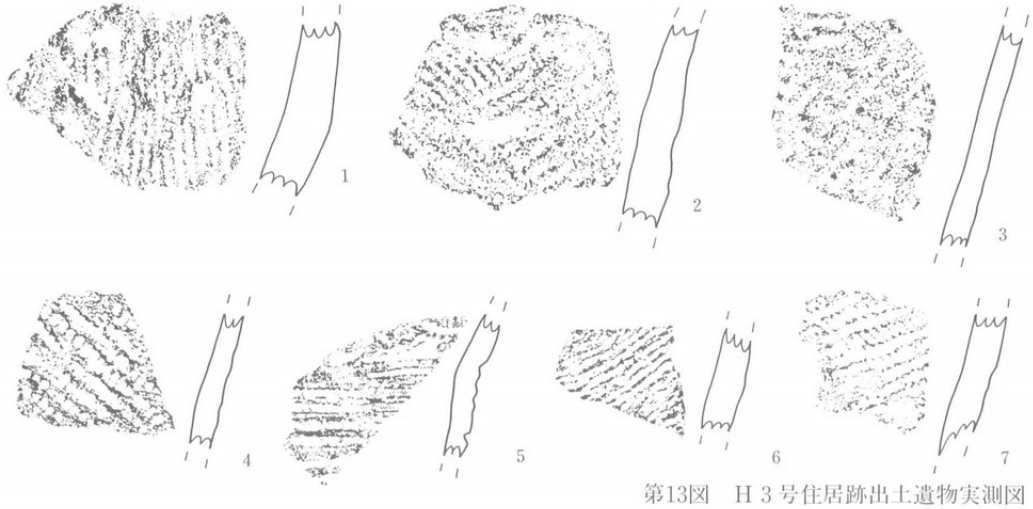


写９　Ｈ３・Ｈ４号住居跡

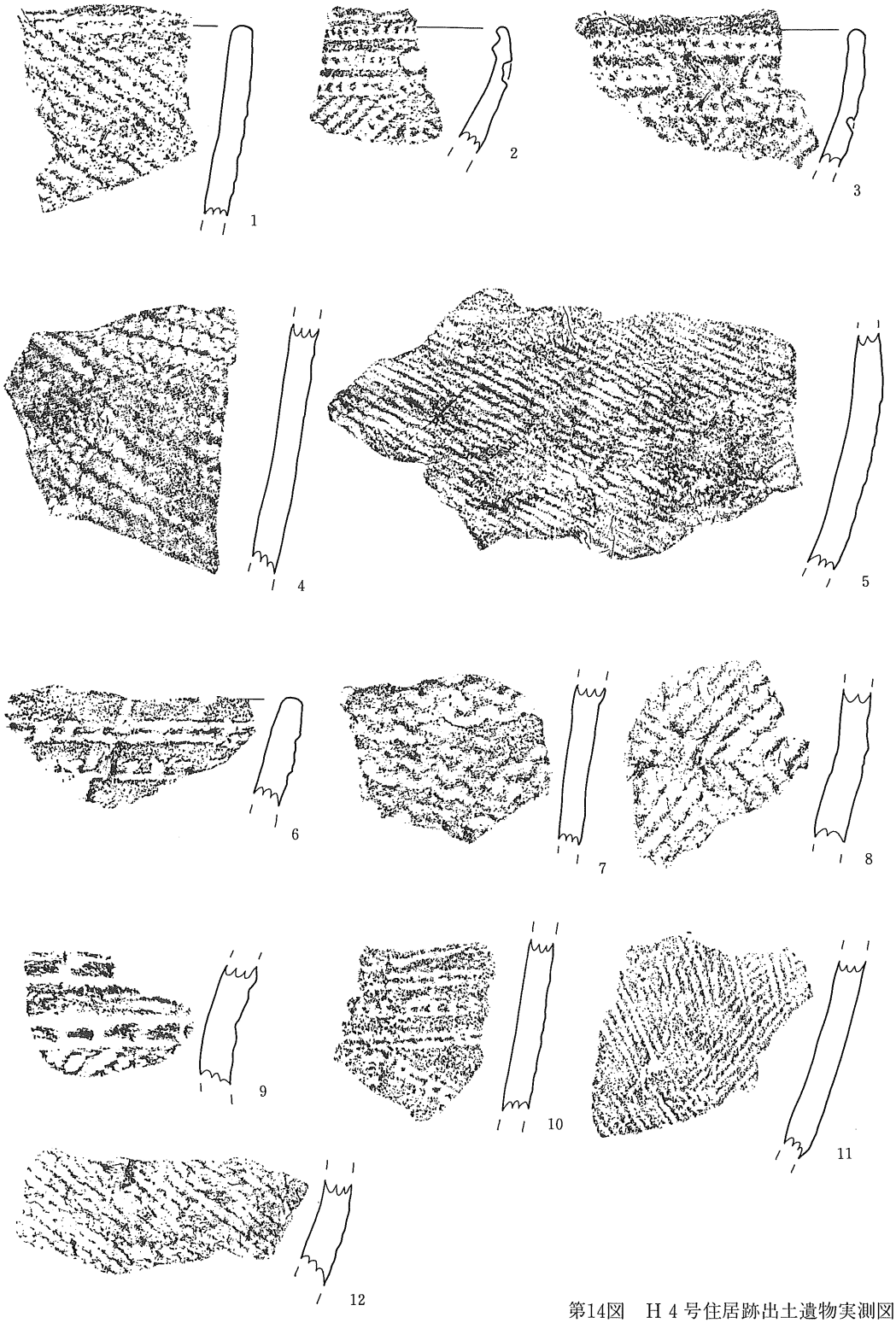
Ｈ３号住居跡はＤ－あ－14グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構はＨ４と重複関係にありＨ４の東壁を切る。規模は残存部で南北1.5m、東西4.9mを測り、平面形は隅丸の方形を呈していたと思われる。壁高は床面から最大値で20cmを測る。床面は細かな石が多く凹凸が激しい状態であり、南東隅に土抗が認められる。炉などの施設は確認できなかった。

Ｈ４号住居跡はＤ－う－15グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構はＨ３と重複関係にあり東壁を切られる。規模は残存部で南北1.5m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は床面から最大値で14cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は一面地山に含まれる岩が露出しており、凹凸の激しい状態である。ピットは北壁際に２個確認でき、遺構のほぼ中央に炉が設置されていた。

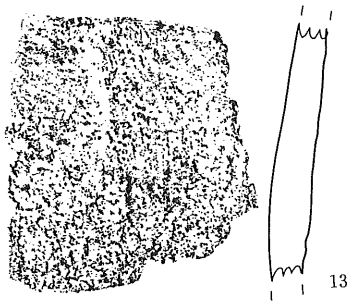
写10　Ｈ３・Ｈ４号住居跡

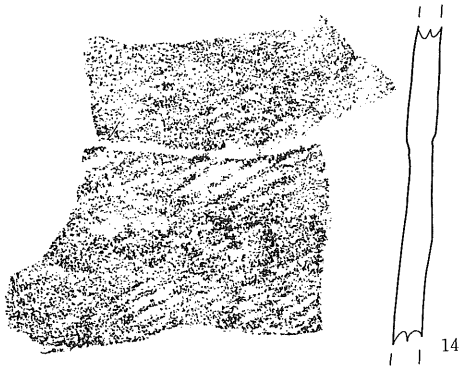


第13図　Ｈ３号住居跡出土遺物実測図



第14図　Ｈ４号住居跡出土遺物実測図





第15図　Ｈ４号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
1	縄文土器	—	—	0.7	体部	10YR2/3 黒褐色	良	雲母・長石
2	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	長石
3	縄文土器	—	—	1.2	体部	10YR3/3 暗褐色	良	雲母
4	縄文土器	—	—	0.6	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
5	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母・長石
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母
7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	雲母・長石

(単位　cm)

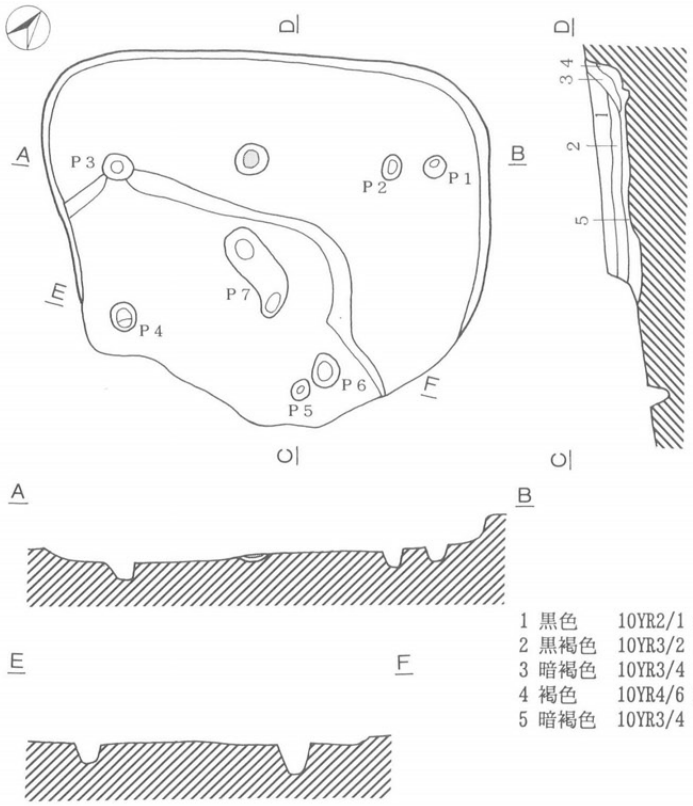
第５表　Ｈ３号住居跡出土遺物観察表

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
1	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	不良	金雲母・長石・小石
2	縄文土器	—	—	0.6	口縁	10YR2/3 黒褐色	良	雲母
3	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR6/4 にぶい橙色	不良	雲母・小石
4	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR2/2 黒褐色	良	雲母
5	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR4/3 褐色	良	雲母・長石
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
7	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/8 明褐色	良	雲母・長石
8	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石
9	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石
１０	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/6 赤褐色	不良	雲母・長石・小石
１１	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
１２	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR4/2 灰褐色	良	雲母
１３	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・小石
１４	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/6 明褐色	不良	雲母・長石
１５	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/8 明褐色	良	雲母
１６	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	雲母
１７	縄文土器	—	—	0.9	底部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	
１８	縄文土器	—	—	0.7	底部	5YR5/6 明赤褐色	不良	雲母

(単位　cm)

第６表　Ｈ４号住居跡出土遺物観察表

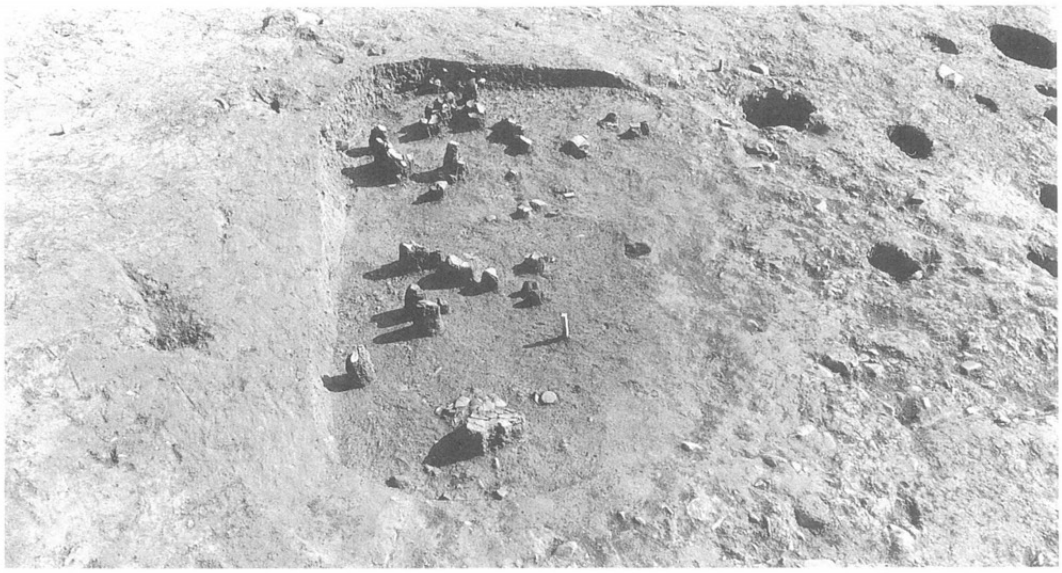
Ｈ５号住居跡（縄文時代）



1 黒色　10YR2/1 小石・砂利含む
2 黒褐色　10YR3/2 白色粒・炭化物含む しまり粘性あり
3 暗褐色　10YR3/4 しまり粘性あり
4 褐色　10YR4/6 ﾊﾟﾐｽ含む しまり粘性あり
5 暗褐色　10YR3/4 しまり粘性強い

708.200
0　(1：80)　2m

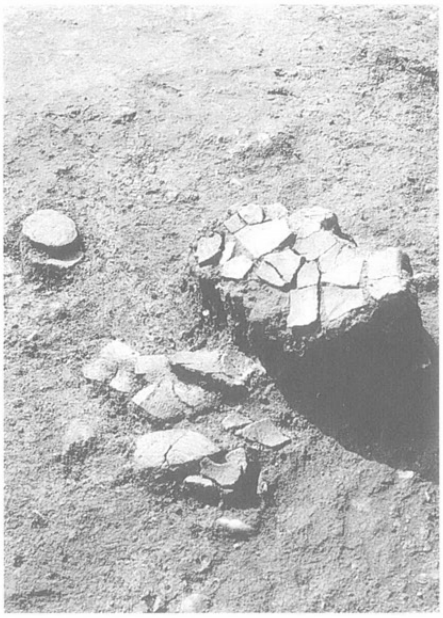
第16図　Ｈ５号住居跡実測図



写11　Ｈ５号住居跡

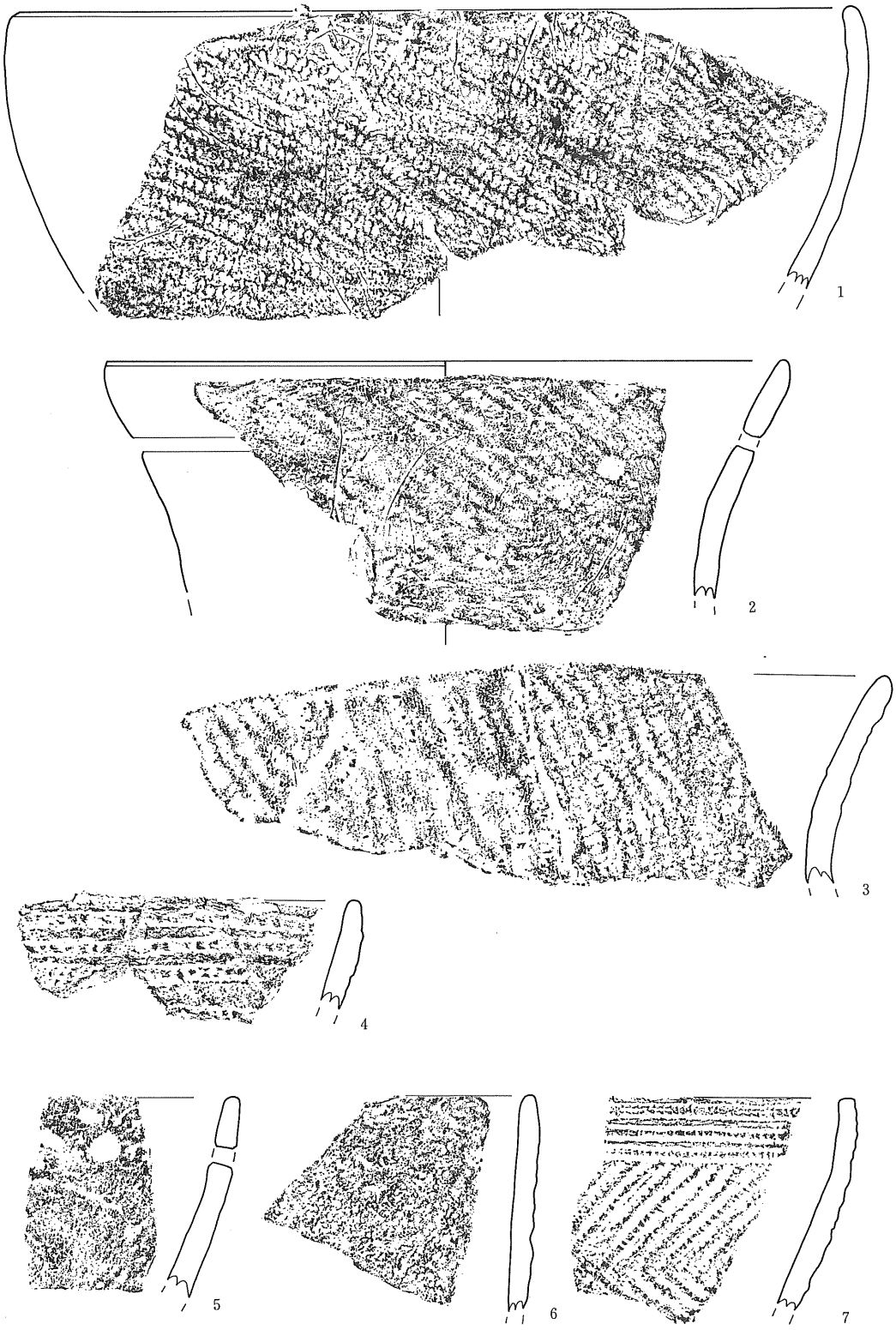
遺構はD－あ－５グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北3.8m、東西4.7mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は40cmを測る。床面は堅くしまっており、ピットは７個確認できた。炉はＰ２・Ｐ３の中間に位置する。平面形は円形を呈し厚さ８cmの焼土が堆積していた。

写12　Ｈ５号住居跡遺物出土状態

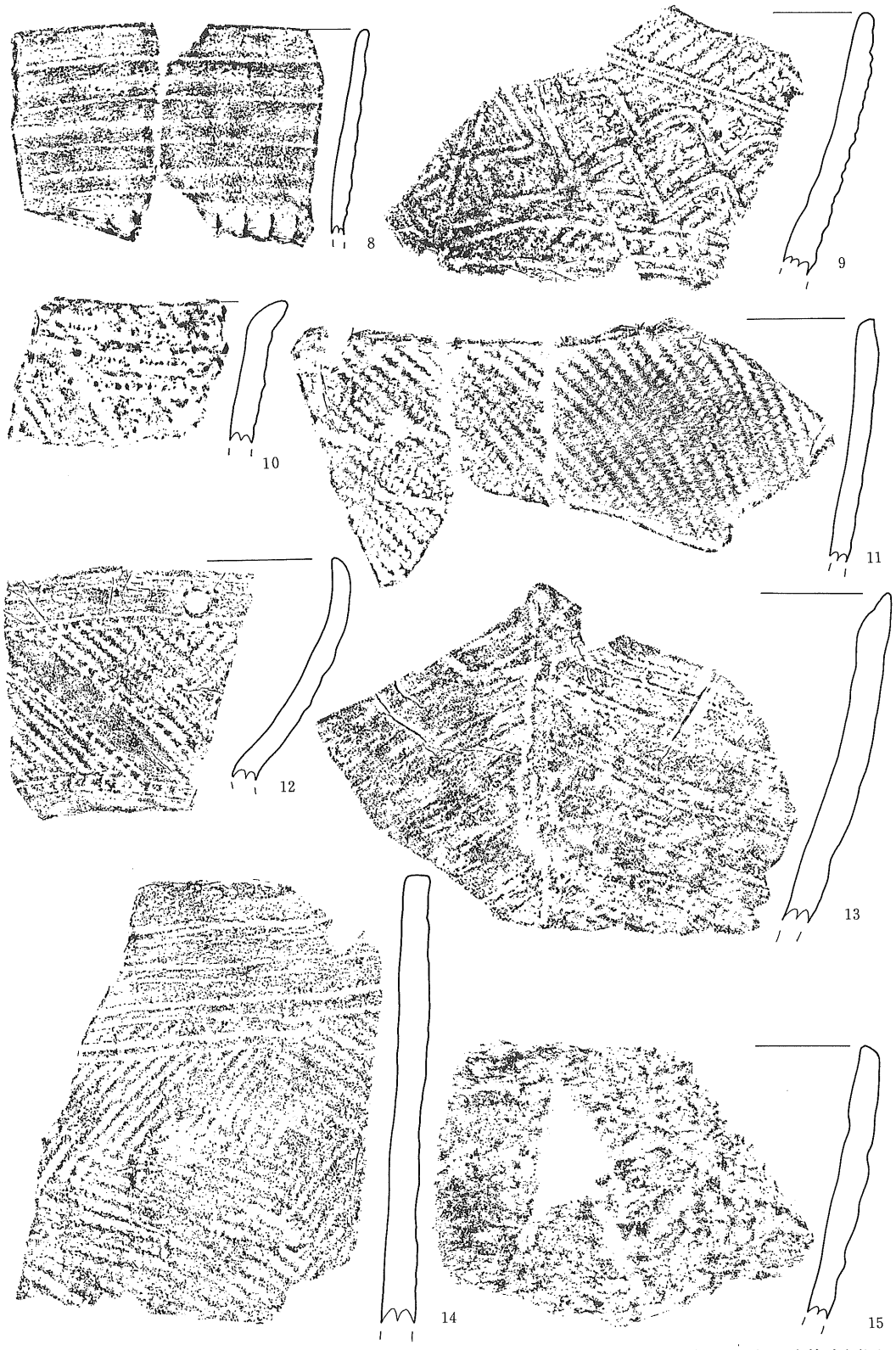


写13　Ｈ５号住居跡遺物出土状態

写14　Ｈ５号住居跡堀方

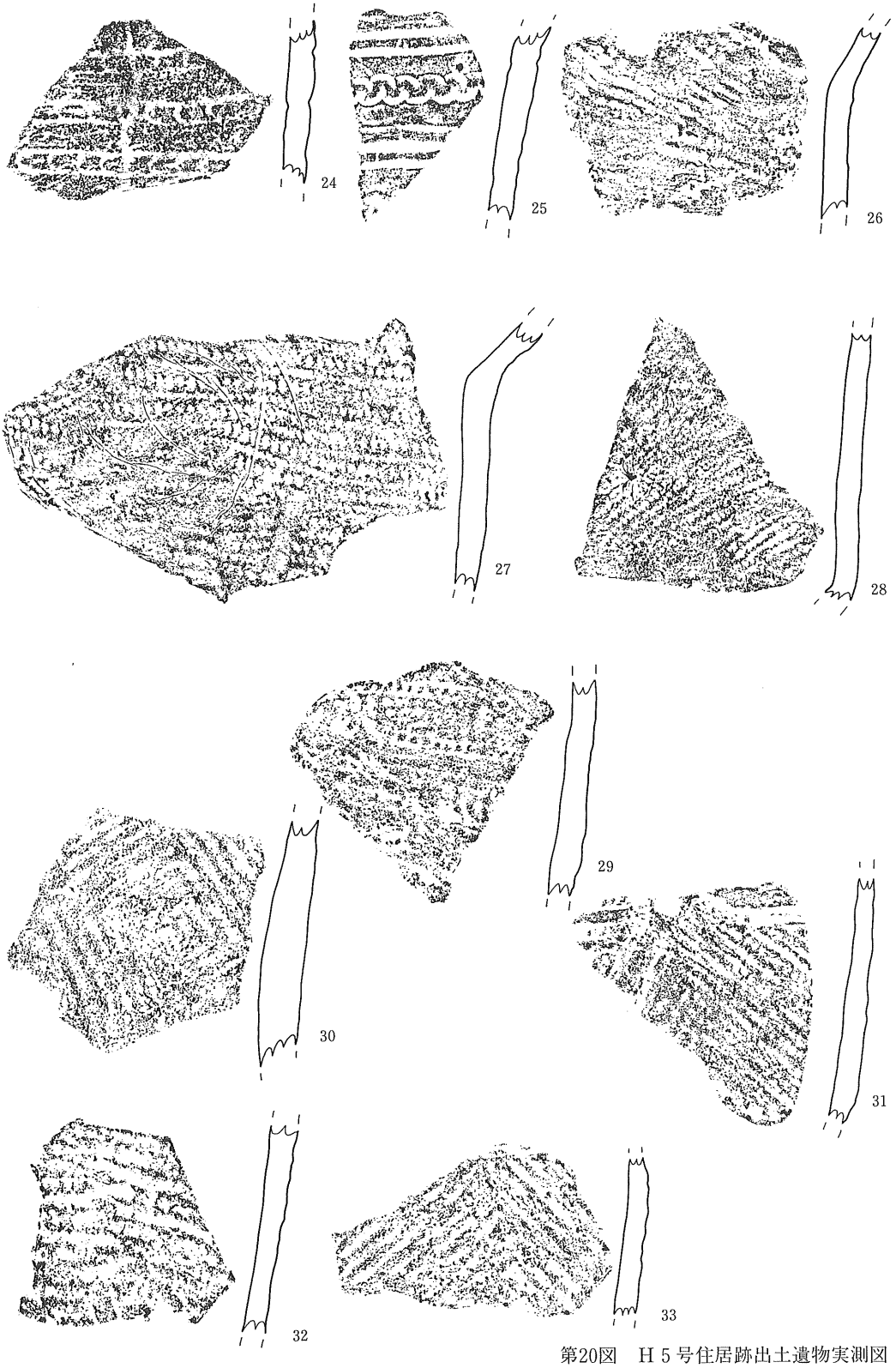


第17図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図

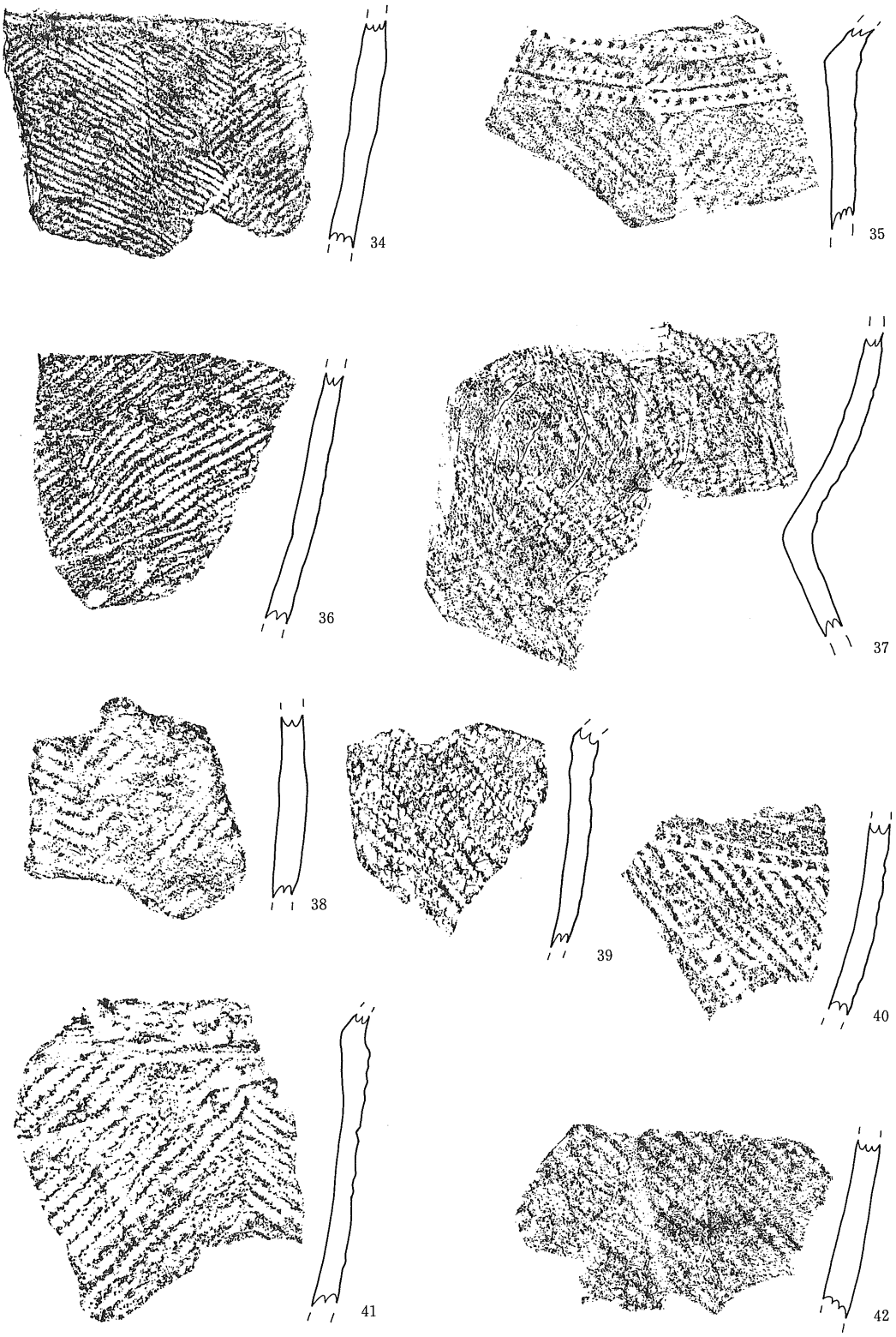


第18図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図

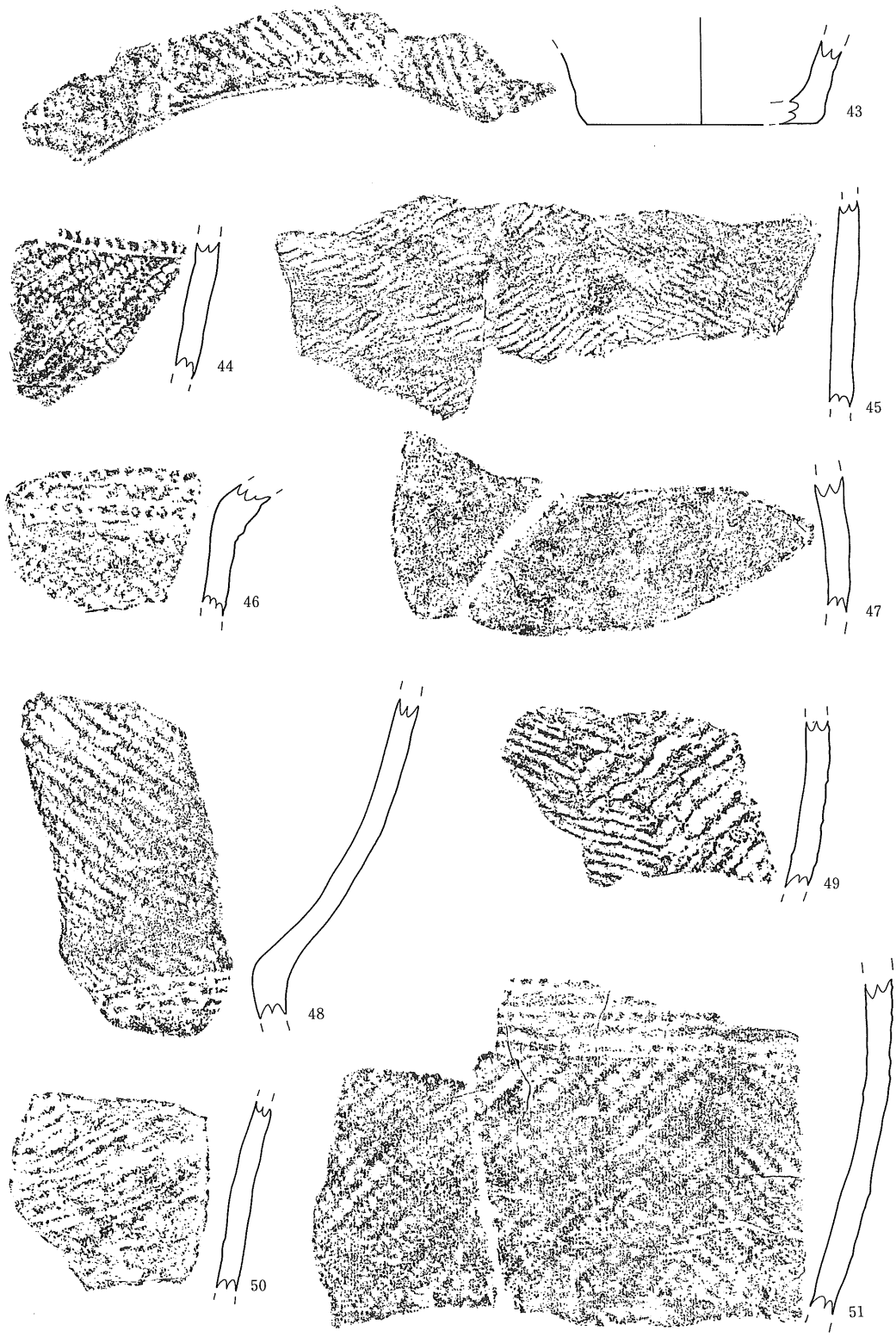
第19図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図



第20図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図



第21図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図



第22図　Ｈ５号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
1	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR3/3 暗赤褐色	良好	雲母
2	縄文土器	－	－	0.6	口縁	2.5YR3/1 黒褐色	良	雲母･長石･小石
3	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR5/6 赤褐色	良	雲母･長石･小石
4	縄文土器	－	－	0.8	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	
5	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	雲母
6	縄文土器	－	－	0.6	口縁	7.5YR6/6 橙色	不良	長石・小石
7	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR2/1 黒褐色	良好	雲母・長石
8	縄文土器	－	－	0.5	口縁	7.5YR4/1 褐灰色	良	雲母
9	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR4/2 灰褐色	良	金雲母・長石
10	縄文土器	－	－	1.0	口縁	7.5YR7/6 橙色	良	雲母・長石
11	縄文土器	－	－	0.7	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母・小石
12	縄文土器	－	－	0.6	口縁	2.5YR4/3にぶい赤褐色	良	雲母・長石
13	縄文土器	－	－	0.9	口縁	2.5YR3/4 暗赤褐色	良	雲母
14	縄文土器	－	－	1.0	口縁	5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
15	縄文土器	－	－	0.9	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
16	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	長石・小石
17	縄文土器	－	－	0.8	口縁	5YR6/4 にぶい橙色	良好	長石・小石
18	縄文土器	－	－	0.7	口縁	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	雲母
19	縄文土器	－	－	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	雲母・小石
20	縄文土器	－	－	0.8	口縁	5YR5/8 明赤褐色	良好	
21	縄文土器	－	－	1.2	口縁	7.5YR8/4 浅黄橙色	良	雲母
22	縄文土器	－	－	1.0	口縁	10YR8/4 浅黄橙色	良好	雲母
23	縄文土器	－	－	0.7	口縁	2.5YR3/1 黒褐色	不良	長石
24	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR4/8 赤褐色	良	雲母・長石
25	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR2/1 黒色	良好	雲母
26	縄文土器	－	－	0.9	体部	2.5YR3/2 暗赤褐色	良好	雲母

(単位　cm)

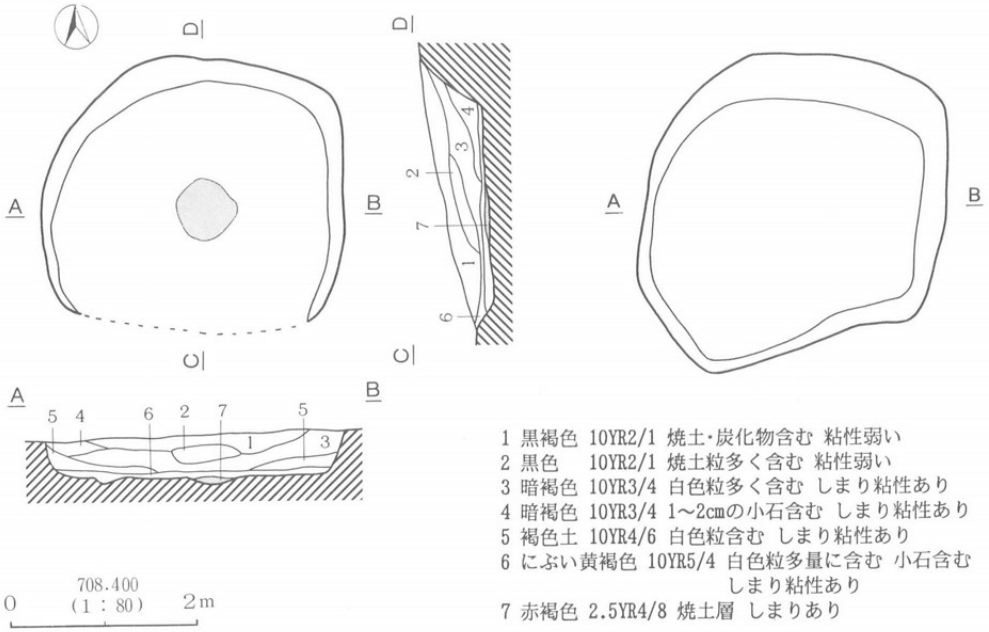
第７表　Ｈ５号住居跡出土遺物観察表

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
２７	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
２８	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR7/8 黄橙色	良	雲母・長石
２９	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR3/2 暗赤褐色	良	雲母
３０	縄文土器	－	－	1.2	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
３１	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR7/1 黒色	良	
３２	縄文土器	－	－	0.8	体部	10R3/3 暗赤褐色	良	雲母
３３	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR6/8 橙色	良	長石
３４	縄文土器	－	－	0.9	体部	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	
３５	縄文土器	－	－	0.9	体部	5YR5/2 灰褐色	良	雲母・長石
３６	縄文土器	－	－	0.6	体部	7.5YR4/4 褐色	良好	長石
３７	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	長石・小石
３８	縄文土器	－	－	0.8	体部	10YR2/2 黒褐色	不良	小石
３９	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR4/4 褐色	良	雲母
４０	縄文土器	－	－	0.7	体部	2.5YR4/4にぶい赤褐色	良	雲母･長石･小石
４１	縄文土器	－	－	0.7	体部	10YR4/4 褐色	良好	雲母
４２	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR6/8 橙色	良	雲母
４３	縄文土器	－	－	0.9	底部	5YR6/6 橙色	良好	小石
４４	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	雲母
４５	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	長石
４６	縄文土器	－	－	1.0	体部	5YR6/6 橙色	良好	雲母･長石･石英
４７	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/8 明籍褐色	良好	雲母･長石･石英
４８	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR4/6 赤褐色	良	雲母・長石
４９	縄文土器	－	－	0.7	体部	10YR3/1 黒褐色	良好	
５０	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	不良	
５１	縄文土器	－	－	0.8	体部	10R4/3 赤褐色	良	雲母・小石

(単位　cm)

第８表　Ｈ５号住居跡出土遺物観察表

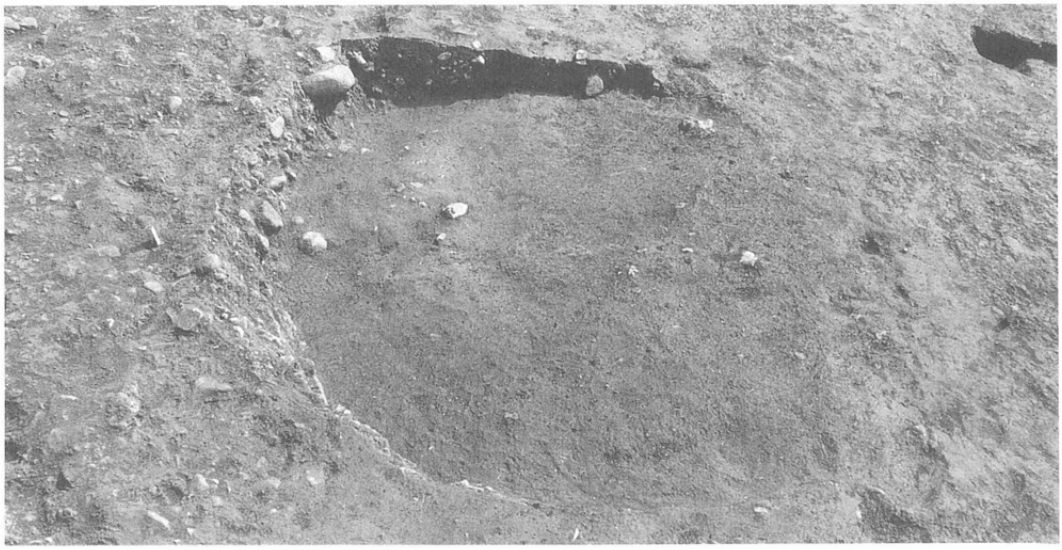
Ｈ６号住居跡（縄文時代）



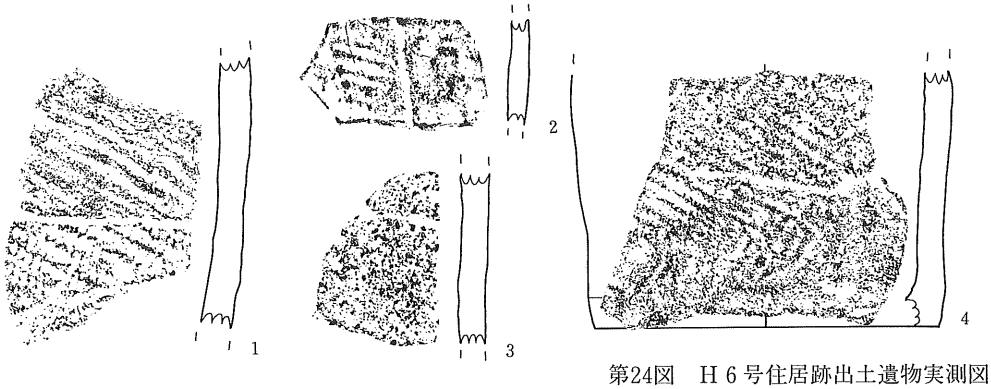
1 黒褐色 10YR2/1 焼土・炭化物含む 粘性弱い
2 黒色 10YR2/1 焼土粒多く含む 粘性弱い
3 暗褐色 10YR3/4 白色粒多く含む しまり粘性あり
4 暗褐色 10YR3/4 1～2cmの小石含む しまり粘性あり
5 褐色土 10YR4/6 白色粒含む しまり粘性あり
6 にぶい黄褐色 10YR5/4 白色粒多量に含む 小石含む しまり粘性あり
7 赤褐色 2.5YR4/8 焼土層 しまりあり

第23図　Ｈ６号住居跡実測図

遺構はＣ－こ－14グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.9m、東西3.2mを測り、平面形は隅丸方形を呈していたと思われる。壁高は床面から最大値で６cmと浅い。床面はやや堅さをもち、中央付近に炉が設置されている。炉は径64cmの円形で、厚さ13cmの焼土が堆積していた。



写15　Ｈ６号住居跡



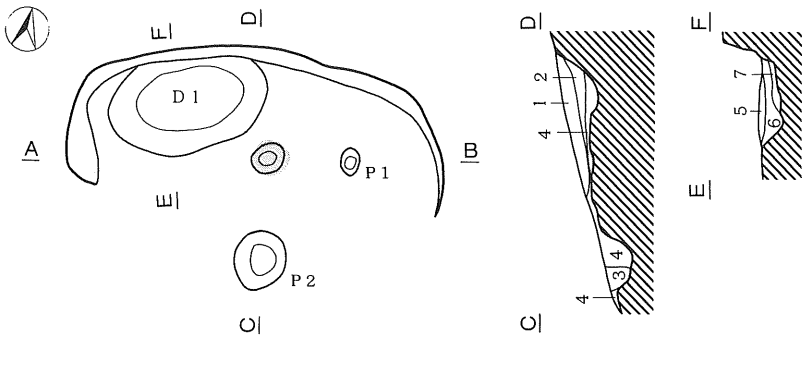
第24図　Ｈ６号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
1	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
2	縄文土器	－	－	0.5	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	不良	雲母
3	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石・小石
4	縄文土器	－	－	0.8	体部	10YR6/4 にぶい黄褐色	不良	金雲母・長石・小石

(単位　cm)

第９表　Ｈ６号住居跡出土遺物観察表

Ｈ７号住居跡（縄文時代）



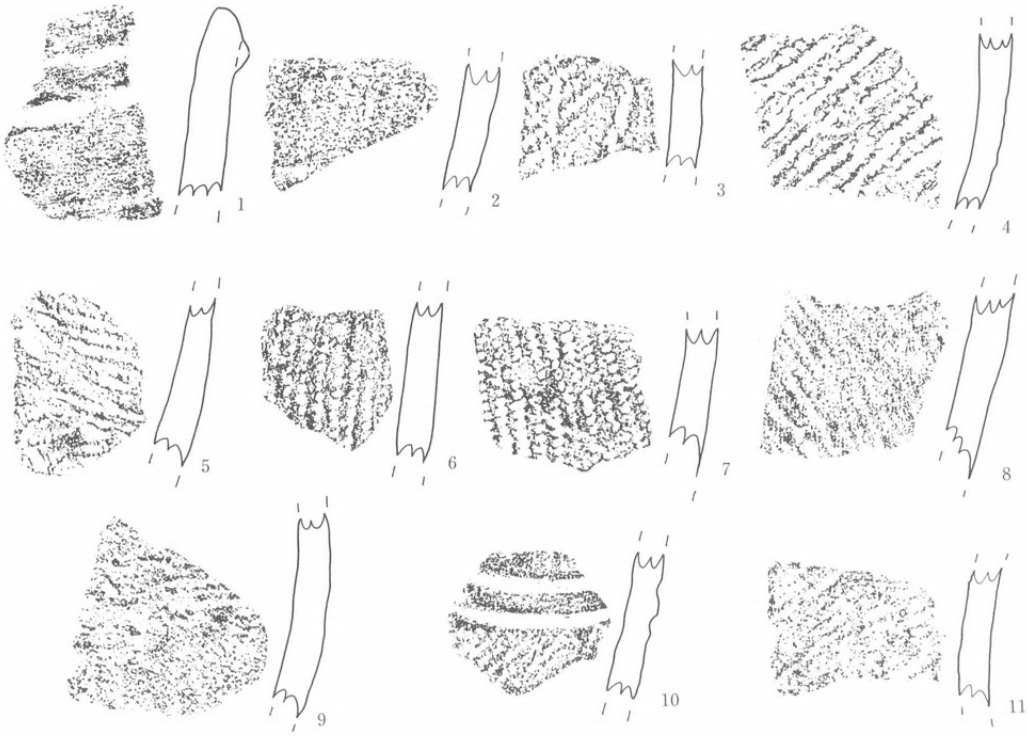
1 黒褐色 10YR3/1 白色粒多く含む しまり粘性あり
2 暗褐色 10YR3/3 焼土・炭化物僅かに含む しまり粘性あり
3 黒褐色 10YR3/1 白色粒・焼土・炭化物含む しまり粘性あり
4 暗褐色 10YR3/4 白色粒・小石多量に含む
5 暗褐色 10YR3/3 白色粒多く含む しまり粘性あり
6 褐色　10YR4/6 炭化物僅かに含む しまり粘性あり
7 黄褐色 10YR5/8 小石含む しまりなし

708.400
0　(1：80)　2m

第25図　Ｈ７号住居跡実測図

遺構はD－せ－15グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.2m、東西4.5mを測る。壁高は床面から最大値で38cmを測りやや外傾しながら立ち上がる。床面は地山の岩が露出した状態で凹凸の激しい状態である。ピットは2個確認でき、北壁際には土抗が認められる。炉はほぼ中央に設置されており、径28cmの円形で、厚さ6cmの焼土が堆積していた。

写16　H7号住居跡



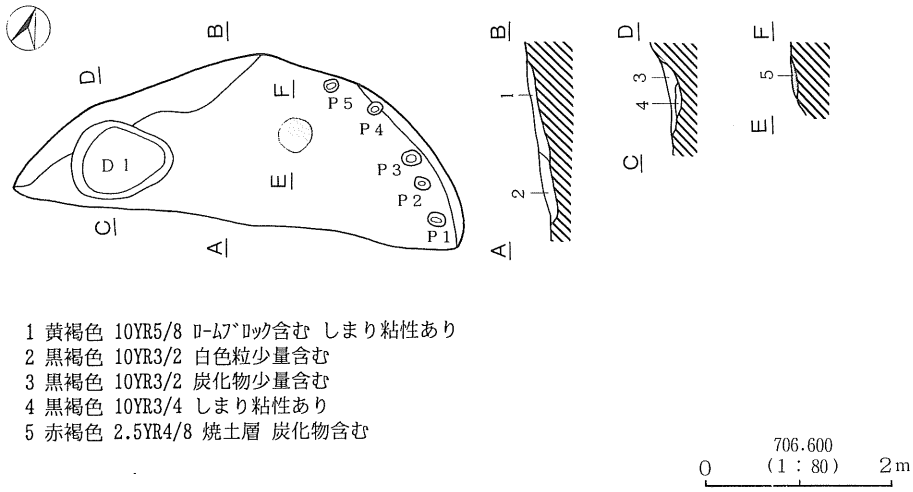
第26図　H7号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　　形	法　　量	厚さ	部　位	色　　調	焼成	備　　考
1	縄文土器	－	－	1.0	口縁	5YR6/8 橙色	良	長石
2	縄文土器	－	－	0.8	体部	2.5YR6/8 橙色	良	長石
3	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良好	雲母
4	縄文土器	－	－	0.7	体部	10R3/1 暗赤灰色	良	雲母
5	縄文土器	－	－	0.8	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母
6	縄文土器	－	－	0.8	体部	2.5YR6/8 橙色	良好	雲母
7	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
8	縄文土器	－	－	0.9	体部	2.5YR5/8 暗赤褐色	良	雲母・長石
9	縄文土器	－	－	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	不良	雲母
10	縄文土器	－	－	0.7	体部	7.5YR8/8 黄橙色	不良	雲母・長石
11	縄文土器	－	－	0.9	体部	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	長石

(単位　cm)

第10表　Ｈ７号住居跡出土遺物観察表

Ｈ８号住居跡（縄文時代）



1 黄褐色 10YR5/8 ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む しまり粘性あり
2 黒褐色 10YR3/2 白色粒少量含む
3 黒褐色 10YR3/2 炭化物少量含む
4 黒褐色 10YR3/4 しまり粘性あり
5 赤褐色 2.5YR4/8 焼土層 炭化物含む

第27図　Ｈ８号住居跡実測図

遺構はＣ－た－17グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構はその大半を失っており、確認されたのは北壁の一部と僅かな床面のみである。壁高は最大で12cmと浅く、やや外傾しながら立ち上がる。床面は地山の岩が露出しており、凹凸の激しい状態である。ピットは北壁に沿って５個確認でき、床面の西側には土抗が認められる。炉は住居のやや北壁よりに設置され、平面形は径32cmの円形で、厚さ８cmの焼土が堆積していた。

写17　Ｈ８号住居跡

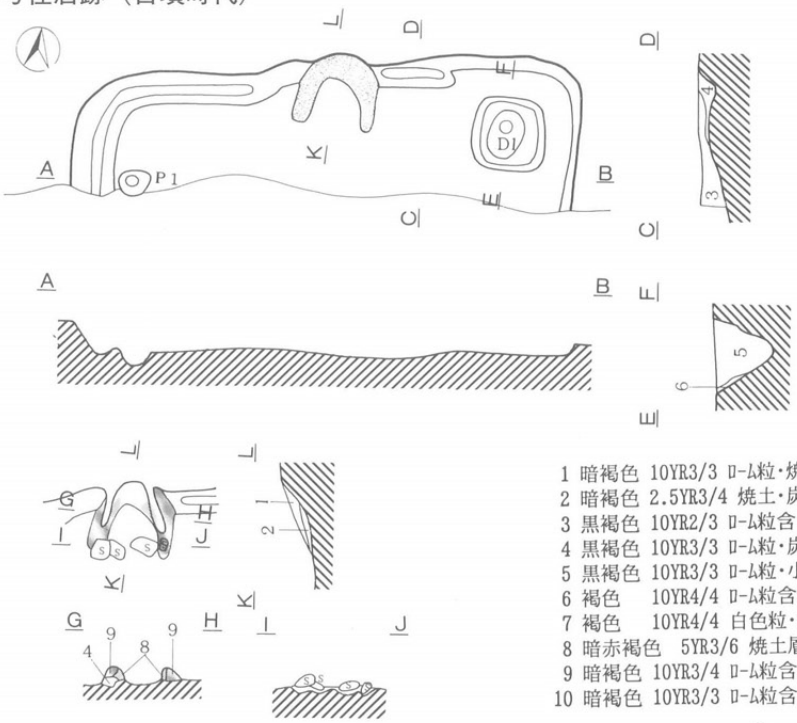
第28図　Ｈ８号住居跡出土遺物実測図

番号	器　種	器　形	法　量	厚さ	部　位	色　調	焼成	備　考
1	縄文土器	－	－	0.9	体部	7.5YR6/8 橙色	良	雲母・長石
2	縄文土器	－	－	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
3	縄文土器	－	－	0.7	体部	2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	金雲母・長石
4	縄文土器	－	－	0.7	体部	5YR1,7/1 黒色	不良	雲母

(単位　cm)

第11表　Ｈ８号住居跡出土遺物観察表

Ｈ９号住居跡（古墳時代）



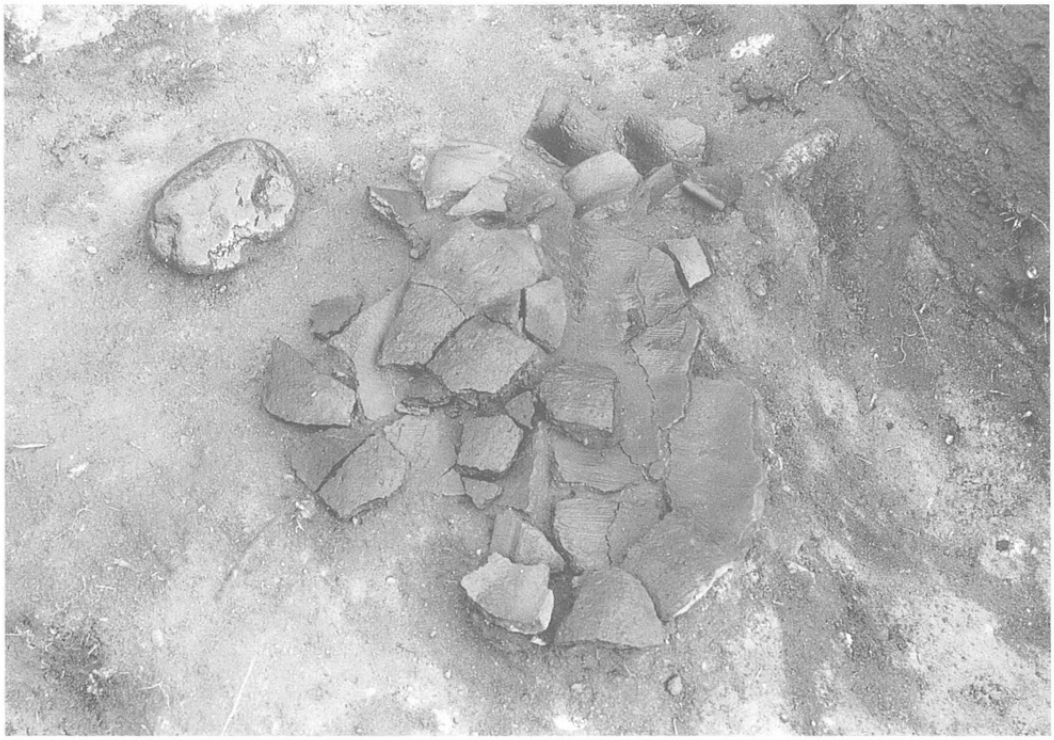
1 暗褐色 10YR3/3 ローム粒・焼土多く含む
2 暗褐色 2.5YR3/4 焼土・炭化物多く含む
3 黒褐色 10YR2/3 ローム粒含む
4 黒褐色 10YR3/3 ローム粒・炭化物含む
5 黒褐色 10YR3/3 ローム粒・小石含む
6 褐色　10YR4/4 ローム粒含む しまりなし
7 褐色　10YR4/4 白色粒・焼土含む しまりなし
8 暗赤褐色　5YR3/6 焼土層 しまりあり
9 暗褐色 10YR3/4 ローム粒含む しまりあり
10 暗褐色 10YR3/3 ローム粒含む しまりなし

702.200
0　(1：80)　2m

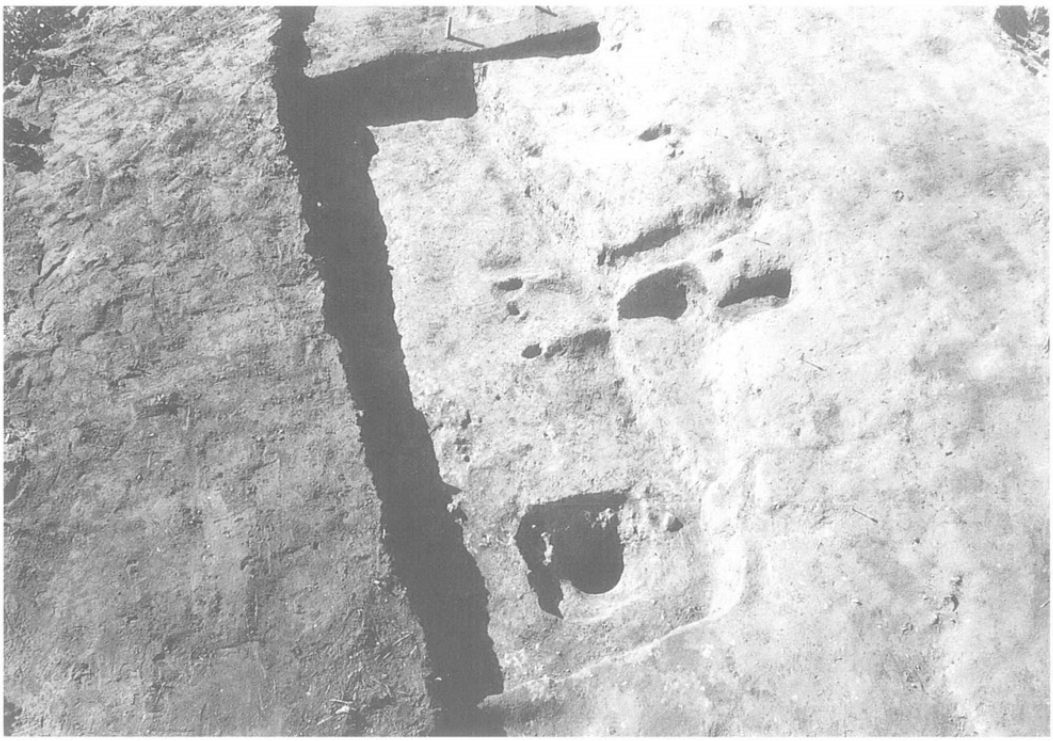
第29図　Ｈ９号住居跡実測図

遺構はＧ－う－９グリット付近に位置する。南側には谷が形成されており、遺構の３分の１はこの谷へ崩れ落ちている。規模は残存部で南北1.5m、東西5.4mを測り平面形は残存部の形態から隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で22cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。また北壁及び西壁際には周溝が巡らされ、床面は貼床されている。ピットは１個確認でき住居跡の北東隅には隅丸方形状の土坑が認められた。カマドは北壁中央に構築されており、比較的残りのよい状態であった。両袖は火床を囲むように構築されており、焚口部分には石が使用されている。火床に焼土・灰は認められなかった。

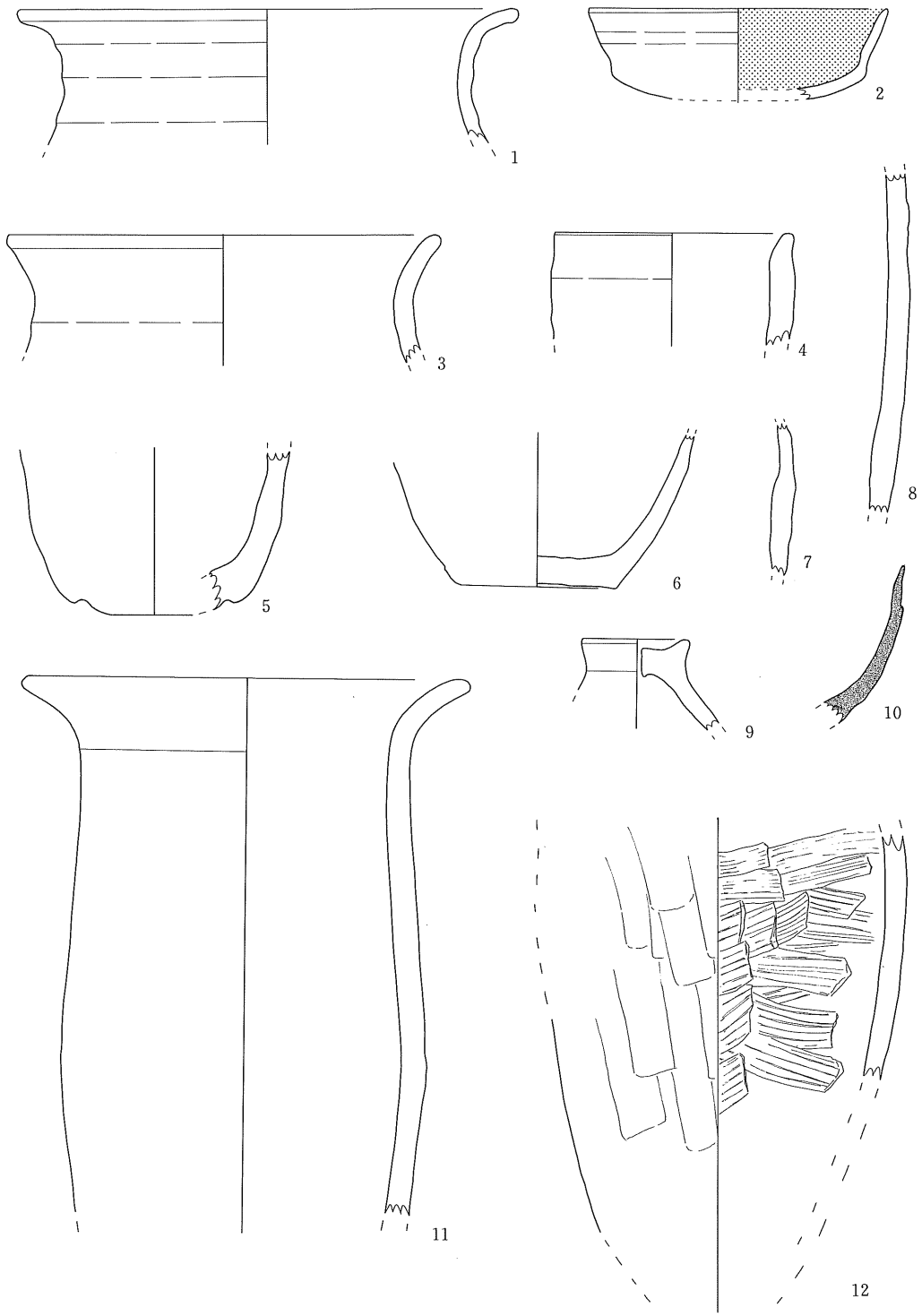
写18　Ｈ９号住居跡



写19　H 9 号住居跡遺物出土状態



写20　H 9 号住居跡



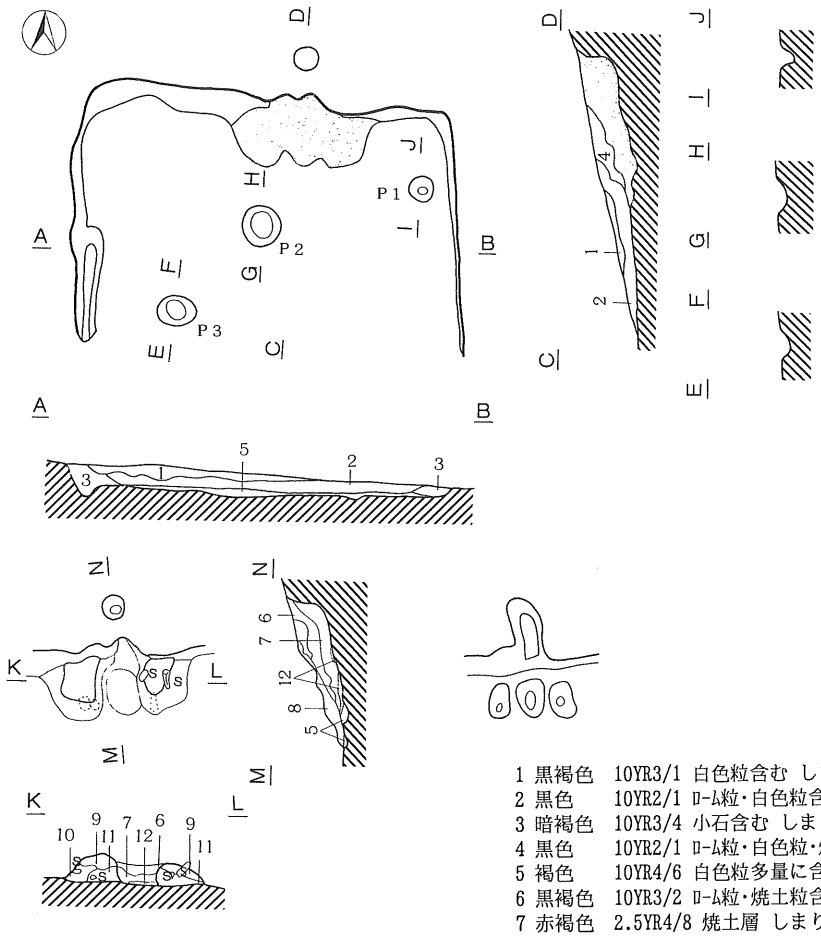
第30図　Ｈ９号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	甕	22.4	－	－	口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率 破片　焼成　良 色調　2.5YR6/6　橙色
2	土師器	坏	13.4	8.0	4.0	内面黒色処理　　口縁横ナデ 外面底部・体部ヘラ削り	残存率15％　焼成　良 色調　10YR3/2　黒褐色
3	土師器	甕	19.2	－	－	口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率　口縁の一部　　焼成 色調　5YR6/6橙色　　良
4	土師器	甕	10.8	－	－	口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率　口縁の一部 焼成 良 色調　2.5YR5/6明赤褐色
5	土師器	甕	－	7.2	－	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面体部ヘラ削り	残存率　底部周辺　焼成　良 色調　5YR5/4にぶい褐色
6	土師器	甕	－	7.0	－	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面底部ヘラ削り	残存率　底部周　焼成　良 色調　10YR8/4浅黄橙色
7	土師器	甕	－	－	－	外面ヘラ削り	残存率　破片　焼成　良 色調　2.5YR5/4にぶい赤褐
8	土師器	甕	－	－	－	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面ヘラミガキ	残存率 体部の一部 焼成　良 色調　10R5/6　赤色
9	土師器	器台	4.8	－	－	外面ミガキ	残存率40％　焼成　良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
１０	須恵器	椀	－	－	－	ロクロ調整	残存率25％　焼成良好 色調　7.5YR6/1灰色
１１	土師器	甕	9.9	－	－	内面横方向のヘラ削り 外面縦方向のヘラ削り	残存率70％　焼成　良好 色調　10YR3/4暗褐色
１２	土師器	甕	－	－	－	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面縦方向のヘラ削り	残存率25％　焼成　良 色調　10YR3/4暗褐色

(単位　cm)

第12表　Ｈ９号住居跡出土遺物観察表

H10号住居跡（古墳時代）



1 黒褐色　10YR3/1 白色粒含む しまり粘性僅かにあり
2 黒色　10YR2/1 ロームー粒・白色粒含む しまり粘性あり
3 暗褐色　10YR3/4 小石含む しまり粘性あり
4 黒色　10YR2/1 ロームー粒・白色粒・焼土粒含む
5 褐色　10YR4/6 白色粒多量に含む
6 黒褐色　10YR3/2 ロームー粒・焼土粒含む しまり粘性あり
7 赤褐色　2.5YR4/8 焼土層 しまり粘性弱い
8 黒色　10YR2/1 ロームー粒多く含む しまり粘性あり
9 黒褐色　10YR2/2 しまり粘性あり
10 黒褐色　10YR2/2 焼土粒僅かに含む しまり粘性ややあり
11 褐色　10YR4/6 しまり粘性ややあり
12 赤褐色　2.5YR2/3 焼土層 しまりなし

707.500
0　(1：80)　2m

第31図　H10号住居跡実測図

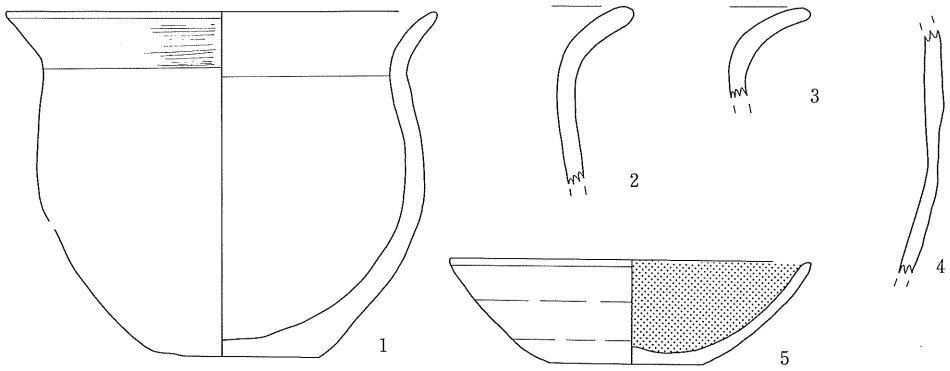
遺構はC－て－15グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.8m、東西4.1mを測り、平面形はやや隅丸の方形であったと思われる。壁高は床面から最大値で42cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は貼床されており、北西コーナーから西壁にわたって周溝が認められる。ピットは3個確認できたが、主柱穴であるかは確定できない。カマドは北壁のほぼ中央に構築されており、比較的残りのよい状態である。両袖は粘土で構築され、一部であるが煙道の天井部も残存している。火床には厚さ4cmの焼土が堆積していた。

写21　H10号住居跡遺物出土状態

写22　H10号住居跡

写23　H10号住居跡カマド

写24　H10号住居跡堀方



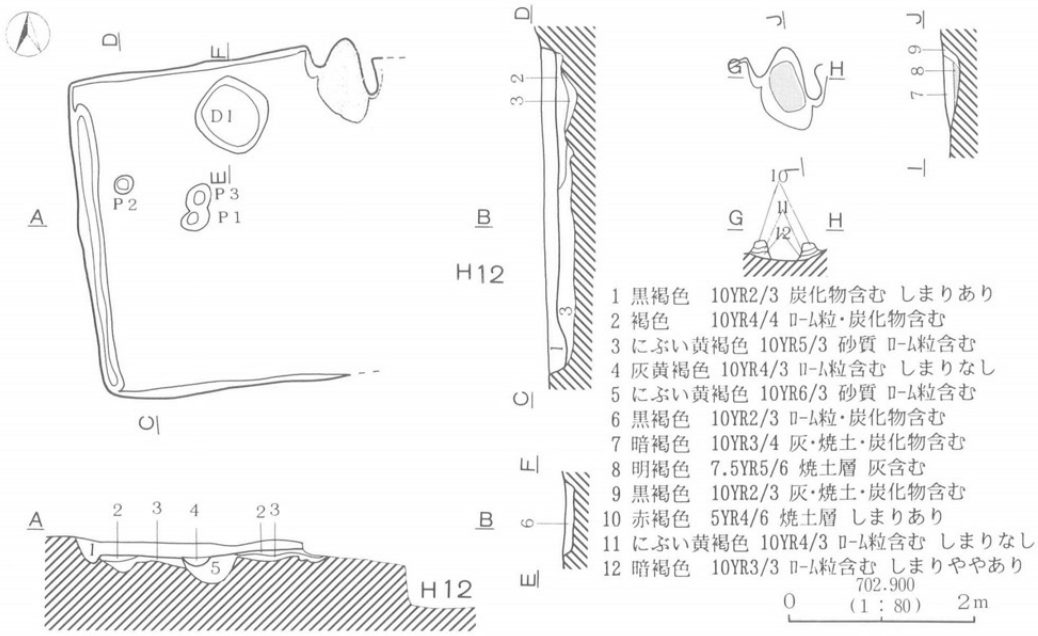
第32図　H10号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	甕	17.2	6.7	13.6	口縁横ナデ 外面ヘラ削り	残存率75％　焼成　良好 色調　7.5YR4/8赤色
2	土師器	甕	－	－	－	口辺横ナデ	残存率10％　焼成 良好 色調　5YR7/6橙色
3	土師器	甕	－	－	－	口辺横ナデ	残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　5YR4/2灰褐色
4	土師器	甕	－	－	－	外面ヘラ削り	残存率　体部の一部 焼成 良 色調　2.5YR5/6明赤褐色
5	土師器	坏	14.4	4.8	4.9	内面黒色処理 底部ヘラ削り	残存率85％　焼成　良 色調　7.5YR7/8黄橙色

(単位　cm)

第13表　H10号住居跡出土遺物観察表

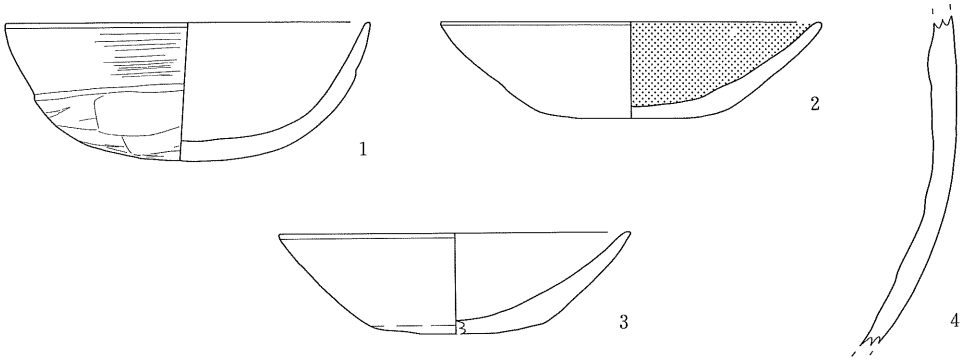
H11号住居跡（古墳時代）



第33図　H11号住居跡実測図

写25　H11号住居跡

遺構はH－こ－1グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は残存部で南北3.5m、東西2.2mを測り、平面形は方形を呈していたと思われる。壁高は最大値で15cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床は貼床されており、西壁際には周溝が認められる。ピットは3個確認でき、北壁よりに土抗が存在する。カマドは北壁に構築されており、僅かだが粘土で構築された袖が確認できた。火床には灰・焼土は認められなかった。



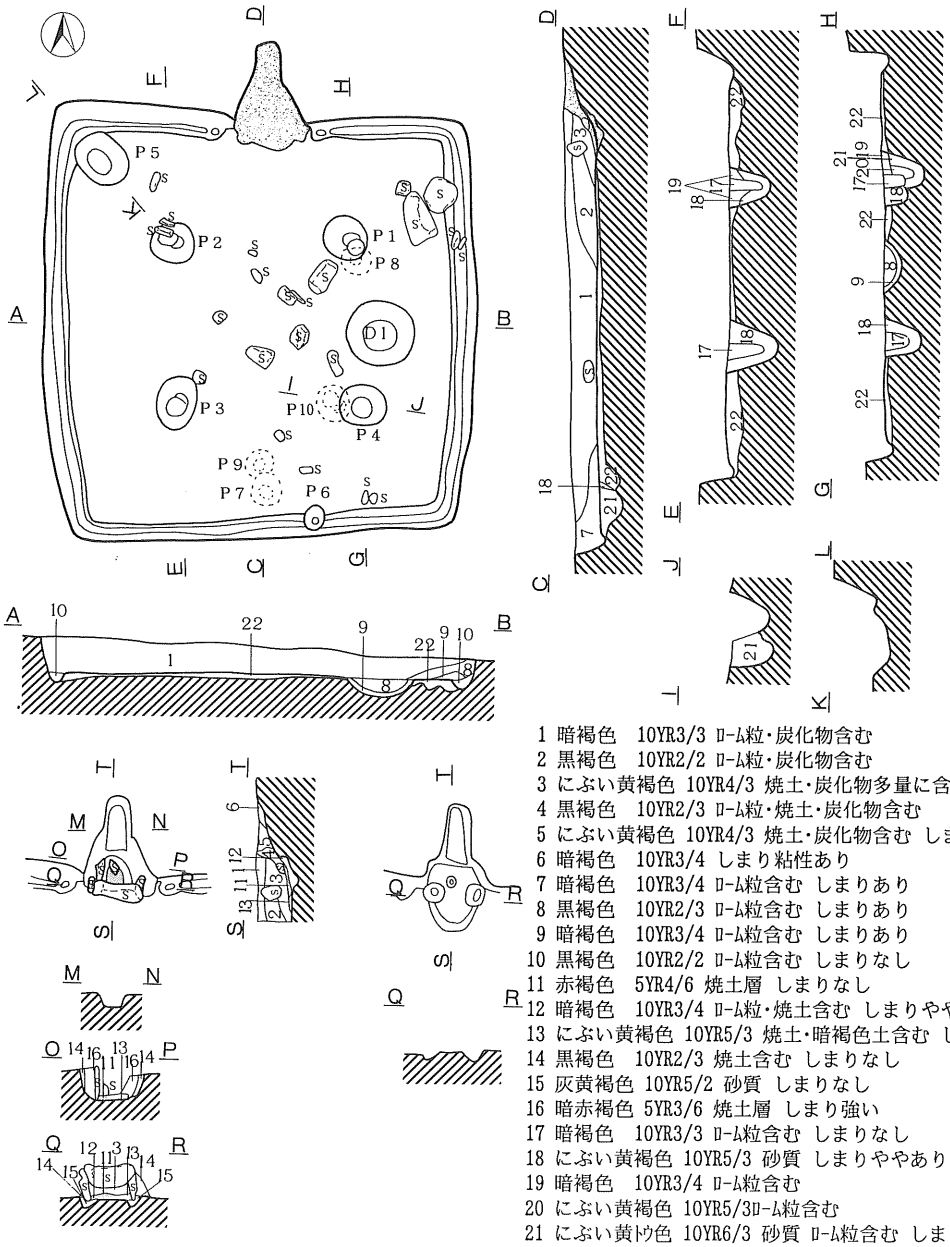
第34図　H11号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	坏	14.5	7.5	4.3	内面ミガキ 口縁横ナデ　外面体部ヘラ削り	残存率70%　焼成　良好 色調　　5YR6/6橙色
2	土師器	坏	14.1	6.8	3.9	内面ミガキ・黒色処理 外面ヘラ削り	残存率40%　焼成　良好 色調　7.5YR5/4にぶい褐色
3	土師器	坏	15.3	6.9	3.6	内面ミガキ 外面ヘラ削り後ヘラミガキ	残存率20% 焼成 良好 色調　7.5YR5/4にぶい褐色
4	土師器	甕	－	－	－	内面ミガキ	残存率体部の一部　焼成　良 色調　7.5YR6/6橙色

(単位　cm)

第14表　H11号住居跡出土遺物観察表

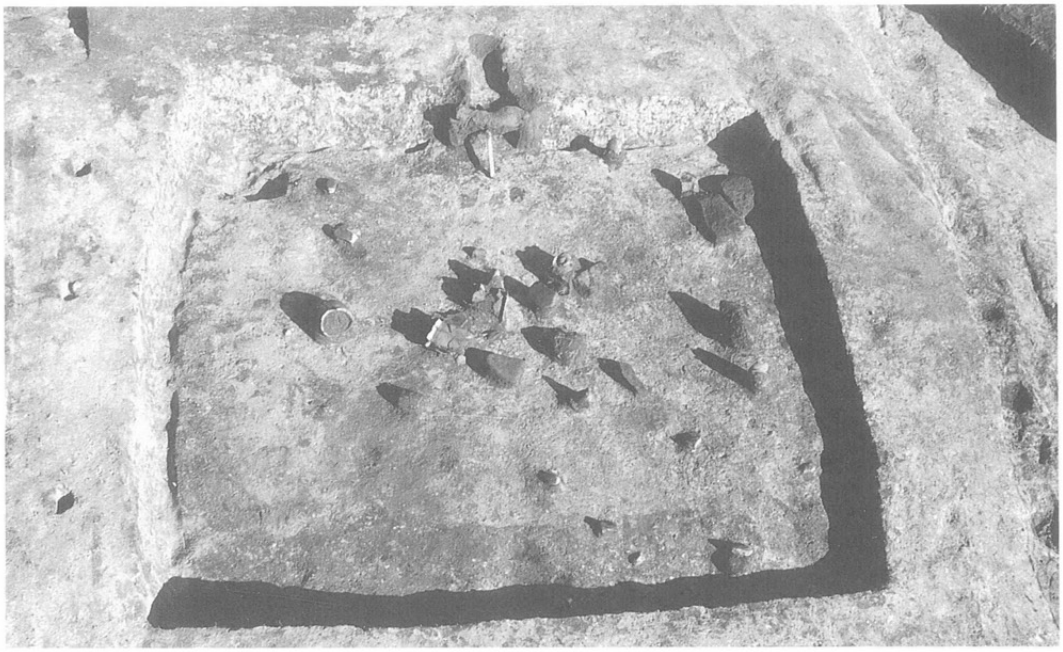
H12号住居跡（古墳時代）



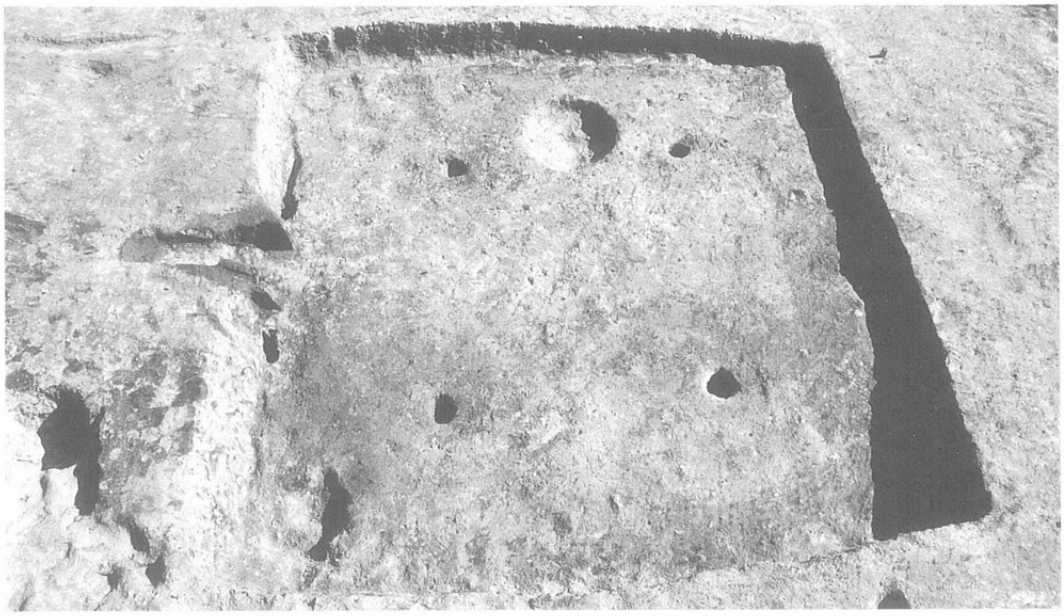
第35図　H12号住居跡実測図

遺構はH－け－2グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は南北5.3m、東西4.6mの方形を呈する。壁高は最大値で28cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は貼床されており、

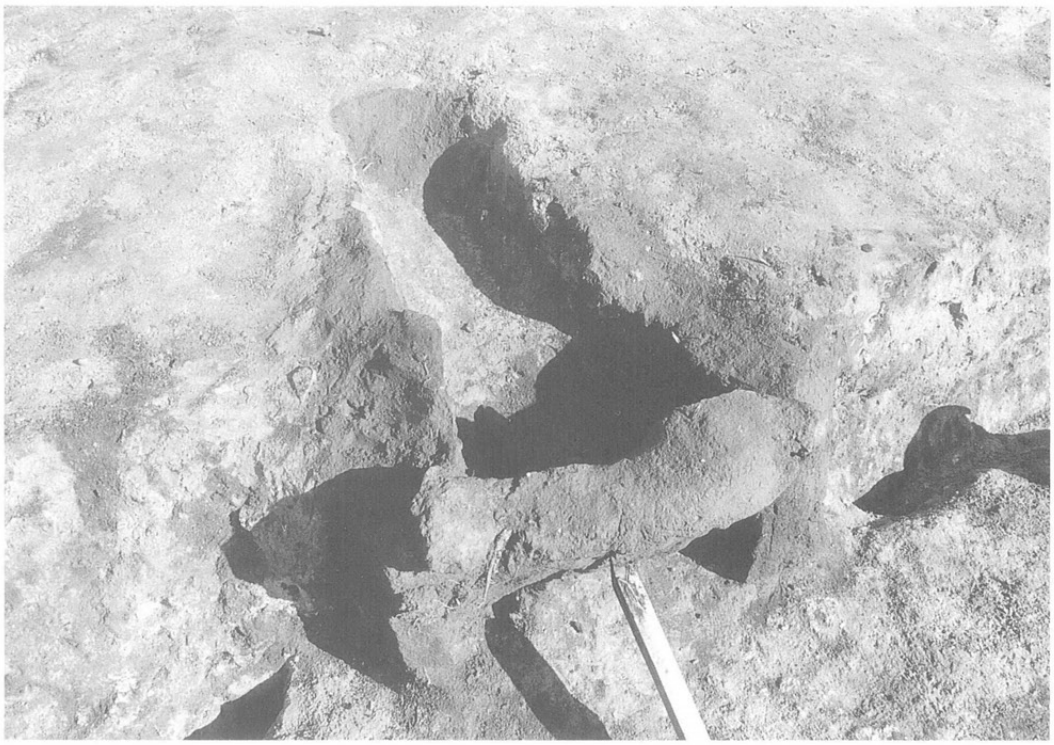
壁際には周溝が巡らされている。ピットは床面上で６個確認でき、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴である。またＰ１とＰ４のほぼ中間に土抗が認められる。カマドは北壁中央に構築されており、良好な状態であった。カマド焚口部分の左右には扁平な石を使用し、その上に天井石が乗せられている。火床は厚さ８㎝の焼土が堆積していた。



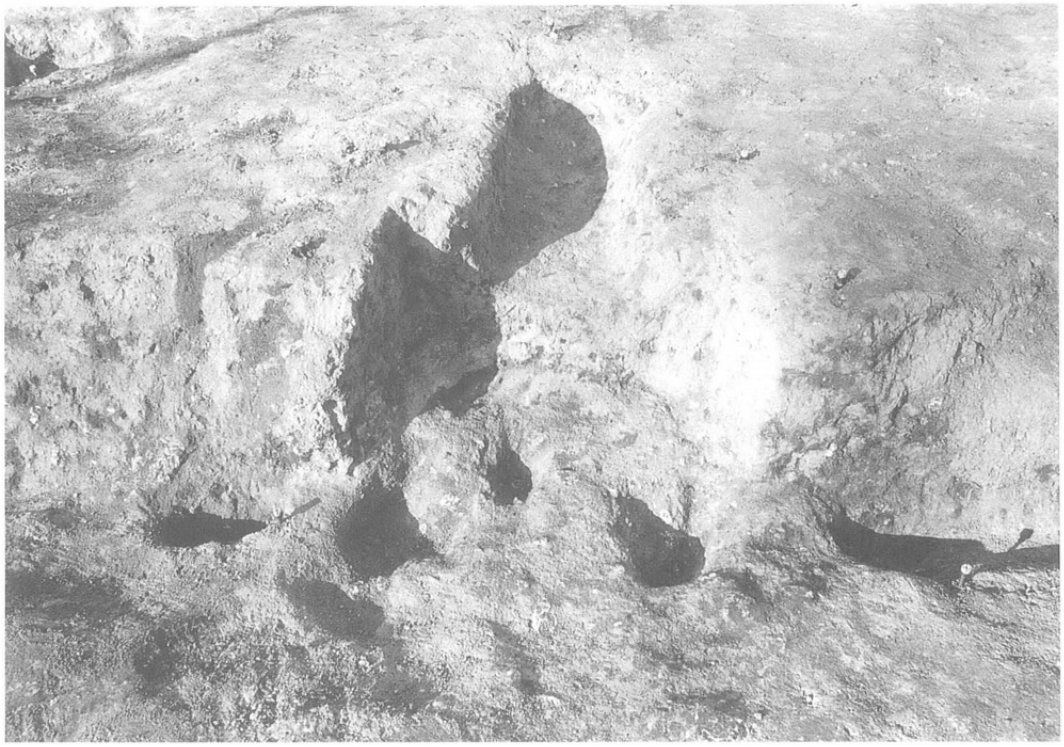
写26　H12号住居跡遺物出土状態



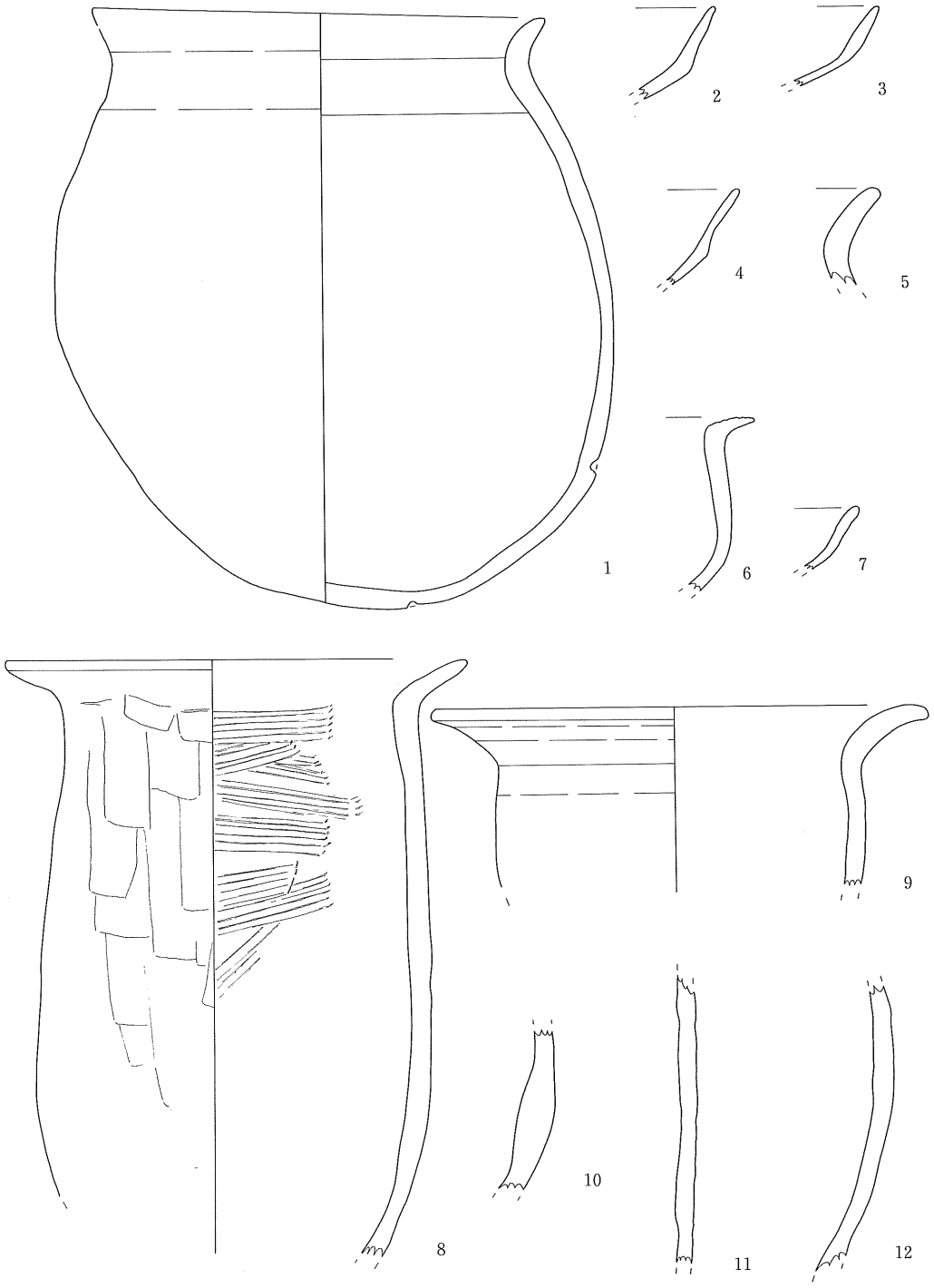
写27　H12号住居跡



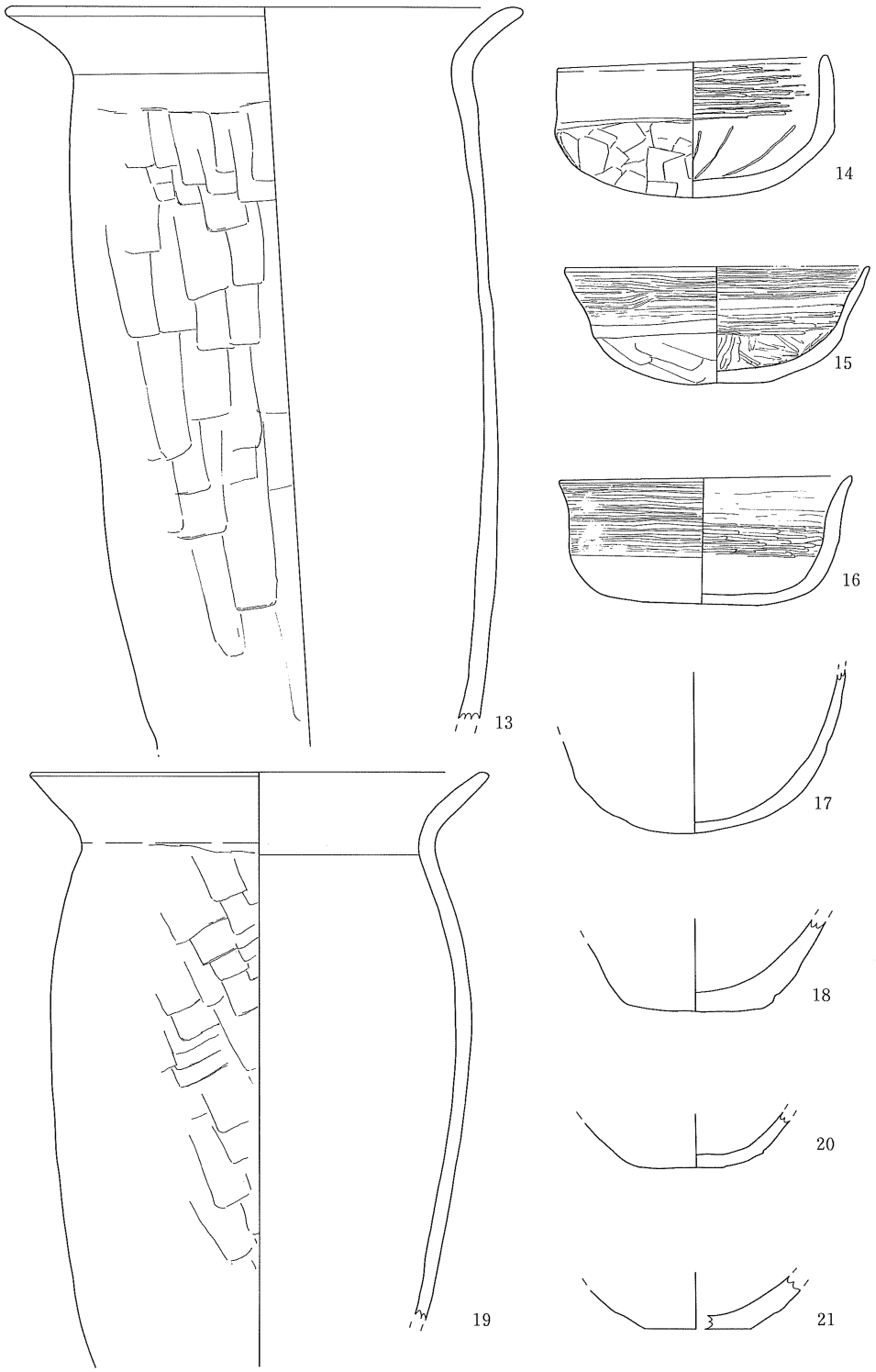
写28　H12号住居跡カマド



写29　H12号住居跡カマド堀方



第36図　H12号住居跡出土遺物実測図



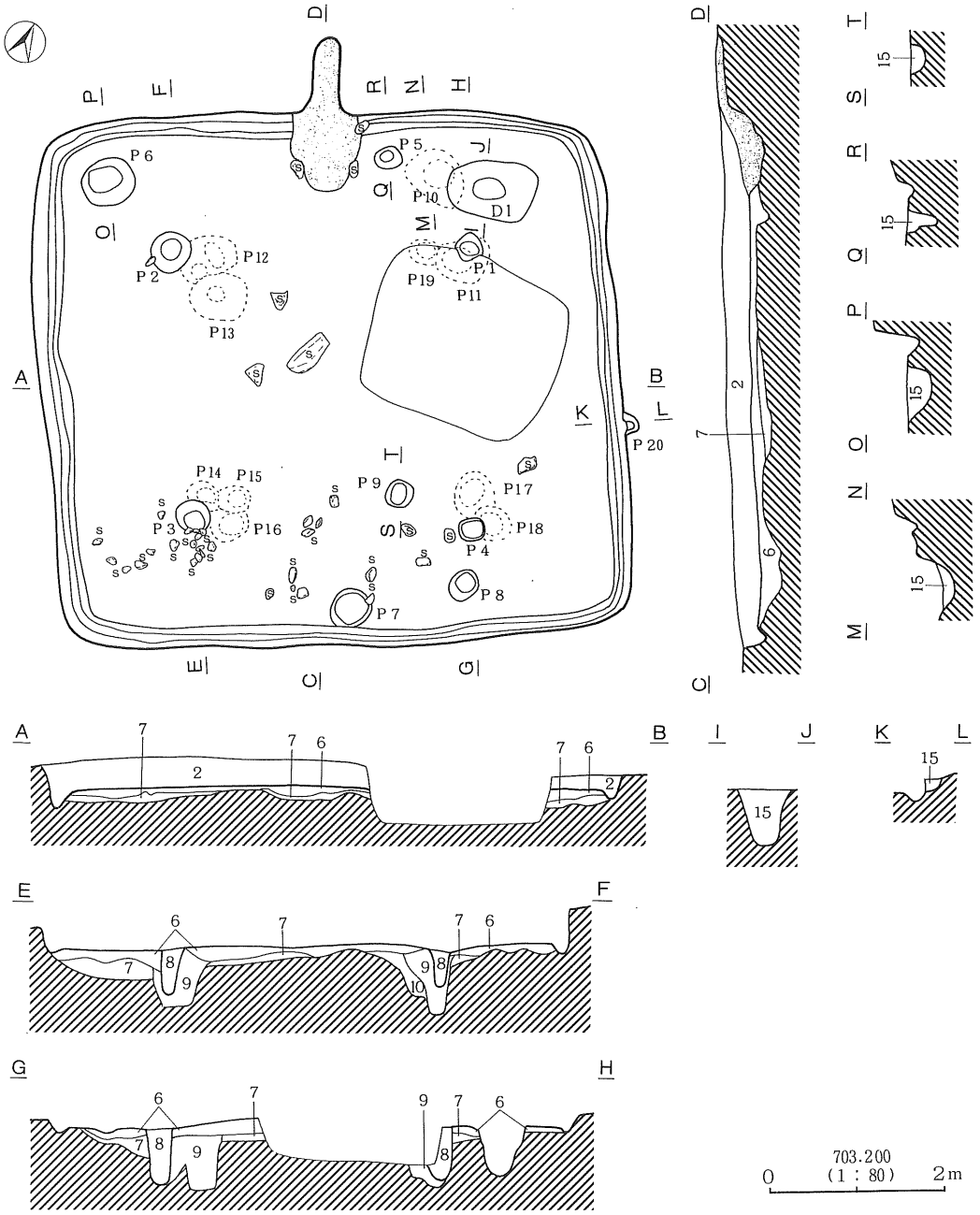
第37図　H12号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	壺	19.6	10.0	26.7	内面ヘラミガキ 外面ヘラ削り後ミガキ	残存率95％　焼成　良好 色調　10YR6/4にぶい黄橙色
2	土師器	坏	—	—	—	口縁横ナデ	残存率10％　焼成 良好 色調　7.5YR6/6橙色
3	土師器	坏	—	—	—	口縁横ナデ	残存率10％　焼成　良好 色調　5YR6/6橙色
4	土師器	坏	—	—	—	口辺横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率20％　焼成　良好 色調　10YR8/3浅黄橙色
5	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ 外面ミガキ	残存率15％　焼成　良 色調　7.5YR6/8橙色
6	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラミガキ	残存率10％　焼成良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色
7	土師器	坏	—	—	—	口縁横ナデ	残存率20％　焼成良 色調　5YR6/4にぶい橙色
8	土師器	甕	22.2	—	—	内面クシ痕の残るヘラ削り 外面体部ヘラ削り	残存率80％　焼成　良 色調　5YR5/6明赤褐色
9	土師器	甕	21.8	—	—	外面　縦方向ヘラ削り	残存率口縁の一部 焼成　良 色調　10Y5/8赤色
10	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラ削り	残存率　破片　焼成　良好 色調　7.5YR4/4褐色
11	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラ削り 外面　縦方向ヘラ削り	残存率　破片　焼成　良 色調　2.5Y3/1黒褐色
12	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラ削り 外面縦方向のヘラ削り	残存率　破片　焼成　良好 色調　7.5YR7/8黄橙色
13	土師器	甕	22.6	—	—	口縁横ナデ 外面縦方向のヘラ削り	残存率85％　焼成　良好 色調　5YR6/6橙色
14	土師器	坏	11.9	— 丸底	6.5	内面ヘラミガキ 口縁横ナデ　外面ヘラ削り	残存率75％　焼成　良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
15	土師器	坏	13.2	4.2	5.0	内面ヘラミガキ 口縁横ナデ　外面ヘラ削り	残存率40％　焼成　良好 色調　10YR7/4にぶい橙色
16	土師器	坏	12.9	8.4	5.7	内面ヘラ削り 口縁横ナデ　外面ヘラ削り	残存率85％　焼成　良好 色調　5YR5/6橙色
17	土師器	甕	—	— 丸底	—	外面ヘラ削り	残存率底部のみ　焼成良 色調　10YR5/8赤色
18	土師器	甕	—	6.4	—	内面ヘラ削り 外面・底部ヘラ削り	残存率　底部のみ　焼成　良 色調　2.5YR4/6赤褐色
19	土師器	甕	20.0	—	—	口辺横ナデ 外面体部縦方向・底部ヘラ削り	残存率底部のみ　焼成　良好 色調　7.5YR7/4にぶい橙色
20	土師器	甕	—	5.6	—	底部ヘラ削り	残存率 底部のみ 焼成　良好 色調　10Y6/6明赤褐色
21	土師器	甕	—	4.4	—	底部ヘラ削り	残存率　底部のみ　焼成　良 色調5YR6/6橙色

(単位　cm)

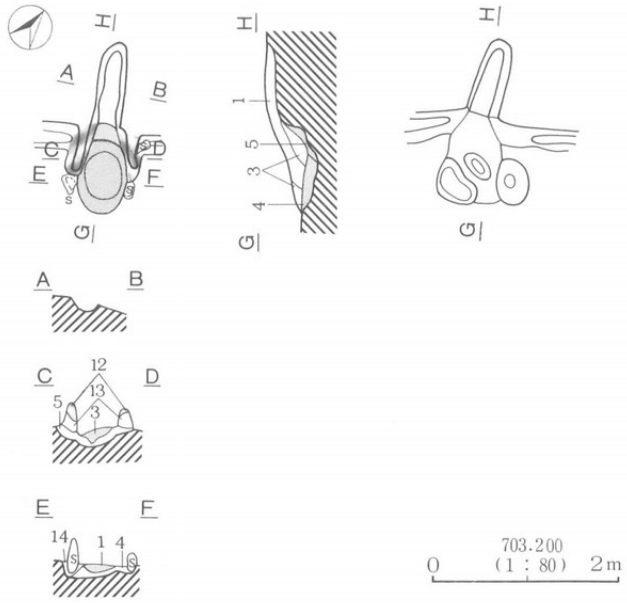
第15表　H12号住居跡出土遺物観察表

H13号住居跡（古墳時代）



1 褐色　10YR4/6 ローム ブロック・焼土・炭化物含む
2 暗褐色　10YR3/3 ローム粒・灰・焼土・炭化物含む
3 暗褐色　10YR3/4 ローム粒・灰・焼土・炭化物含む しまりなし
4 明赤褐色　5YR5/6 焼土層 しまりなし
5 にぶい赤褐色 10YR5/3 灰・焼土多量に含む
6 褐色　10YR4/6 ローム粒含む しまりあり
7 黄褐色　10YR5/6 ローム粒含む
8 暗褐色　10YR3/3 ローム粒含む しまりなし
9 にぶい黄褐色 10YR4/3 ローム粒含む しまりなし
10 にぶい黄褐色 10YR5/3 ローム粒含む しまりなし
11 暗褐色　10YR3/4 ローム粒・炭化物含む しまりなし
12 暗褐色　10YR3/3 焼土含む しまりなし
13 にぶい黄褐色 10YR4/3 焼土含む しまりなし
14 黒褐色　10YR2/3 ローム粒・白色粒含む
15 暗褐色　10YR3/4ローム粒含む しまり粘性あり

第38図　H13号住居跡実測図



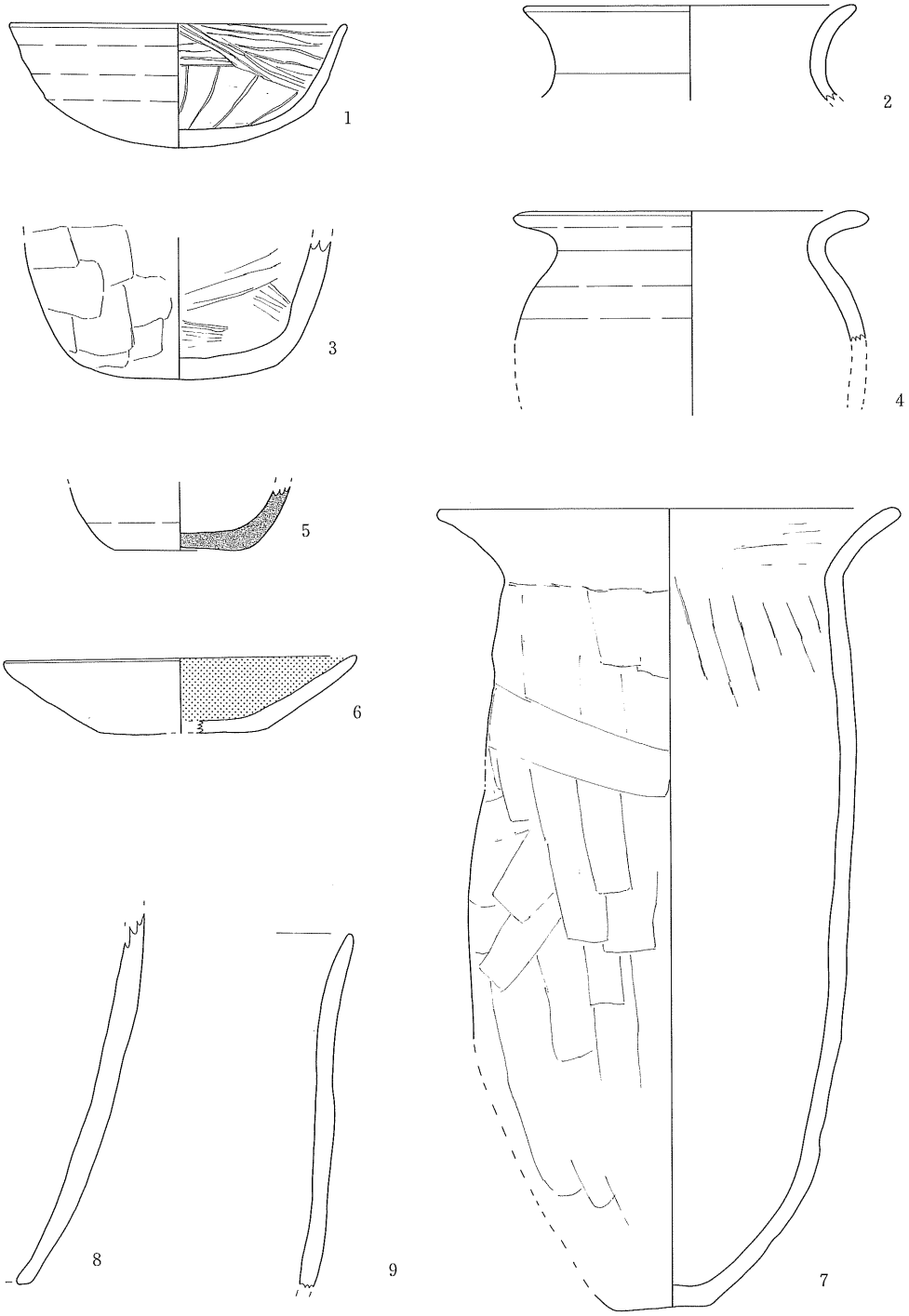
第39図　H13号住居跡カマド実測図

遺構はH－し－2グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は南北6.9m、東西6.6mを測り、平面形は方形を呈する。壁高は最大値で45cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は張床されており、壁際には周溝が巡らされている。ピットは床面上で9個確認でき、このうちP1～P4は主柱穴である。北西隅には土坑が認められる。カマドは北壁中央に構築されており両袖は粘土で作られている。火床は壁からやや内側に位置し、厚さ10cmの焼土が堆積していた。煙道は火床から立ち上がり、壁から80cm外へのびている。また堀方状態で主柱穴付近に2～3個のピットが切り合うように確認できたことから、H13号住居跡は少なくとも2回以上の建て替えがあったものと考えられた。

写30　H13号住居

写31　H13号住居跡カマド

写32　H13号住居跡カマド堀方

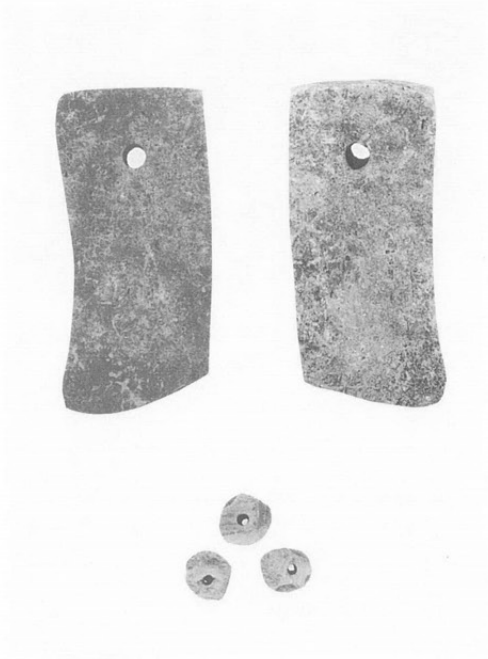


第40図　H13号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	坏	13.0	― 丸底	―	内面暗紋　口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率85％　焼成　良好 色調　10YR5/3にぶい黄褐色
2	土師器	甕	20.8	―	―	口縁ミガキ	残存率 口縁の一部　焼成 色調　7.5YR5/6橙色　良好
3	土師器	甕	―	7.0	―	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面・底部ヘラ削り	残存率　底部のみ　焼成　良 色調　10YR7/4にぶい黄橙色
4	土師器	甕	―	―	―	口縁横ナデ 外面横方向のヘラ削り	残存率15％　焼成　良好 色調　5YR4/4にぶい赤褐色
5	須恵器	不明	―	―	―	底部ヘラ削り	残存率　底部周辺　焼成　良 色調　7.5Y4/1褐灰色
6	土師器	坏	―	8.6	―	内面黒色処理及びミガキ 底部ヘラ削り	残存率35％　焼成　良好 色調　7.5YR5/8黄橙色
7	土師器	甕	20.2	4.6	34.4	口縁横ナデ 外面ヘラ削り	残存率85％　焼成　良 色調　5YR6/6橙色
8	土師器	甑	―	―	―	外面ヘラ削り	残存率体部の一部 焼成 良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色
9	土師器	甑	―	―	―	外面ヘラ削り	残存率15％　焼成　良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色

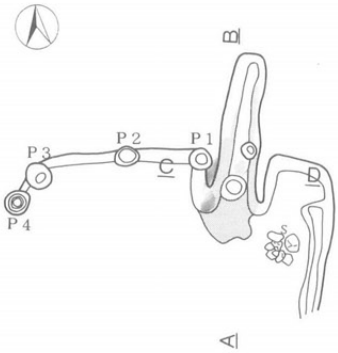
（単位　cm）

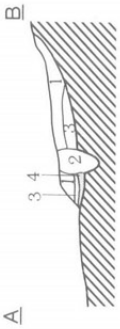
第16表　H13号住居跡出土遺物観察表

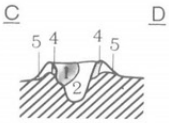


写33　H13号住居跡出土砥石・白玉

H14号住居跡（古墳時代）



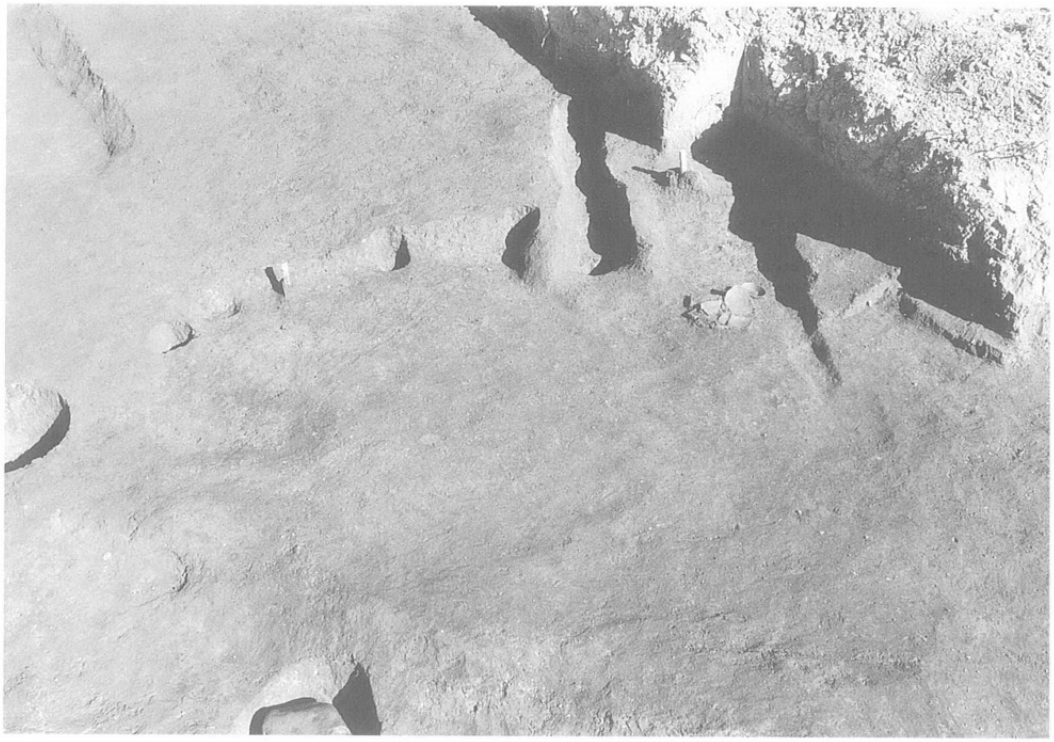




1 黒褐色　10YR3/2 焼土粒含む しまり粘性あり
2 暗褐色　10YR3/3 白色粒・焼土含む しまり粘性なし
3 赤褐色　10YR4/6 焼土層 黒色土ﾌﾞﾛｯｸ含む
4 赤色　5YR4/8 しまりなし
5 黄褐色　10YR5/8 白色粒含む しまりあり

704.650
0　(1：80)　2m

第41図　H14号住居跡実測図



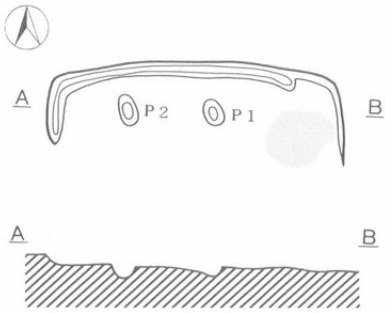
写34　H14号住居跡

遺構はＥ－と－３グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.5m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で30cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は堅く、東壁に沿って周溝が認められる。ピットは北壁沿いに４個確認できた。カマドは北壁の東よりに構築されており、両袖の状態は良好で、粘土で構築されている。火床は厚さ６cmの焼土が堆積しており、煙道は火床から立ち上がり、壁から外へ80cmのびる。

写35　H14号住居跡カマド

写36　H14号住居跡堀方

H15号住居跡（古墳時代）



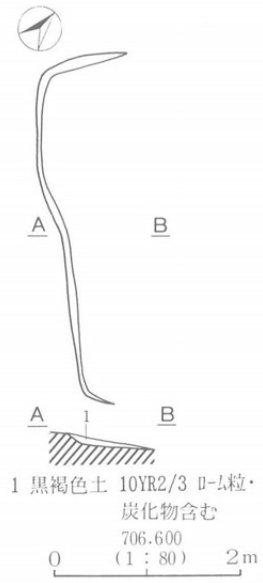
901.800
0　(1：80)　2m

第42図　H15号住居跡実測図

遺構はF－と－9グリット付近に位置する。調査規模は残存部で僅かに南北1.0m、東西3.2mを測る。壁高は5cmである。床面は堅く北壁から西壁にかけて周溝が見られる。ピットは2個確認でき、床面の東よりに焼土が認められた。

写37　H15号住居跡

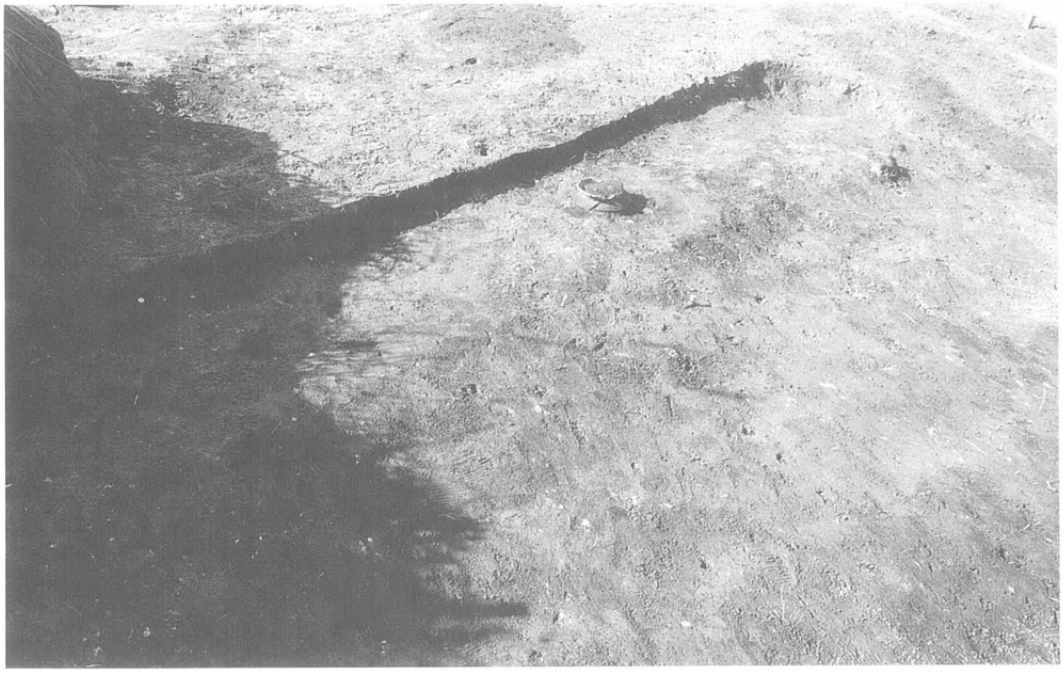
H16号住居跡（古墳時代）



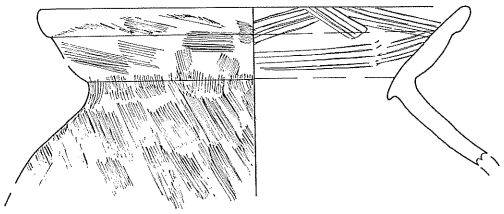
第43図　H16号住居跡実測図

写38　H16号住居跡遺物出土状態

遺構はH－き－10グリット付近に位置し、台地の北端にあたる。遺構は3分の2が谷に崩れ落ちており、調査規模は南北0.8m、東西3.7mと僅かである。壁高は最大で6㎝を測る。



写39　H16号住居跡



1

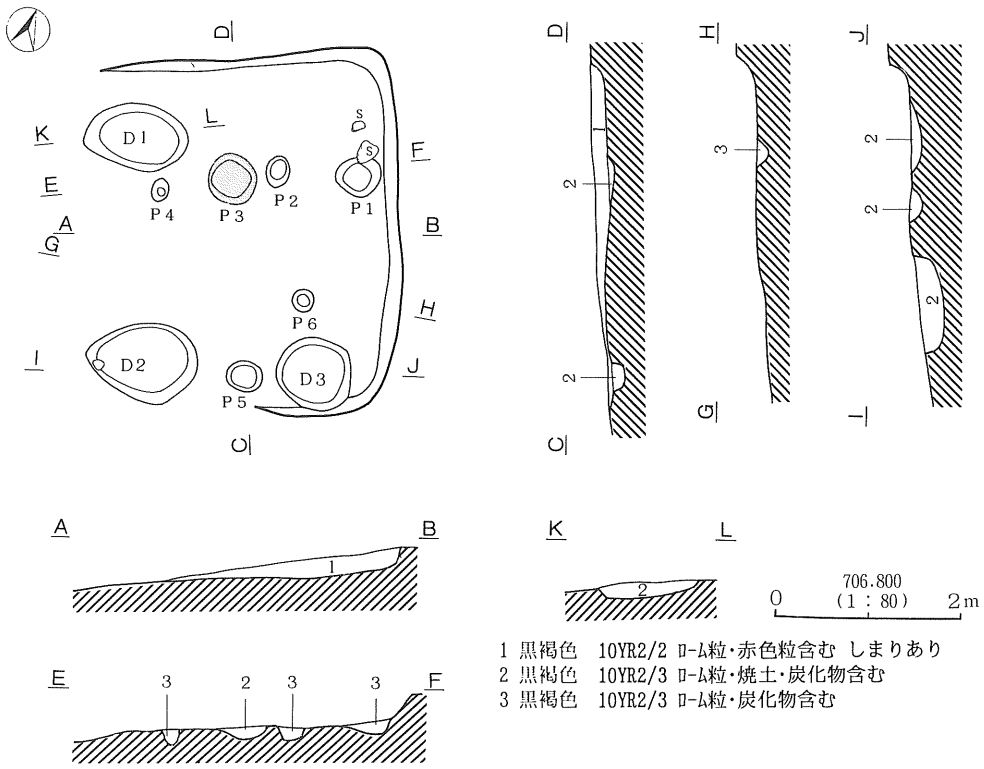
第44図　H16号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	甕	17.2	－	－	内面　刷毛目 外面　刷毛目	残存率20％　焼成　良好 色調　10YR4/2灰黄褐色

(単位　cm)

第17表　H16号住居跡出土遺物観察表

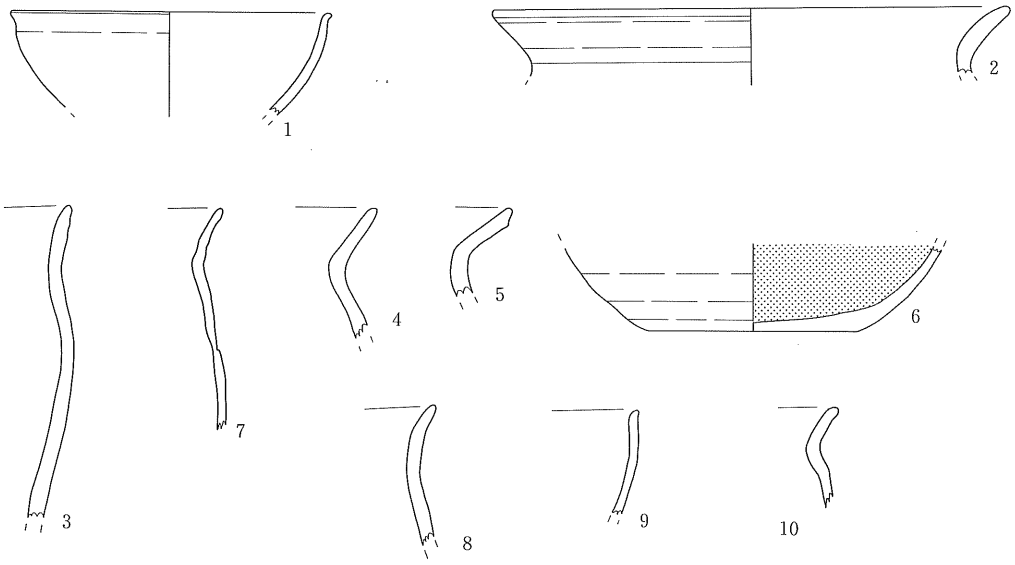
H17号住居跡（平安時代）



第45図　H17号住居跡実測図

遺構はD－す－14グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構は多くのピットと重複関係にあり、床面の多くを切られる。規模は残存部で南北3.9m、東西3.1mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で15cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、床面中央付近に焼土の分布が見られた。カマドなどの施設は認められなかった。

写40　H17号住居跡



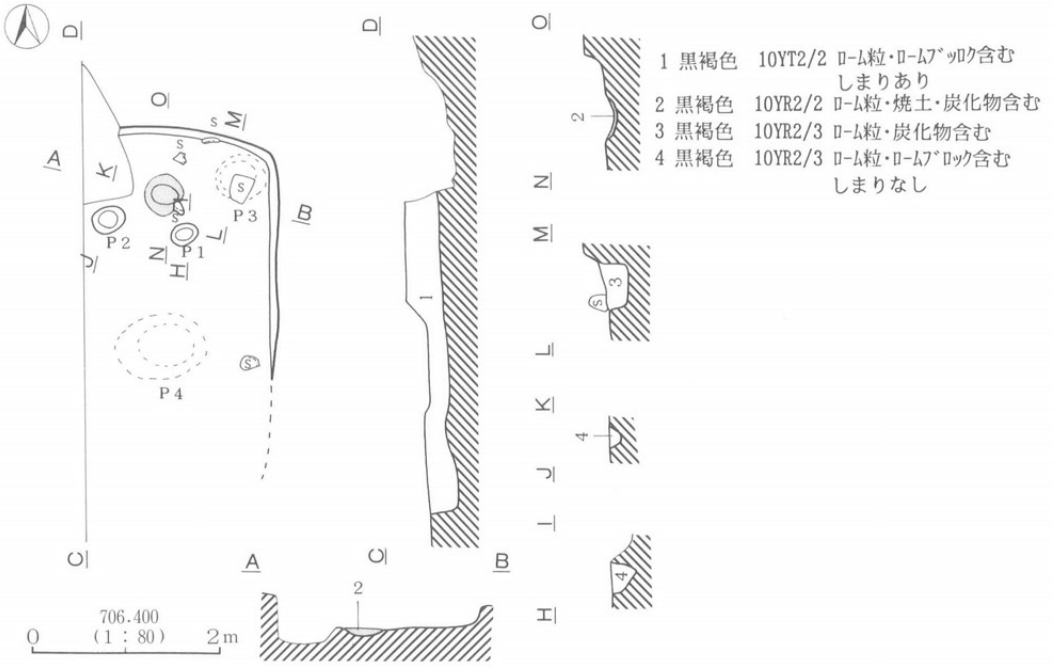
第46図　H17号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	坏	13.0	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　5YR5/8明赤褐色
2	土師器	甕	20.8	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/4にぶい褐色
3	土師器	甕	－	－	－		残存率 体部の一部　焼成 良 色調 7.5YR5/4にぶい褐色
4	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR4/6褐色
5	須恵器	甕	－		－		残存率　口縁の一部　　焼成 色調　7.5YR5/6明褐色　　良
6	土師器	坏	－	8.6	－	内面黒色処理 底部ヘラ削り	残存率　底部　焼成　良 色調　7.5YR7/8黄橙色
7	土師器	甕	－	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/6にぶい橙色
8	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR2/3暗褐色
9	土師器	甕	－	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/6にぶい橙色
１０	土師器	甕	－	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　5YR4/3にぶい赤褐色

(単位　cm)

第18表　H17号住居跡出土遺物観察表

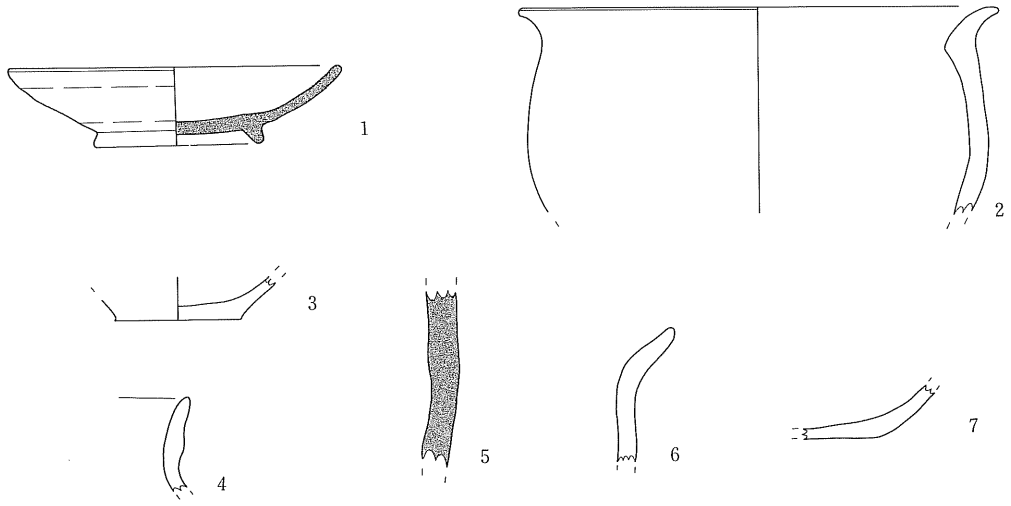
H18号住居跡（平安時代）



第47図　H18号住居跡実測図

遺構はD－せ－14グリット付近の調査区東端の緩斜面上に位置する。遺構の西側は調査区外となる。調査規模は南北2.4m、東西2.1mと実際の４分の１程度の調査面積にとどまった。壁高は床面から最大値で20cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、一部に焼土が認められた。ピットは４個確認でき、北東隅のＰ３から、ほぼ完形の灰釉陶器が出土した。

写41　H18号住居跡



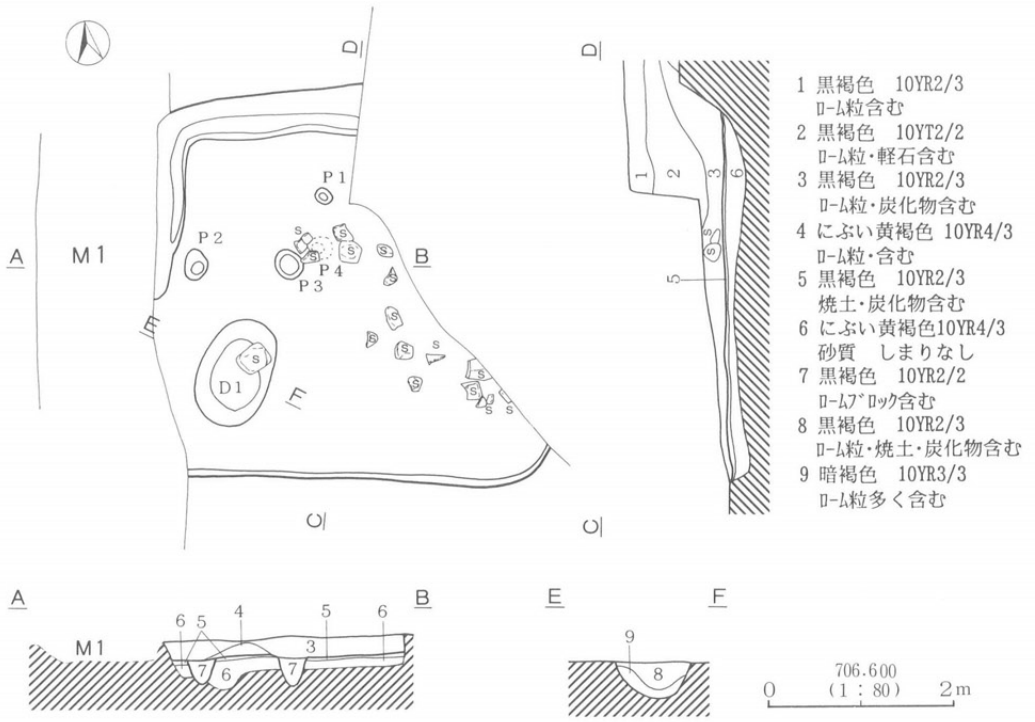
第48図　H18号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	灰釉陶器	高台付坏	13.2	6.7	3.2	底部　回転糸切り 高台張り付け	残存率98％　焼成良好 色調　2.5YR8/2灰白色
2	土師器	甕	13.8	－	－	口縁横ナデ	残存率15％　焼成　良 色調　5YR2/3暗赤褐色
3	土師器	坏	－	5.0	－	底部回転糸切り	残存率底部のみ　焼成 良 色調　10YR2/2黒褐色
4	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
5	須恵器	甕	－	－	－	外面　自然釉付着	残存率破片　焼成　良好 色調　7.5YR4/3褐色
6	土師器	甕	－	－	－	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成　良 色調　7.5YR6/4橙色
7	土師器	坏	－	－	－	底部ヘラ削り 内面黒色処理	残存率底部　焼成　良好 色調　7.5YR6/6橙色

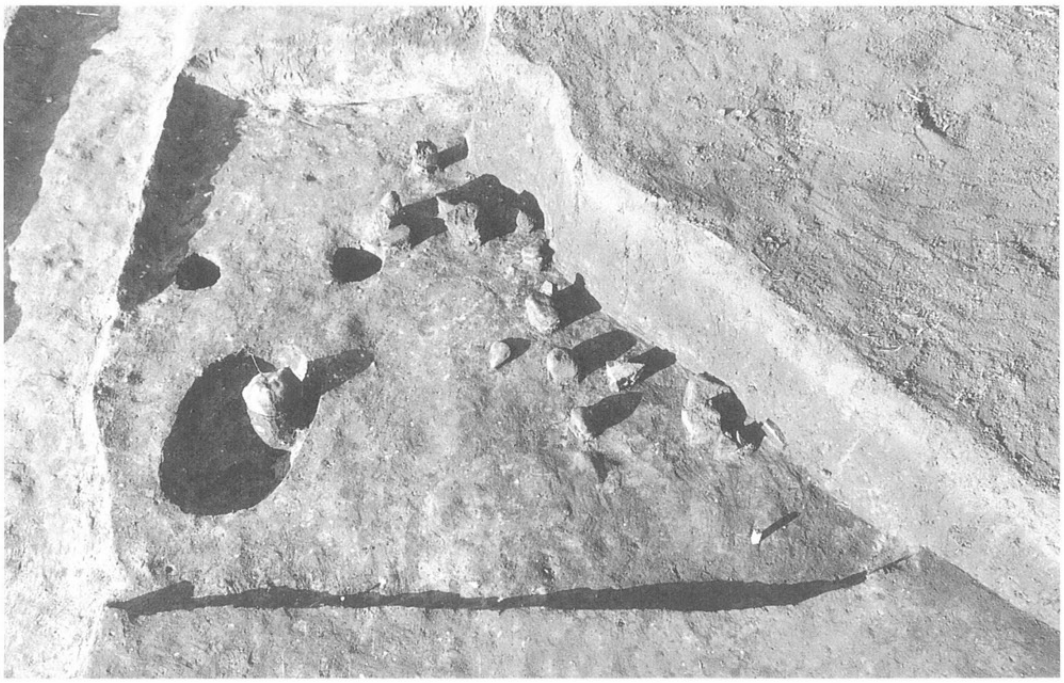
(単位　cm)

第19表　H18号住居跡出土遺物観察表

H19号住居跡（平安時代）



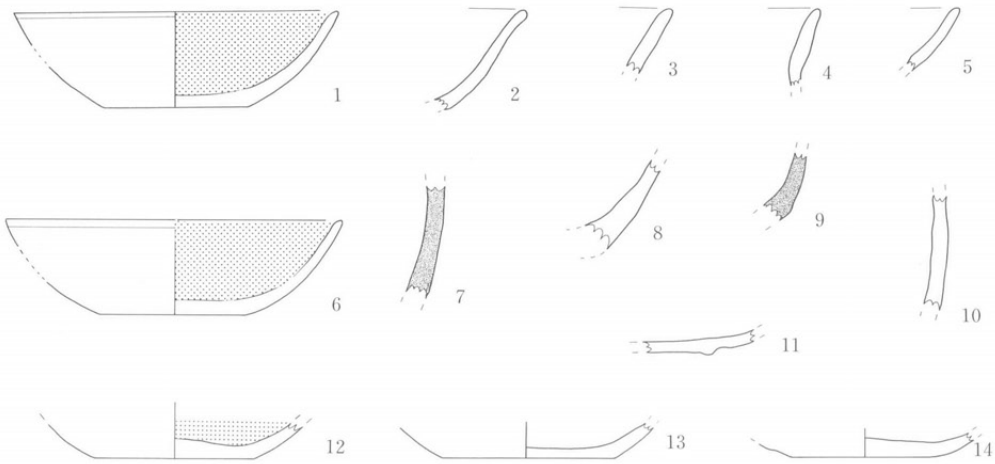
第49図　H19号住居跡実測図



写42　H19号住居跡

遺構はD－こ－18グリッド付近に位置する。遺構はM１と重複関係にあり西壁の上面を切られる。また北東隅は調査区外となる。調査規模は南北4.2m、東西3.8mを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は床面から最大値で45cmを測る。また北壁及び西壁には周溝が認められる。床面は貼床されており、中央付近には拳大の石が多く見られた。ピットは床面上で３個確認でき、南西壁際に楕円形の土抗が認められた。

写43　H19号住居跡堀方



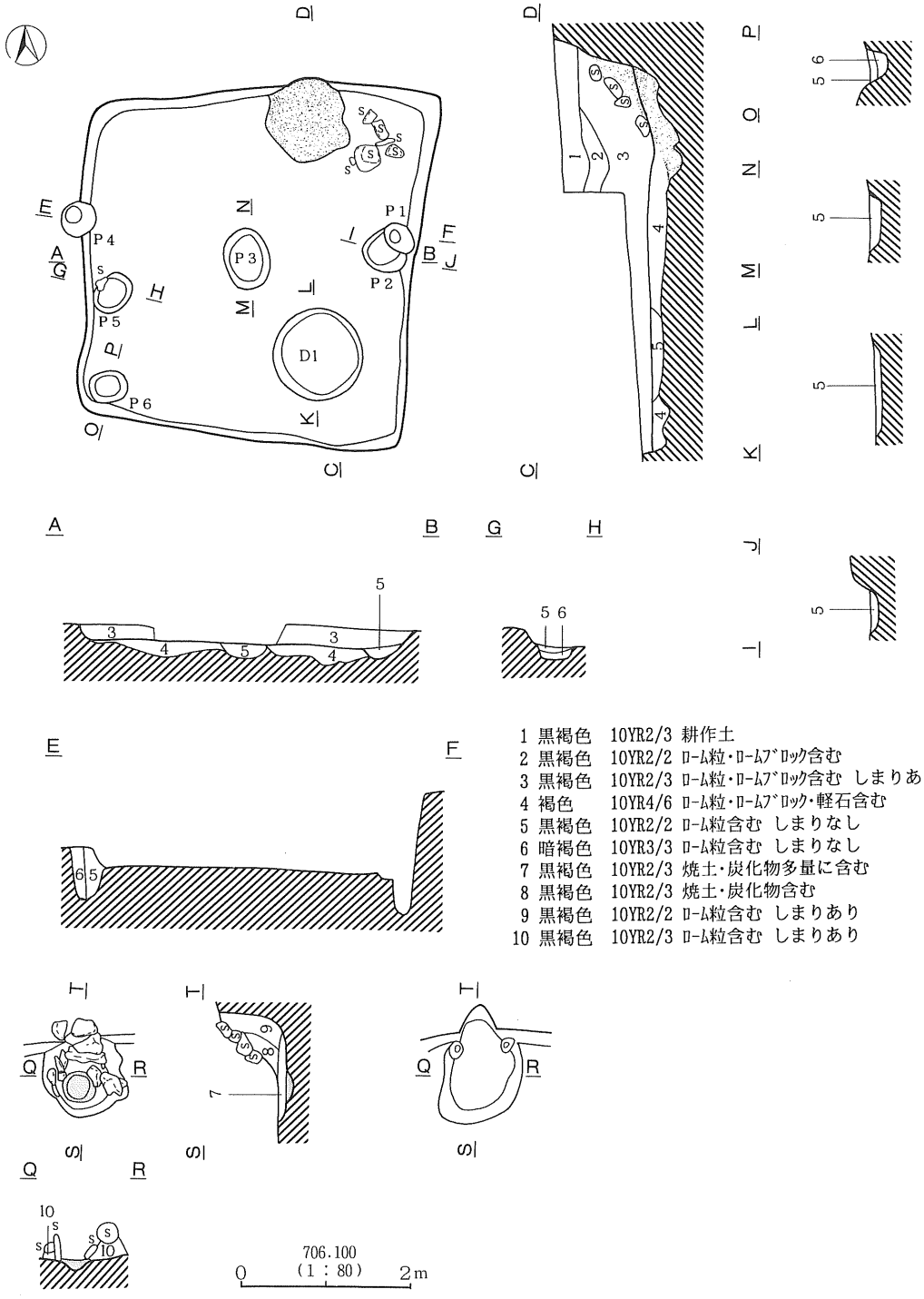
第50図　H19号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	坏	13.0	5.6	3.8	内面黒色処理 底部回転糸切り	残存率60％　焼成　良好 色調　10YR8/3浅黄橙色
2	土師器	坏	－	－	－		残存率　口縁の一部　　焼成 色調　5YR4/8赤褐色　　良好
3	土師器	坏	－	－	－		残存率 口縁の一部 焼成　良 色調　7.5YR5/3にぶい褐色
4	土師器	甕	－	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　5YR4/6赤褐色
5	須恵器	坏	－	－	－	外面タタキ痕	残存率　破片　焼成良好 色調　5Y5/1灰色
6	土師器	坏	13.5	5.5	4.0	内面黒色処理 底部回転糸切り	残存率60％　焼成　良好 色調　10YR7/3にぶい黄色
7	須恵器	坏	－	－	－		残存率　破片　焼成 良好 色調　7.5Y4/1灰色
8	土師器	坏	－	－	－		残存率　破片　焼成 良好 色調　7.5Y4/4褐色
9	須恵器	坏	－	－	－		残存率　破片　焼成 良好 色調　5Y5/1灰色
１０	土師器	甕	－	－	－	体部　ヘラ削り	残存率　破片　焼成 良 色調　5YR4/6赤褐色
１１	土師器	坏	－	－	－	内面黒色処理 底部回転糸切り	残存率 底部の一部　焼成 良 色調　10YR4/6褐色
１２	土師器	坏	－	6.4	－	内面黒色処理 底部回転糸切り	残存率　底部のみ　焼成　良 色調　5YR6/6橙色
１３	土師器	坏	－	6.8	－	底部　ヘラ削り	残存率底部の一部　焼成　良 色調　7.5YR7/4にぶい橙色
１４	土師器	坏	－	5.8	－	底部回転糸切り	残存率　底部のみ　焼成　良 色調　7.5YR7/3にぶい橙色

（単位　cm）

第20表　H19号住居跡出土遺物観察表

H20号住居跡（平安時代）



1 黒褐色　10YR2/3 耕作土
2 黒褐色　10YR2/2 ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む
3 黒褐色　10YR2/3 ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む しまりあり
4 褐色　10YR4/6 ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・軽石含む
5 黒褐色　10YR2/2 ﾛｰﾑ粒含む しまりなし
6 暗褐色　10YR3/3 ﾛｰﾑ粒含む しまりなし
7 黒褐色　10YR2/3 焼土・炭化物多量に含む
8 黒褐色　10YR2/3 焼土・炭化物含む
9 黒褐色　10YR2/2 ﾛｰﾑ粒含む しまりあり
10 黒褐色　10YR2/3 ﾛｰﾑ粒含む しまりあり

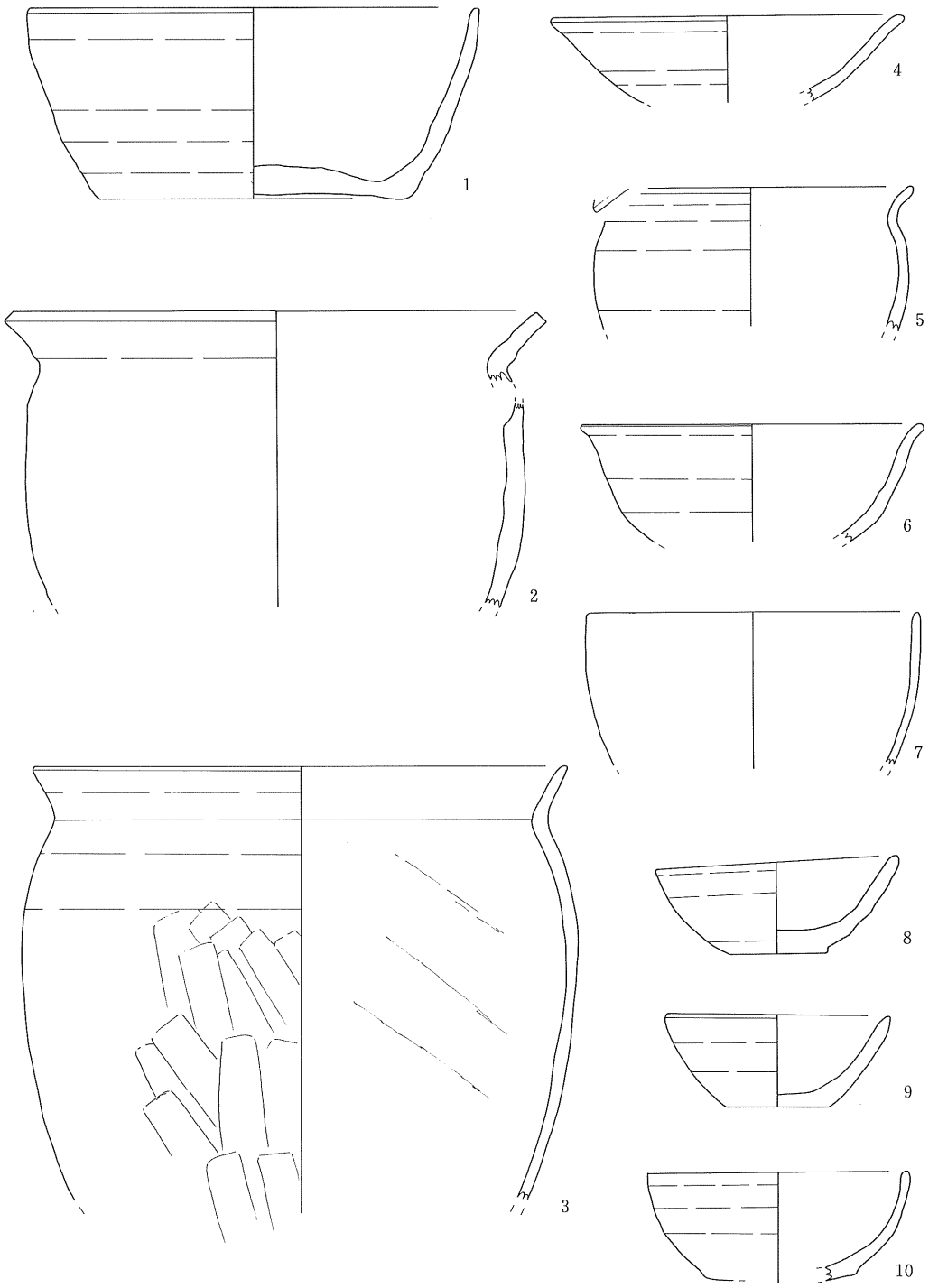
第51図　H20号住居跡実測図

遺構はD－け－20グリット付近に位置する。規模は南北3.7m、東西2.8mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁高は床面から最大値で11cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は貼床されており、ピットは6個確認できた。主柱穴は東西壁際に掘り込まれたP1・P4であると思われ、住居の南東隅には円形の土抗が認められた。カマドは北壁中央のやや東よりに構築されており、袖部及び煙道天井部には多くの石が使用され良好な状態を示していた。火床には厚さ16cmの焼土が堆積していた。

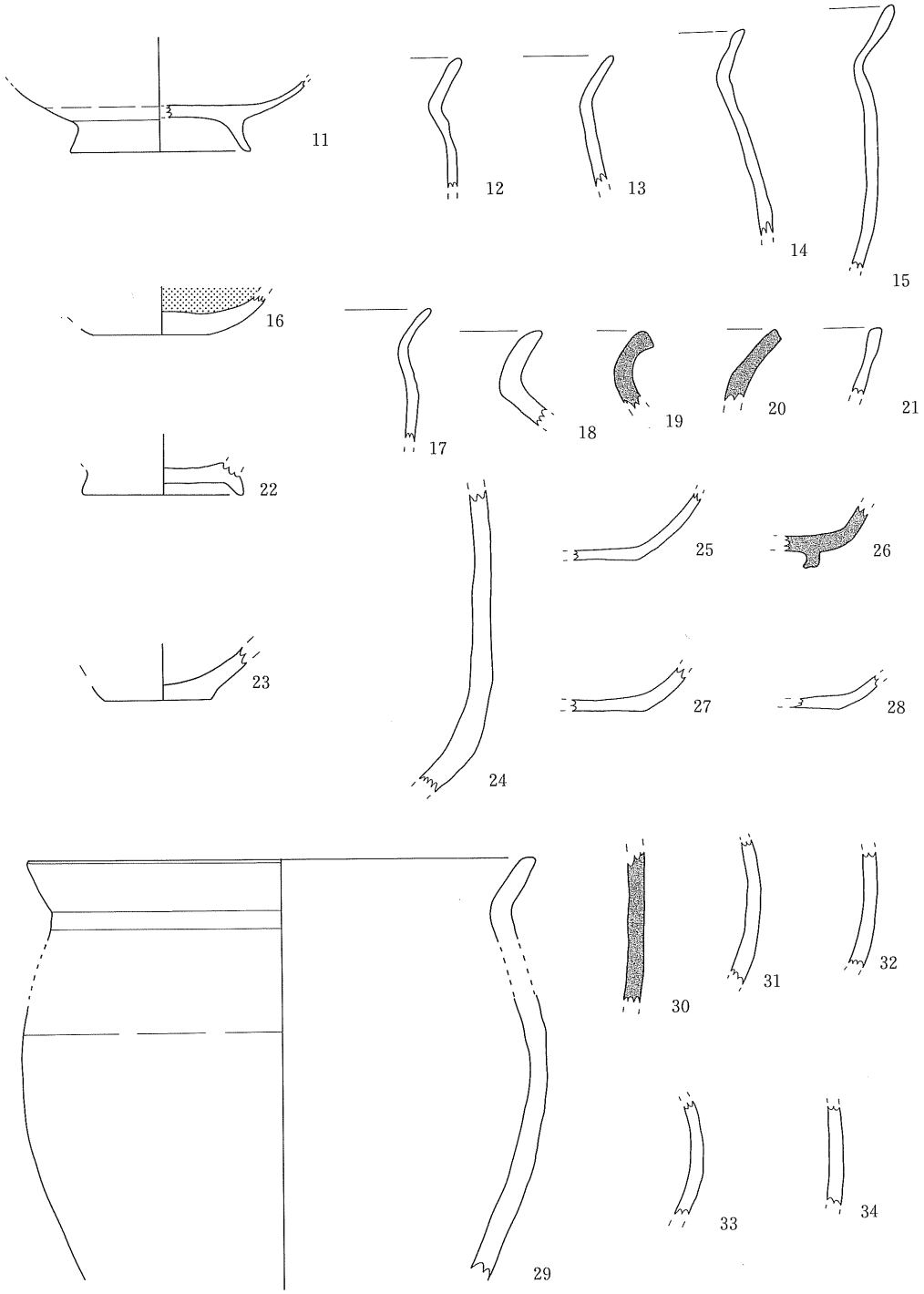
写44　H20号住居跡

写45　H20号住居跡カマド

写46　H20号住居跡カマド



第52図　H20号住居跡出土遺物実測図



第53図　H20号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	鉢	20.0	13.6	8.4	底部ヘラ削り	残存率40％　焼成　良好 色調　2.5YR4/3暗赤褐色
2	土師器	甕	23.8	－	－	口縁横ナデ 外面体部縦方向のヘラ削り	残存率30％　焼成　良 色調　5YR3/2暗赤褐色
3	土師器	甕	23.6	－	－	口縁横ナデ 外面体部縦方向の横ナデ	残存率35％　焼成　良 色調　5YR6/6橙色
4	土師器	坏	15.8	－	－		残存率30％　焼成　良好 色調　2.5YR5/8暗赤褐色
5	土師器	甕	14.2	－	－		残存率25％　焼成　良好 色調　7.5YR4/4褐色
6	土師器	坏	14.7	－	－		残存率25％　焼成　良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
7	土師器	坏	19.6	－	－	内面･外面ヘラミガキ	残存率口縁の一部　焼成良好 色調　10YR7/4にぶい黄橙色
8	土師器	坏	10.0	4.7	4.4	底部回転糸切り	残存率　85％　焼成　良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色
9	土師器	坏	10.0	4.6	4.1	底部回転糸切り	残存率100％　焼成　良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色
１０	土師器	坏	11.6	－	－	底部回転糸切り	残存率30％　焼成　良好 色調　5YR5/6明赤褐色
１１	土師器	高台付坏	－	7.8	－	底部回転糸切り後高台張り付け	残存率25％　焼成　良好 色調　5YR6/8橙色
１２	土師器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成 色調　5YR5/8明赤褐色　良好
１３	土師器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成 色調　7.5YR5/5橙色　良好
１４	土師器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成 色調　7.5YR6/6橙色　良好
１５	土師器	甕	－	－	－		残存率口縁の一部　焼成良好 色調　5YR5/4にぶい赤褐色
１６	土師器	坏	－	6.2	－	底部回転糸切り 内面黒色処理	残存率15％　焼成　良好 色調　2.5YR6/8橙色
１７	土師器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成 色調　7.5YR5/6明褐色　良好
１８	土師器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成　良 色調　7.5YR6/6橙色
１９	須恵器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成　良 色調　7.5YR5/3にぶい褐色

(単位　cm)

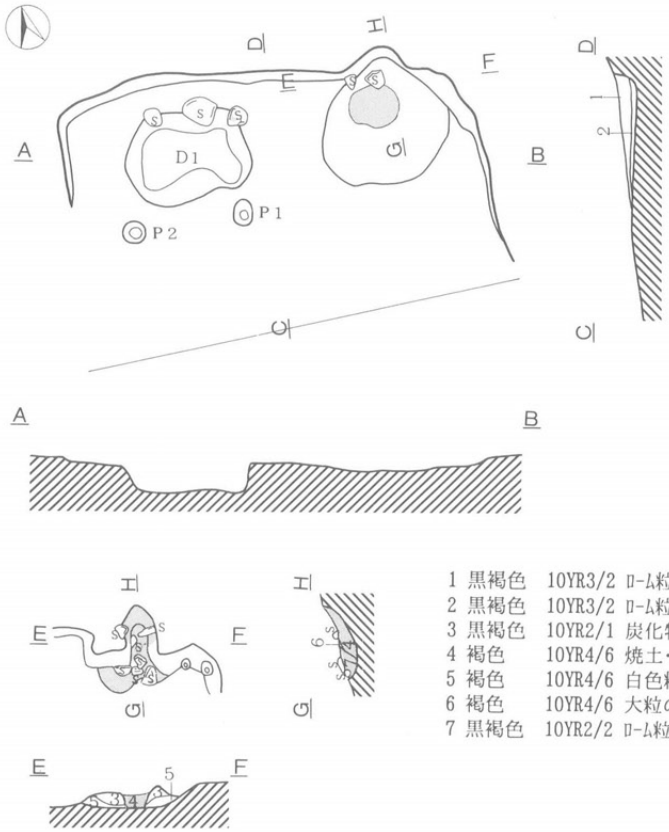
第21表　H20号住居跡出土遺物観察表

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
２０	須恵器	甕	－	－	－		残存率　口縁の一部　焼成 色調　N3/0暗灰色　良好
２１	土師器	甕	－	－	－		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/3にぶい褐色
２２	土師器	高台付坏	－	7.0	－	底部回転糸切り 高台張り付け	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調　10YR7/4にぶい黄橙色
２３	土師器	坏	－	4.6	－	底部回転糸切り	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調　10YR7/4にぶい黄橙色
２４	土師器	甕	－	－	－	内面ヘラ削り	残存率 体部の一部　焼成 良 色調　7.5YR3/3暗褐色
２５	土師器	坏	－	－	－	底部ヘラ削り	残存率20％　焼成　良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
２６	須恵器	高台付坏	－	－	－	高台張り付け	残存率15％　焼成　良好 色調　N5/0灰色
２７	土師器	坏	－	－	－	底部ヘラ削り	残存率15％　焼成　良 色調　2.5YR5/8暗赤褐色
２８	土師器	坏	－	－	－	底部回転糸切り	残存率15％　焼成　良好 色調　7.5YR6/6橙色
２９	土師器	甕	22.2	－	－	外面縦方向ヘラ削り	残存率25％　焼成　良好 色調　7.5YR5/4にぶい褐色
３０	須恵器	甕	－	－	－		残存率　体部の一部　焼成 色調　7.5YR1,7/1　良好
３１	土師器	甕	－	－	－		残存率　体部の一部　焼成 色調　5YR6/8橙色　良好
３２	土師器	甕	－	－	－	外面体部縦方向のヘラ削り	残存率　体部の一部　焼成 色調　7.5YR6/6橙色　良好
３３	土師器	甕	－	－	－	外面体部縦方向のヘラ削り	残存率 体部の一部　焼成 良 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
３４	土師器	甕	－	－	－	外面体部縦方向ヘラ削り	残存率 体部の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/3にぶい褐色

(単位　cm)

第22表　H20号住居跡出土遺物観察表

H21号住居跡（平安時代）



第54図　H21号住居跡実測図

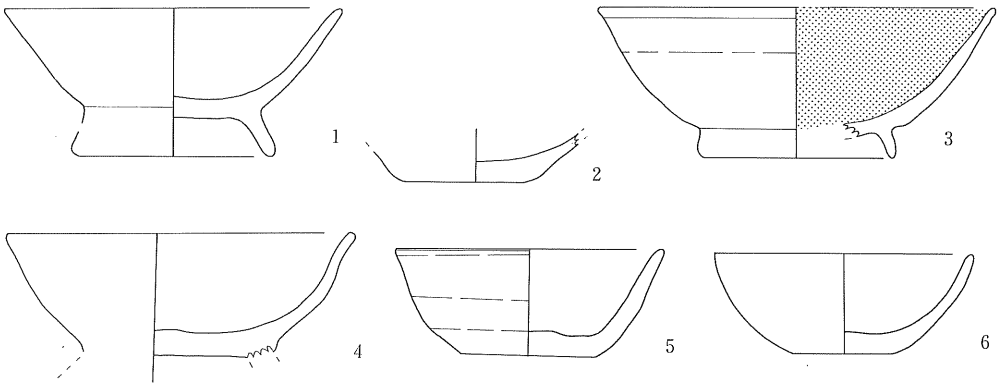
写47　H21号住居跡

遺構はD－お－17グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.1m、東西1.5mを測り、平面形はやや隅丸の方形を呈したと思われる。壁高は最大値で20cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は凹凸が激しく、北西隅には土抗が認められる。カマドは中央からやや東よりに構築されており、両袖は僅かに粘土が残存していた。また火床には厚さ16cmの多量な焼土が堆積していた。

写48　H21号住居跡遺物出土状態

写49　H21号住居跡カマド

写50　H21号住居跡遺物出土状態



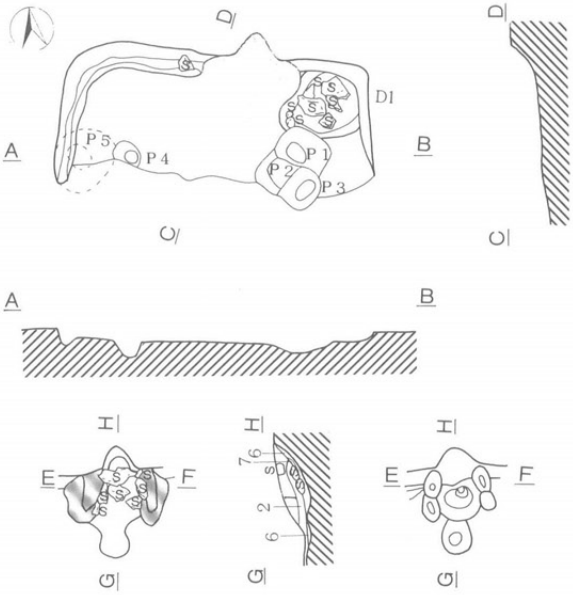
第55図　H21号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	高台付坏	13.5	7.2	5.9	底部糸切り後に高台張り付け	残存率90%　焼成　良 色調　5YR7/8橙色
2	土師器	坏	－	5.5	－	底部回転糸切り	残存率25%　焼成　良好 色調　5YR6/3にぶい橙色
3	土師器	高台付坏	16.0	8.7	6.1	内面黒色処理・暗紋	残存率35%　焼成　良 色調　5YR7/4にぶい橙色
4	土師器	高台付坏	14.0	7.4	5.1	底部回転糸切り後高台張り付け	残存率70%　焼成　良 色調　7.5YR6/7橙色
5	土師器	坏	10.3	5.4	4.3	底部回転糸切り	残存率100%　焼成　良好 色調　にぶい橙色
6	土師器	坏	10.4	4.0	4.0	底部回転糸切り	残存率90%　焼成　良 色調　7.5YR7/3にぶい橙色

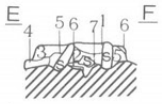
(単位　cm)

第23表　H21号住居跡出土遺物観察表

H22号住居跡（平安時代）



遺構はC－た－16グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.4m、東西3.4mを測る。壁高は42cmを測り外傾しながら立ち上がる。床面は堅くピットは4個確認できたが、これが主柱穴とは確定できない。カマドは北壁の東よりに構築されており良好な状態である。袖部は内面壁にあたる部分に扁平な石を利用し壁面として外側を粘土で覆っている。火床に焼土・灰は認められなかった。



1 暗褐色　10YR3/3 白色粒・焼土含む しまり粘性あり
2 黒褐色　10YR3/2 焼土・炭化物含む しまり粘性なし
3 黒褐色　10YR3/2 焼土粒・炭化物含む しまり粘性あり
4 褐色　10YR4/4 ローム粒多量に含む しまり粘性あり
5 黄褐色　10YR5/8 黒色粒含む しまり粘性あり
6 明赤褐色　2.5YR5/8 焼土層 よく焼け硬質化している
7 明赤褐色　2.5YR5/8 ローム粒・炭化物多量に含む しまりなし

706.400
0　(1：80)　2m

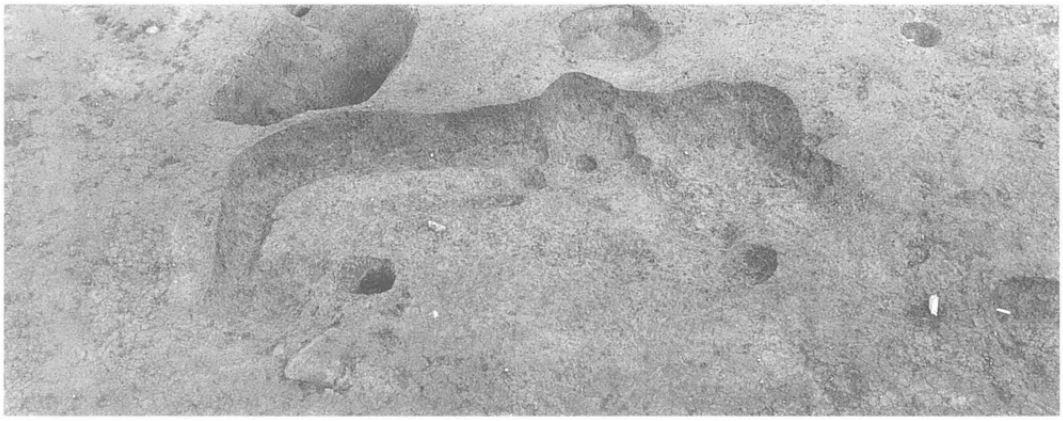
第56図　H22号住居跡実測図

写51　H22号住居跡

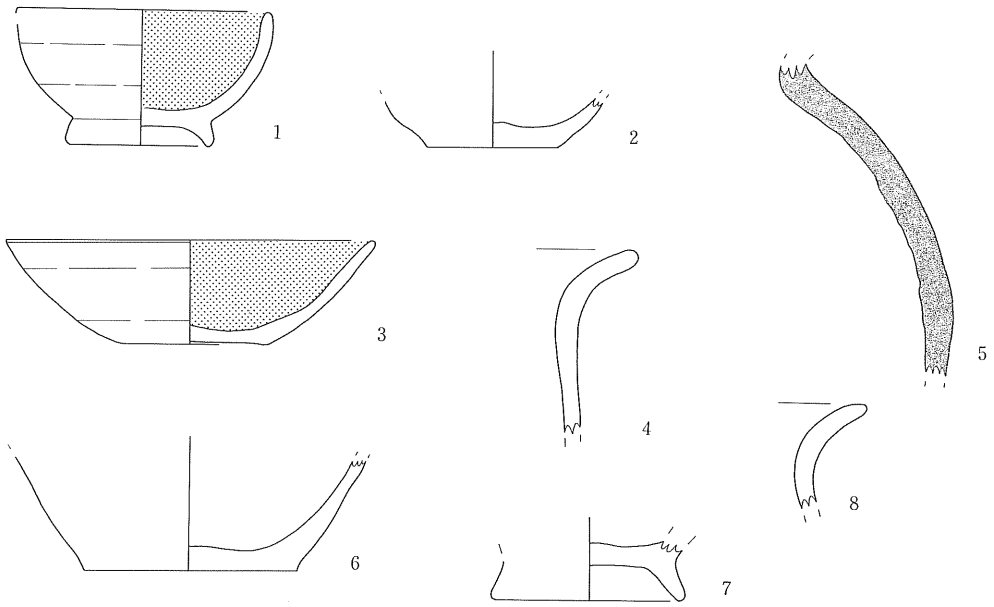
写52　H22号住居跡カマド

写53　H22号住居跡カマド

写54　H22号住居跡カマド堀方



写55　H22号住居跡堀方



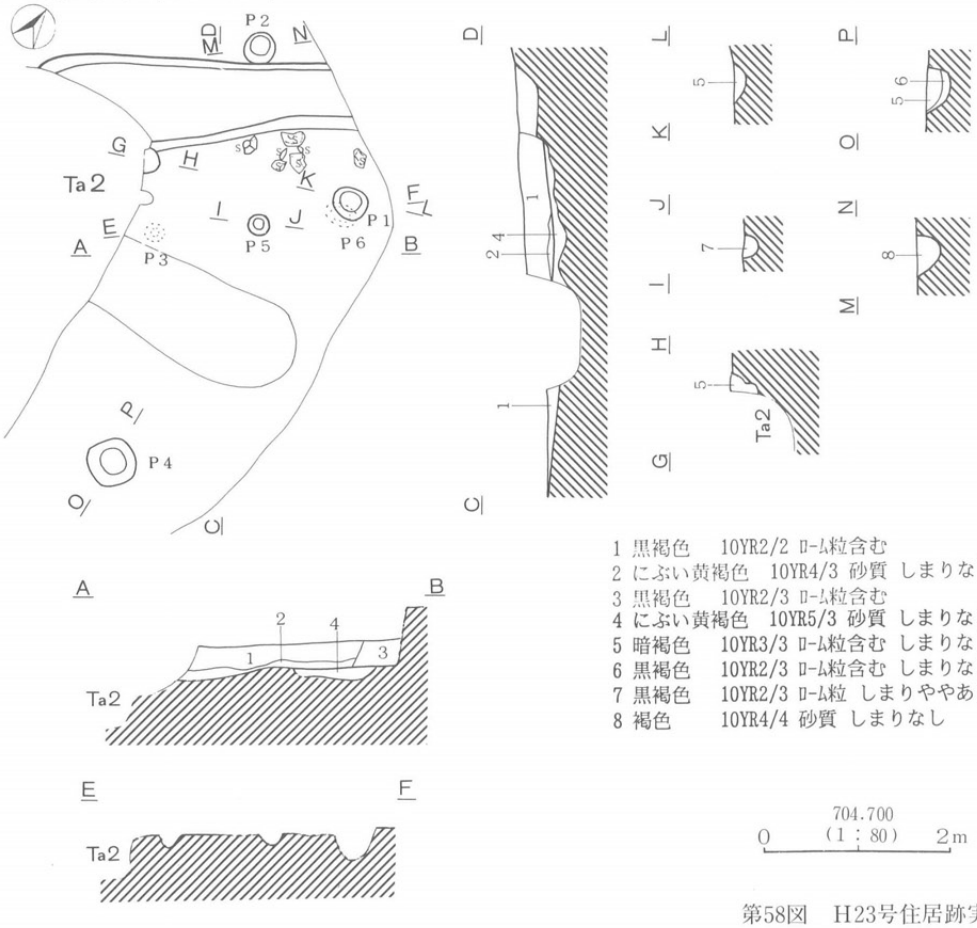
第57図　H22号住居跡出土遺物実測図

番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	高台付坏	10,3	6.0	5.4	内面暗紋・黒色処理 底部回転糸切り後高台張り付け	残存率100%　焼成　良 色調　2.5Y2/1黒色
2	土師器	坏	—	5.2	—	底部回転糸切り	残存率底部の一部　焼成　良 色調　10YR4/2灰黄褐色
3	土師器	甕	14,8	6.2	5.2	内面黒色処理 底部ヘラ削り	残存率100%　焼成　良 色調　5YR6/8橙色
4	土師器	甕	—	—	—	外面体部縦方向ヘラ削り	残存率口縁の一部　焼成　良 色調　5YR6/6トウ色
5	須恵器	甕	—	—	—		残存率　体部の一部　焼成 色調　2.5Y2/1黒色　不良
6	土師器	甕	—	8.6	—	底部・外面ヘラ削り 内面黒色処理	残存率 底部　焼成　良 色調　2.5YR5/6明赤褐色
7	土師器	高台付坏	—	7.8	—	底部回転糸切り 高台張り付け	残存率20%　焼成　良 色調　7.5YR7/4にぶい橙色
8	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ	残存率口縁の一部　焼成　良 色調　7.5YR2/3暗褐色

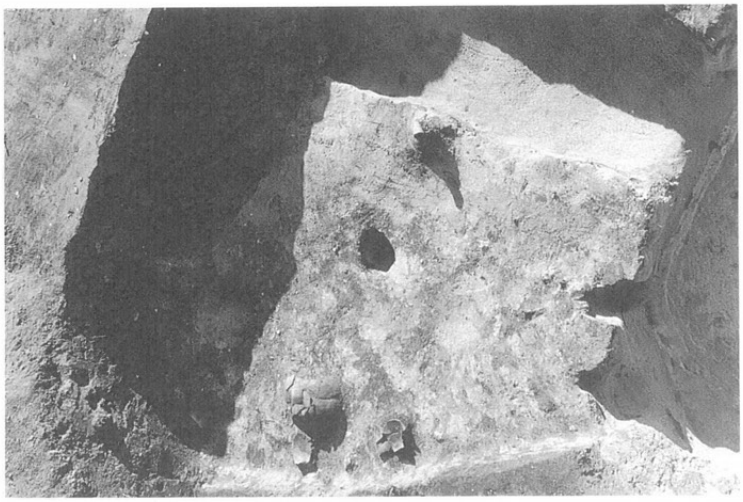
(単位　cm)

第24表　H22号住居跡出土遺物観察表

H23号住居跡（平安時代）

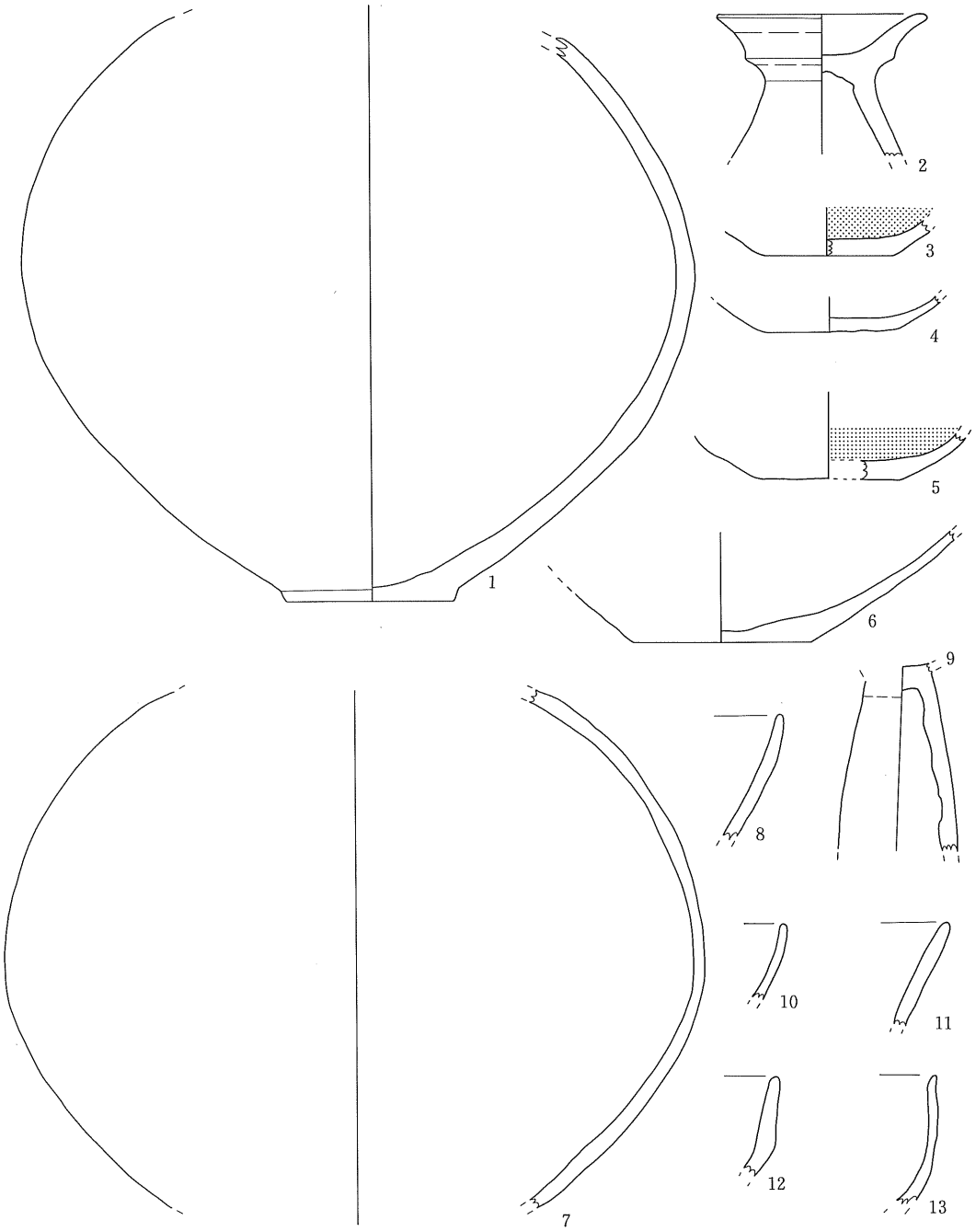


第58図　H23号住居跡実測図

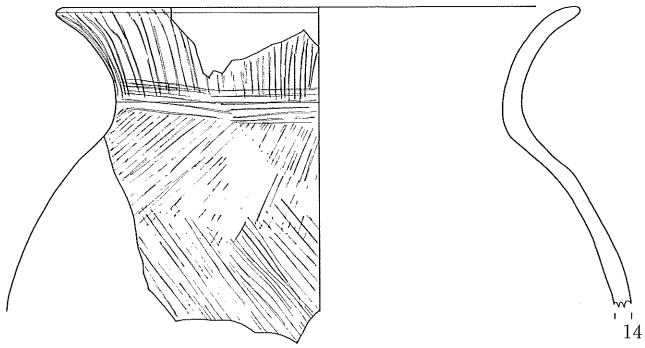


写56　H23号住居跡

遺構はG－お－4グリットに位置する。遺構はＴａ２と重複関係にあり西壁を切られる。東壁は調査区外となる。壁高は最大値で26cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は一部に堅い面が認められ、ピットは6個確認できた。



第59図　H23号住居跡出土遺物実測図



第60図　H23号住居跡出土遺物実測図

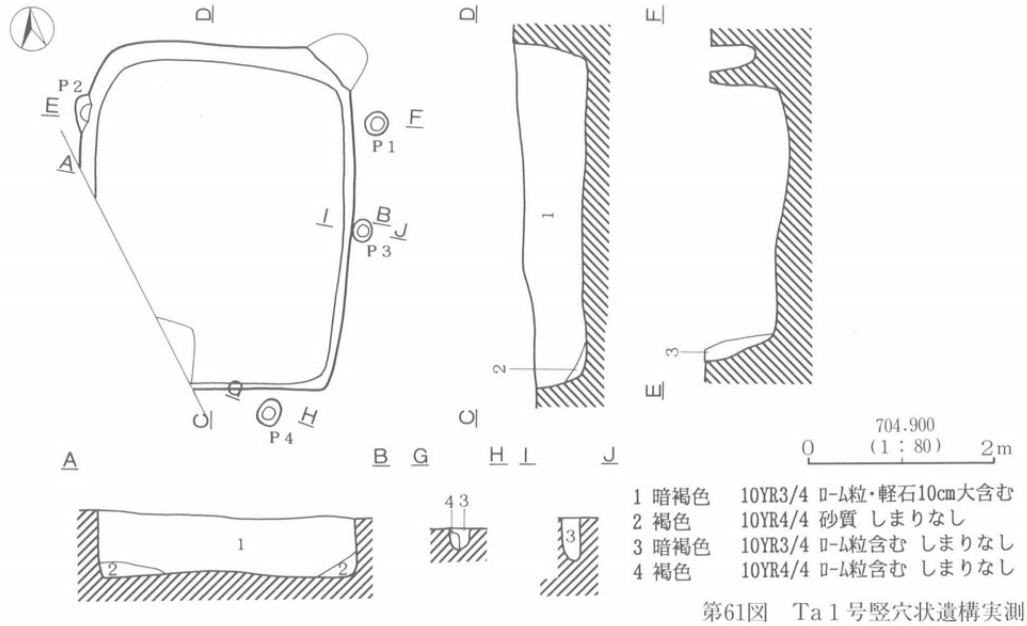
番　号	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　　整	備　　考
1	土師器	甕	—	7.8	—	外面・底部ヘラ削り	残存率80％　焼成　良 色調　7.5YR7/3にぶい橙色
2	土師器	高坏	9.2	—	—	脚部張り付け	残存率65％　焼成　良好 色調　10YR7/3にぶい黄橙色
3	土師器	坏	—	5.6	—	底部回転糸切り 内面黒色処理	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調　5YR5/6明赤褐色
4	土師器	坏	—	5.8	—	底部回転糸切り	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調　7.5YR6/4にぶい橙色
5	土師器	坏	—	6.2	—	底部ヘラ削り 内面黒色処理	残存率　底部の一部　焼成 色調　7.5YR6/6橙色　良好
6	土師器	甕		7.8		外面縦方向撫で	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調　5YR5/3にぶい赤褐色
7	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラ削り	残存率25％　焼成　良 色調　5YR4/2灰褐色
8	土師器	高坏	—	—	—	外部研き	残存率　口縁の一部　焼成 色調　7.5YR4/8赤色　良好
9	土師器	高坏	—	—	—		残存率20％　焼成　良好 色調　10YR5/4赤褐色
10	土師器	甕	—	—	—		残存率口縁の一部　焼成　良 色調　5YR6/6橙ト色
11	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR7/4　にぶい橙色
12	土師器	坏	—	—	—	口縁横撫で	残存率　口縁の一部　焼成 色調　10YR2/3黒褐色　良好
13	土師器	坏	—	—	—		残存率 口縁の一部　焼成 良 色調　7.5YR5/4にぶい褐色
14	土師器	甕	20.8	—	—	内面ヘラ研き 外面くし目	残存率　口縁　焼成　良好 色調　10YR7/4にぶい黄橙色

（単位　cm）

第25表　H23号住居跡出土遺物観察表

第２節　竪穴状遺構（Ta）

Ta１号竪穴状遺構

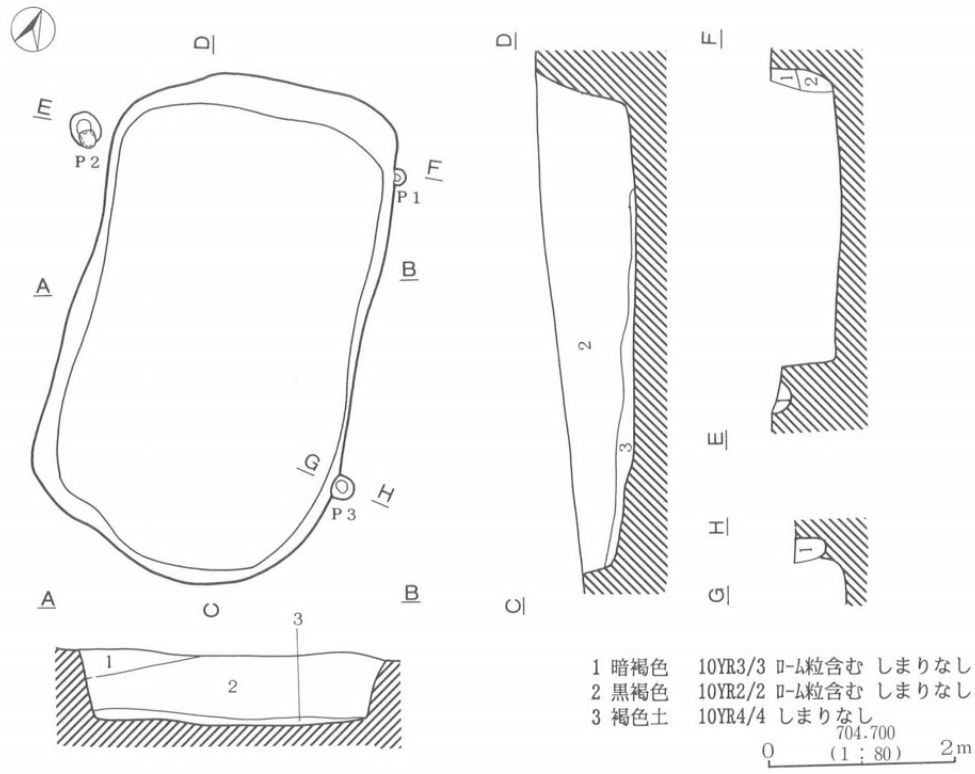


第61図　Ta１号竪穴状遺構実測図

遺構はG－き－５グリット付近に位置する。南西隅は調査区外となる。規模は南北3.7m、東西2.8mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。壁高は79cmと深くほぼ垂直に立ち上がる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは壁外に４個確認できた。

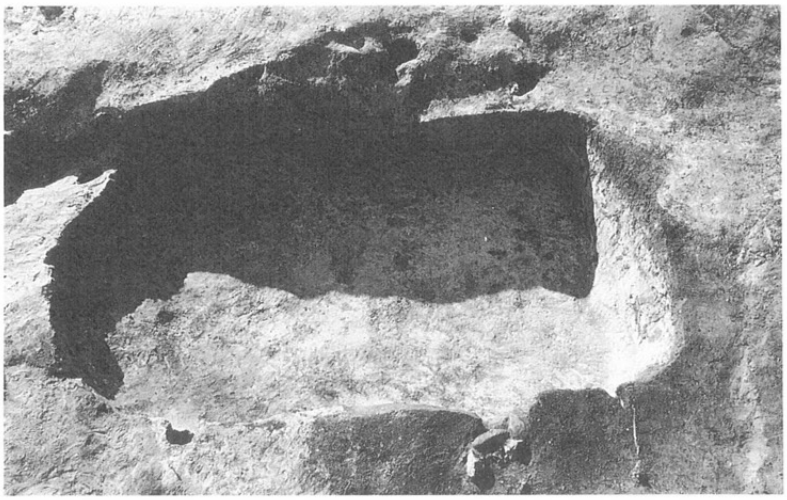
写57　Ta１号竪穴状遺構

Ta 2 号竪穴状遺構



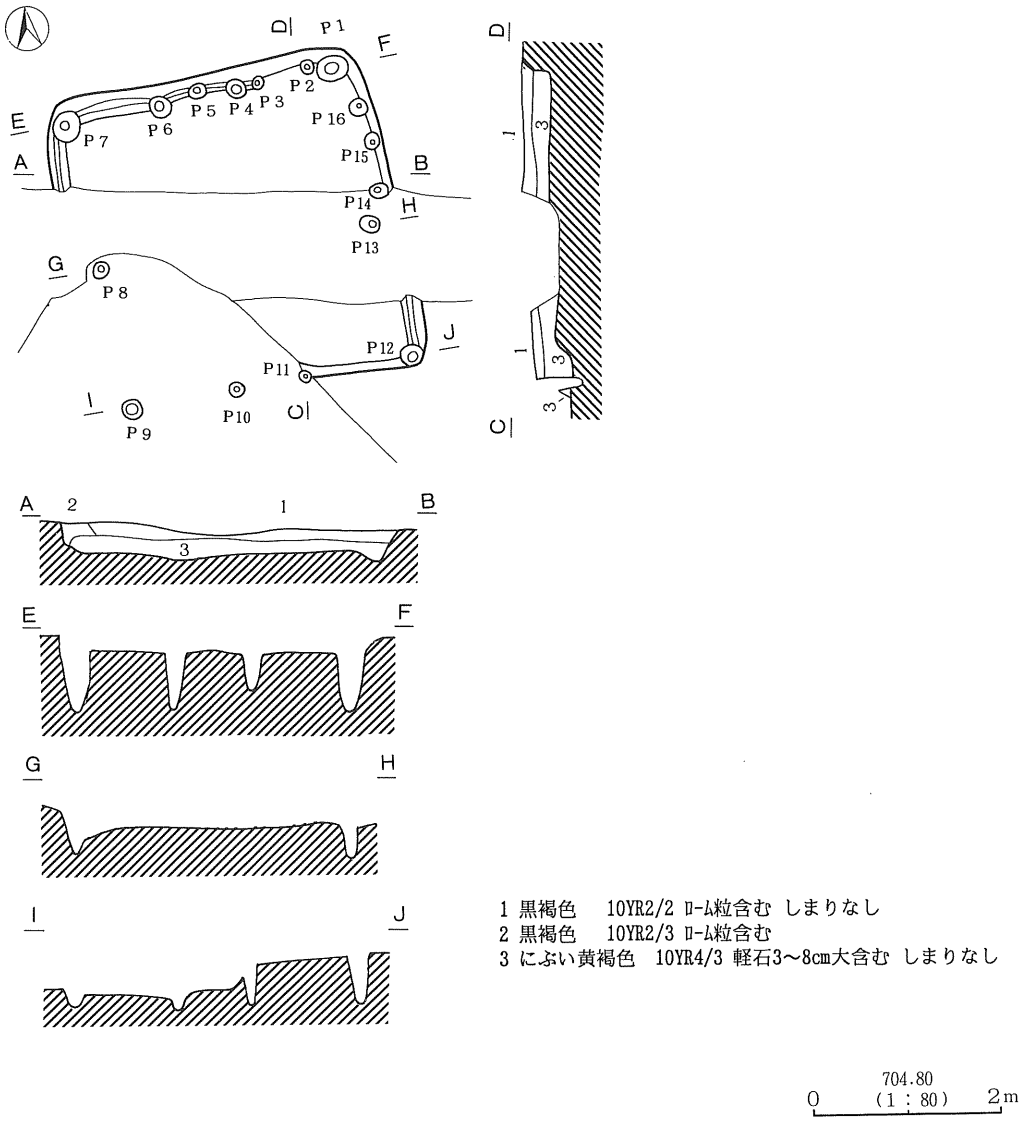
第62図　Ta 2 号竪穴状遺構実測図

遺構はG－か－5グリット付近に位置する。遺構はH23と重複関係にありH23の西壁を切る。規模は南北5.4m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。壁高は最大値で48cmを測り外傾しながら立ち上がる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは壁外に3個確認できた。



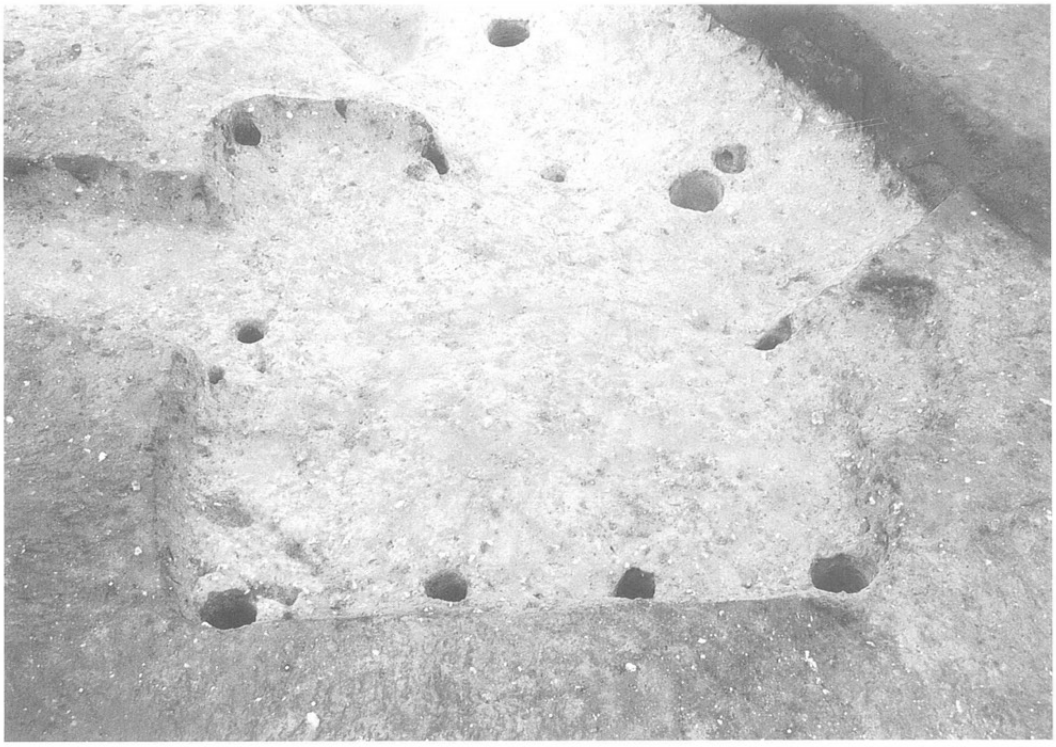
写58　Ta 2 号竪穴状遺構

Ta 3 号竪穴状遺構

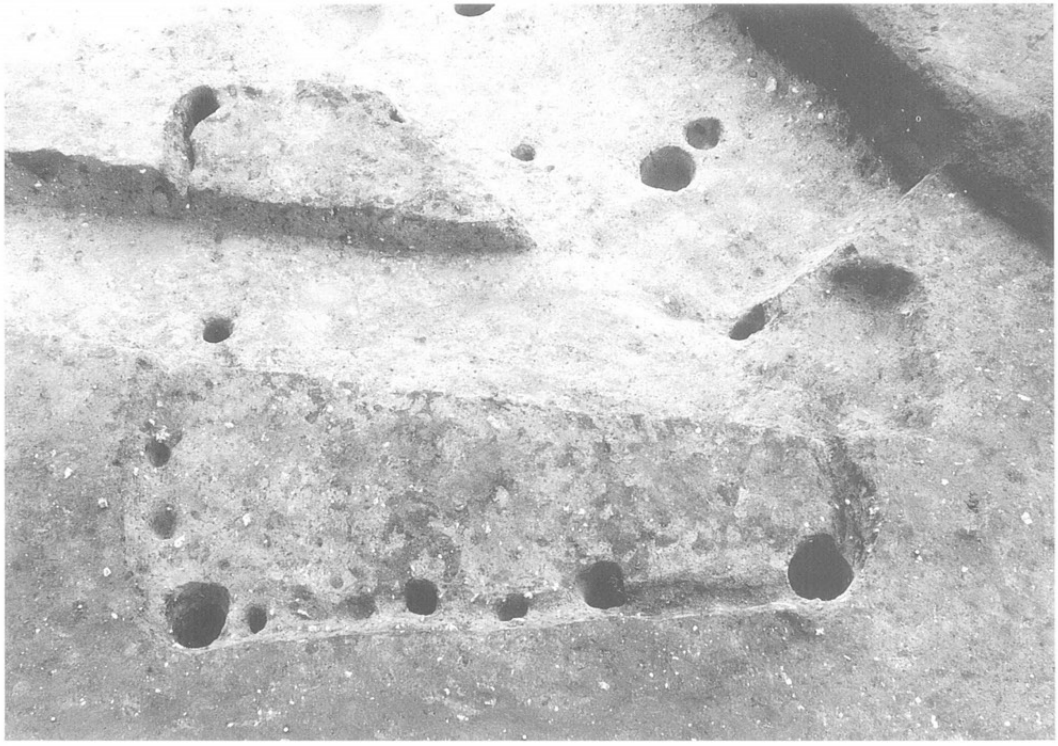


第63図　Ta 3 号竪穴状遺構実測図

遺構はG－く－3グリット付近に位置する。遺構はTa 4 と重複関係にあり、南西隅を切られる。またカクランによって遺構の中央を幅1.2m、深さ40cmにわたって破壊されている。規模は南北3.4m、東西3.6mを測り、平面形は方形を呈する。壁高は最大値で23cmを測る。床面は堅く、ピットは壁際に巡らすように16個認められた。このうち主柱穴は、遺構のコーナーに掘り込まれたP 1・P 7・P 9・P12であると思われる。

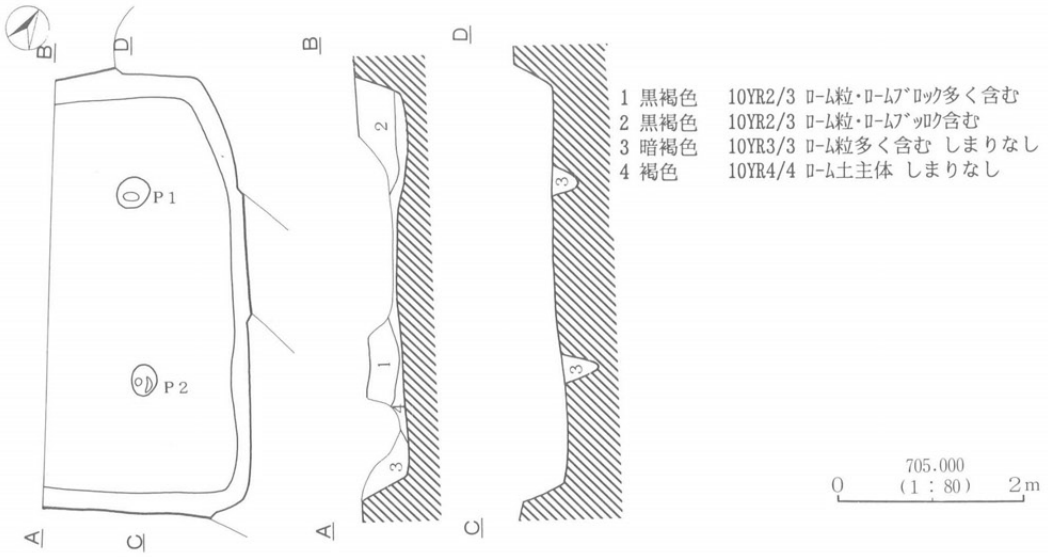


写59　Ta 3 号竪穴状遺構



写60　Ta 3 号竪穴状遺構

Ta 4 号竪穴状遺構

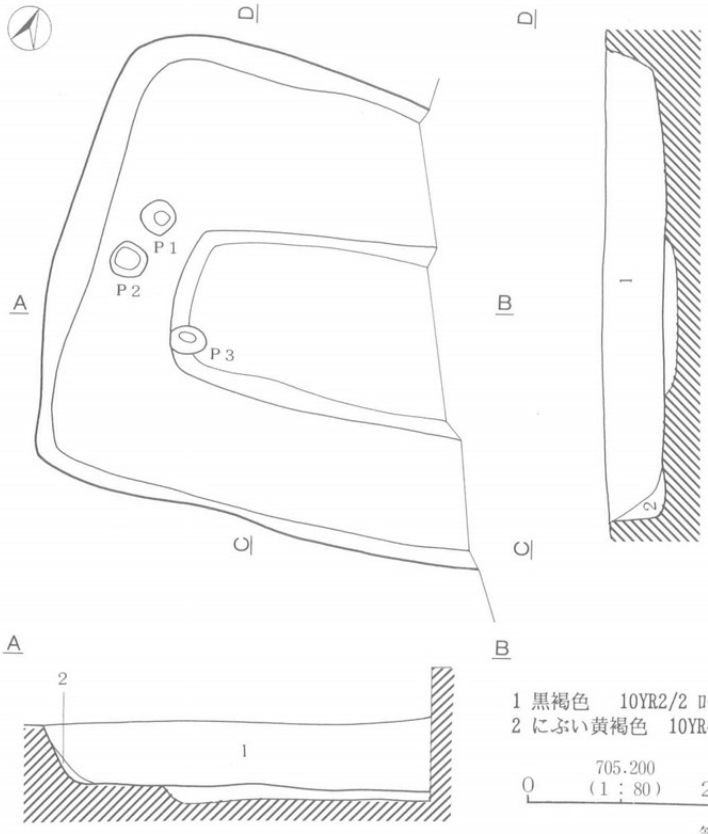


第64図　Ta 4 号竪穴状遺構実測図

遺構はG－く－4グリット付近に位置する。遺構はTa 3 と重複関係にありTa 3 の南西隅を切り、西半分は調査区外となる。調査規模は南北4.2m、東西2.2mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。壁高は最大値で31cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは2個確認できた。

写61　Ta 4 号竪穴状遺構

Ta５号竪穴状遺構

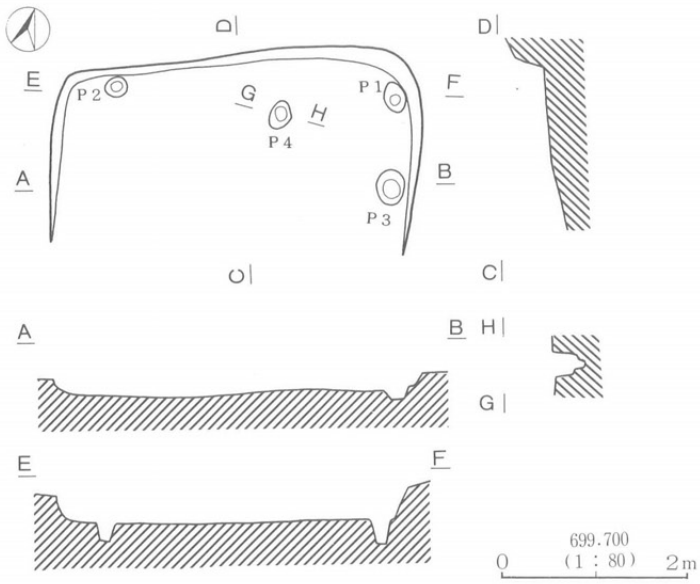


遺構はＧ－か－３グリット付近に位置する。遺構の東側は調査区外となる。調査規模は南北4.9m 東西4.9mを測り、平面形は隅丸方形と思われる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは３個確認でき、底面中央付近に長方形の堀り込みがみられた。

第65図　Ta５号竪穴状遺構実測図

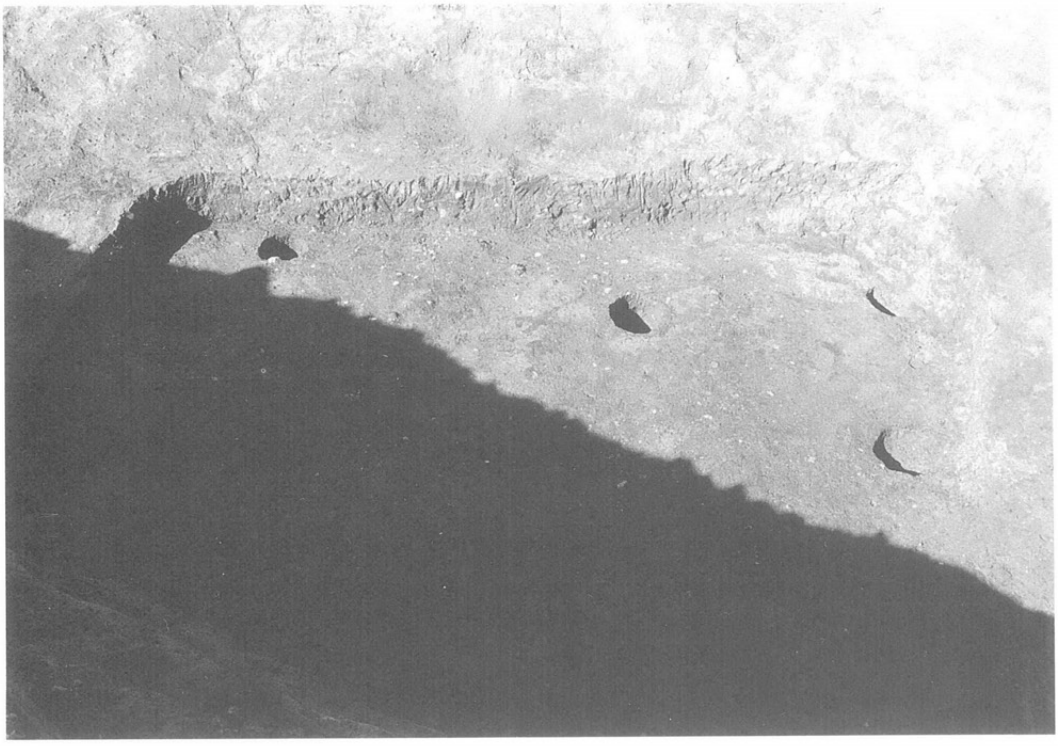
写62　Ta５号竪穴状遺構

Ta 6 号竪穴状遺構



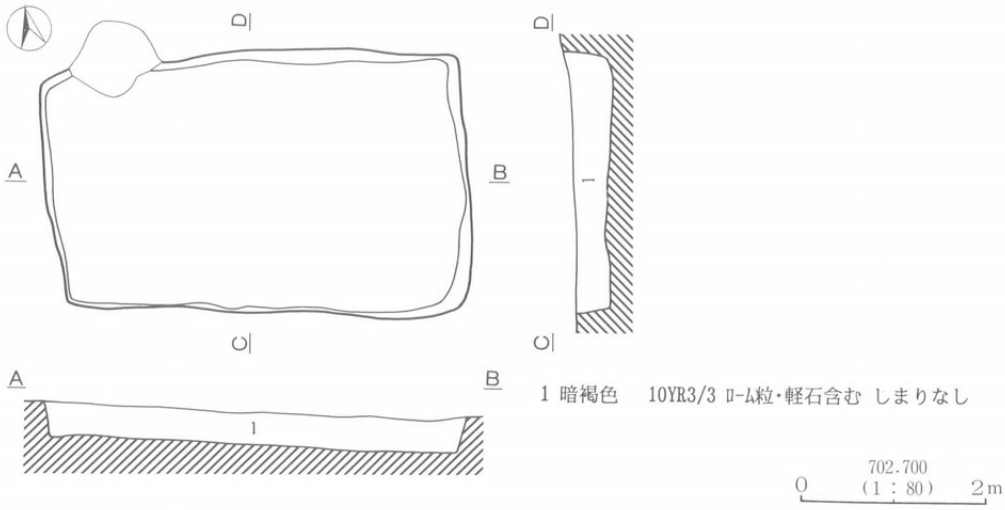
遺構はF－く－9グリット付近に位置する。規模は残存部で南北2.4m、東西3.8mを測り、平面形は隅丸の方形であったと思われる。壁高は最大値で32cmを測る。床面は地山が粘土質のため堅くしまっている。ピットは4個確認できた。

第66図　Ta 6 号竪穴状遺構実測図



写62　Ta 6 号竪穴状遺構

Ta７号竪穴状遺構

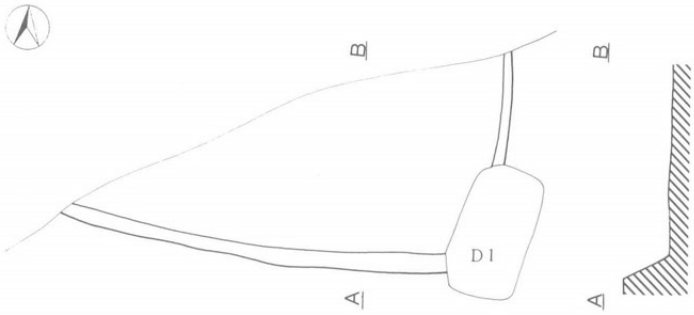


第67図　Ta７号竪穴状遺構実測図

遺構はＦ－く－20グリット付近の平坦な台地上に位置する。規模は南北4.4m、東西2.8mを測り、平面形は長方形を呈する。壁高は最大値で48cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは認められなかった。

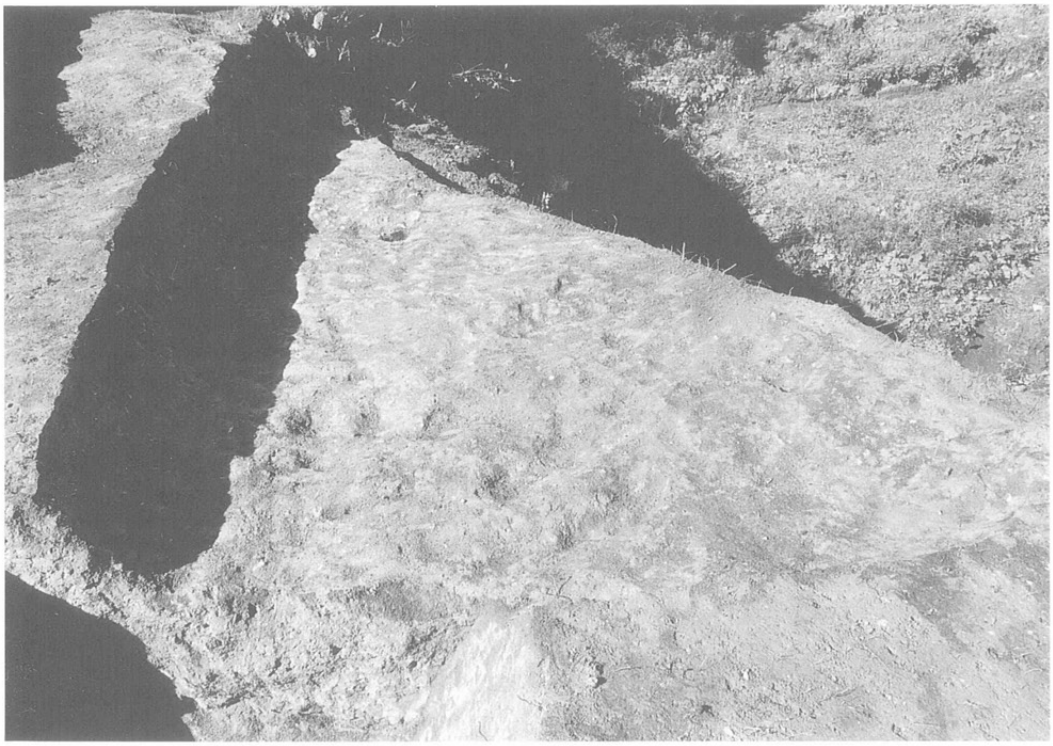
写64　Ta７号竪穴状遺構

Ta 8 号竪穴状遺構



第68図　Ta 8 号竪穴状遺構実測図

遺構はＦ－こ－20グリッド付近の平坦な台地北端に位置しており、遺構の半分は谷に落ちている。残存規模は南北2.3m、東西4.8mを測り、平面形は長方形を呈したと思われる。壁高は最大値で48cmを測りやや外傾しながら立ち上がる。床面は堅く平坦である。ピットは認められなかった。

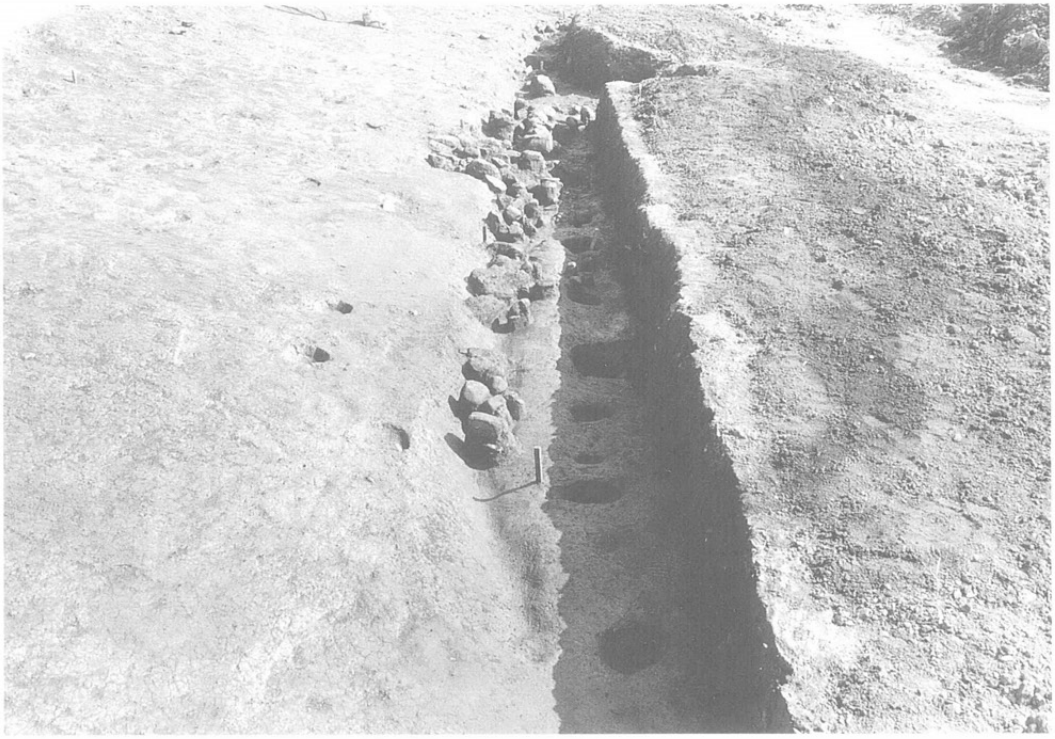


写65　Ta 8 号竪穴状遺構

Ta 9 号竪穴状遺構

第69図　Ta 9 号竪穴状遺構実測図

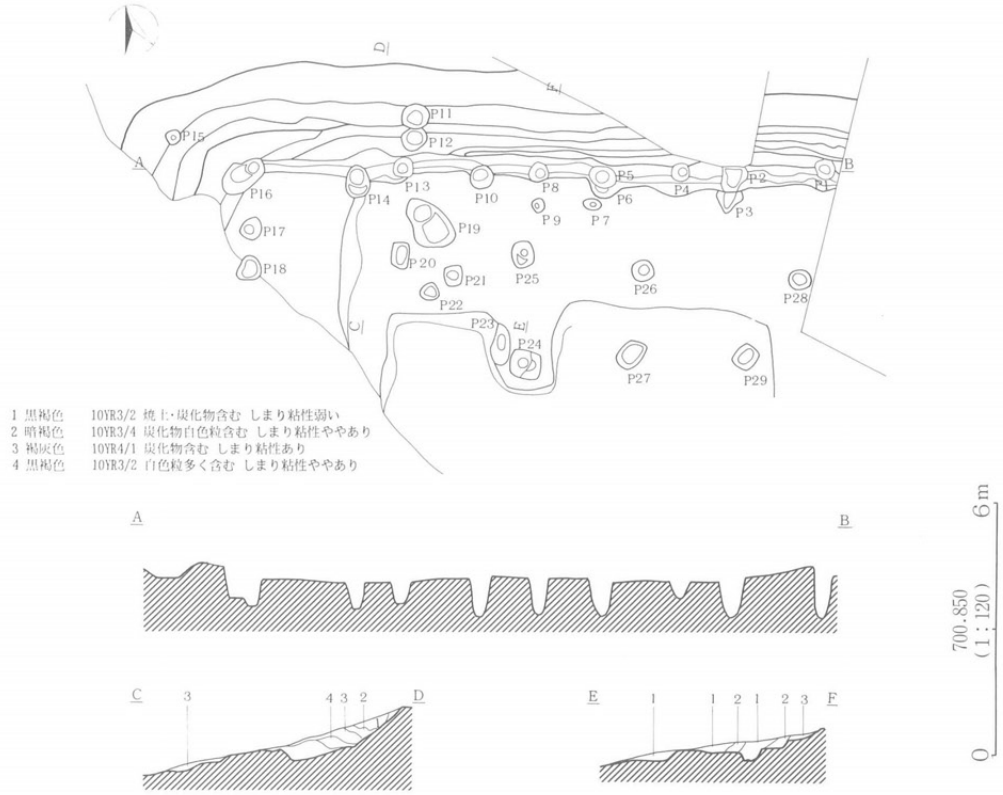
遺構はC－こ－18グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は斜面下側のほとんどが失われた状態で東西9.0m、南北0.9mを測る。壁高は北壁で最大26cmを測り、やや外傾ぎみに立ち上がる。床面は堅くしまっており、北壁に沿って多くの石が認められた。また石の下部には10個のピットが確認でき、遺構全体のピット数は14個を数える。



写66　Ta 9 号竪穴状遺構

写67　Ta 9 号竪穴状遺構

Ta10号竪穴状遺構

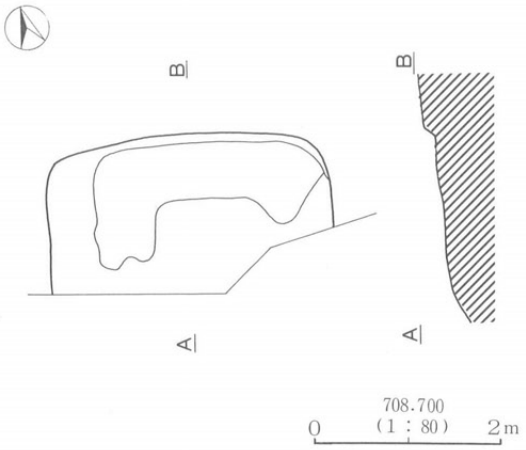


第70図　Ta10号竪穴状遺構実測図

写68　Ta10号竪穴状遺構

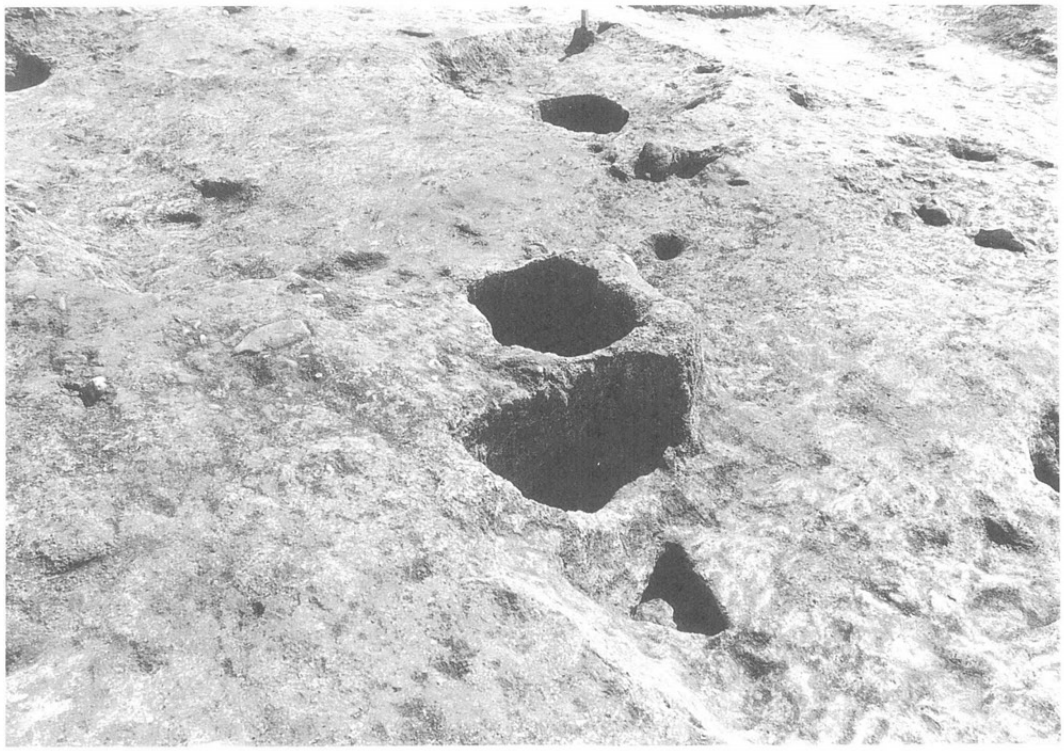
遺構はC－お－18グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構の北東隅及び南西隅は調査区外となる。規模は調査規模で東西5.8m、南北1.8mを測る。壁高は31cmを測り、僅かに外傾しながら立ち上がる。北壁沿いには2段のテラスをもち、多くのピットが周囲を巡らすように堀り込まれている。また床面は堅くしまっており、壁際のピットを含め、29個のピットが認められた。

Ta11号竪穴状遺構



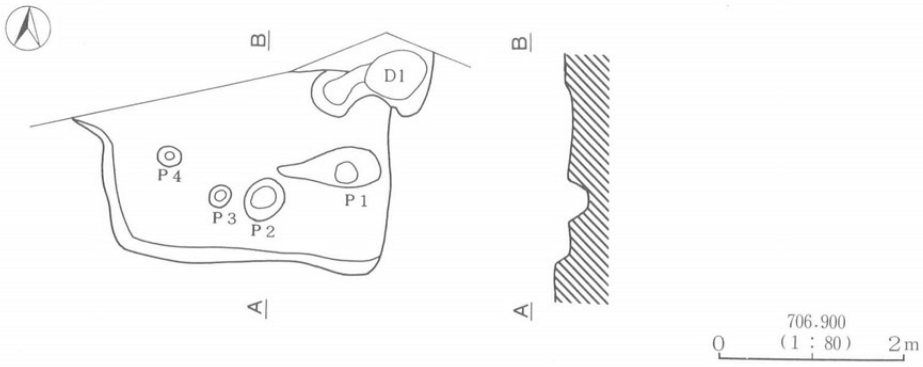
第71図　Ta11号竪穴状遺構実測図

遺構はC－て－14グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で東西1.5m、南北84cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で8cmを測る。床面は堅くしまり、平坦な面を持つ。ピットは認められなかった。



写69　Ta11号竪穴状遺構

Ta12号竪穴状遺構

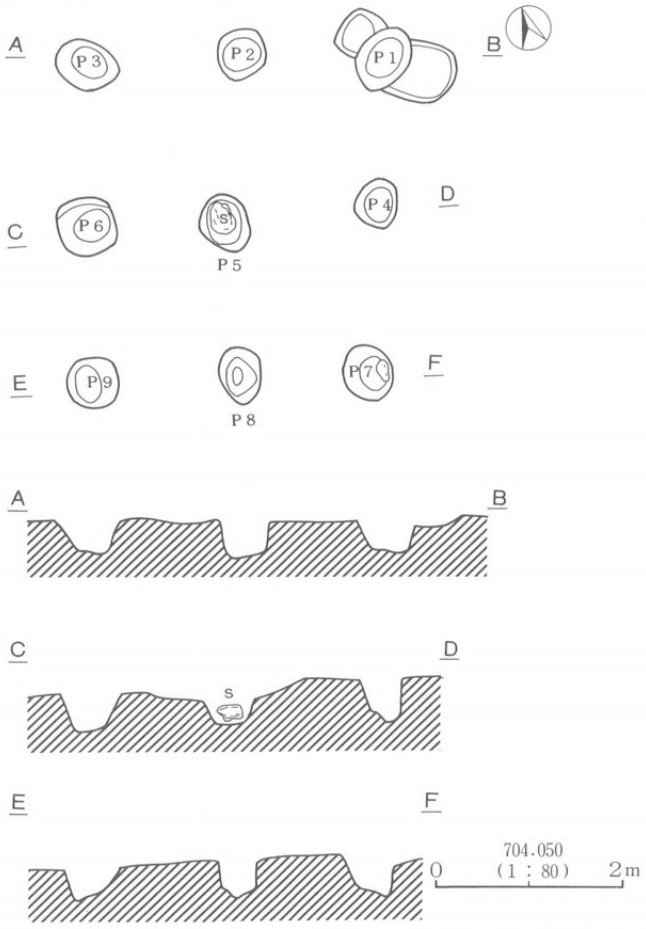


第72図　Ta12号竪穴状遺構実測図

遺構はD－き－17グリット付近の緩斜面上に位置する。遺構の北側は調査区外となる。規模は残存部で東西1.6m、南北96cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は9cmと浅く、やや外傾ぎみに立ち上がる。床面は堅くしまり、4個のピットが認められた。また北東隅には土坑が確認できた。

写70　Ta12号竪穴状遺構

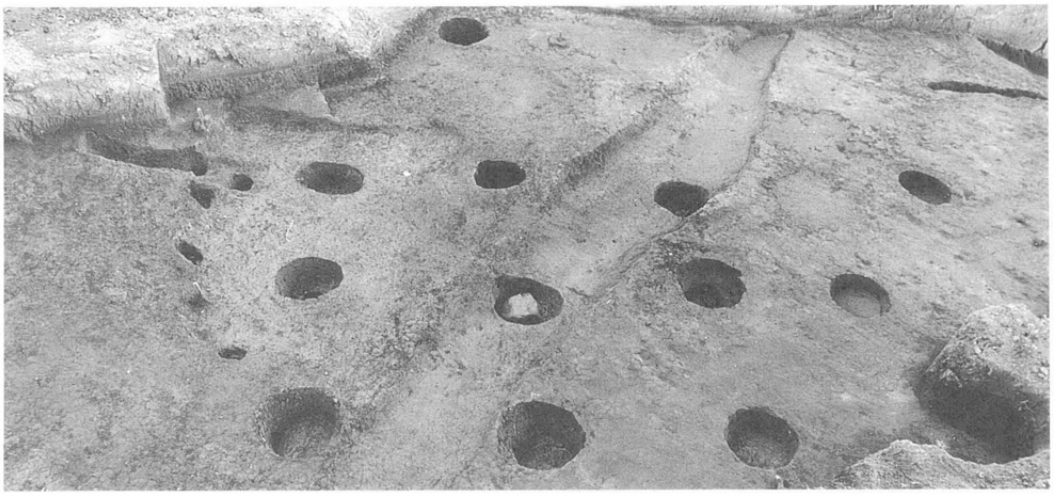
第３節　堀立柱建物跡（Ｆ）



第73図　Ｆ１号掘立柱建物跡実測図

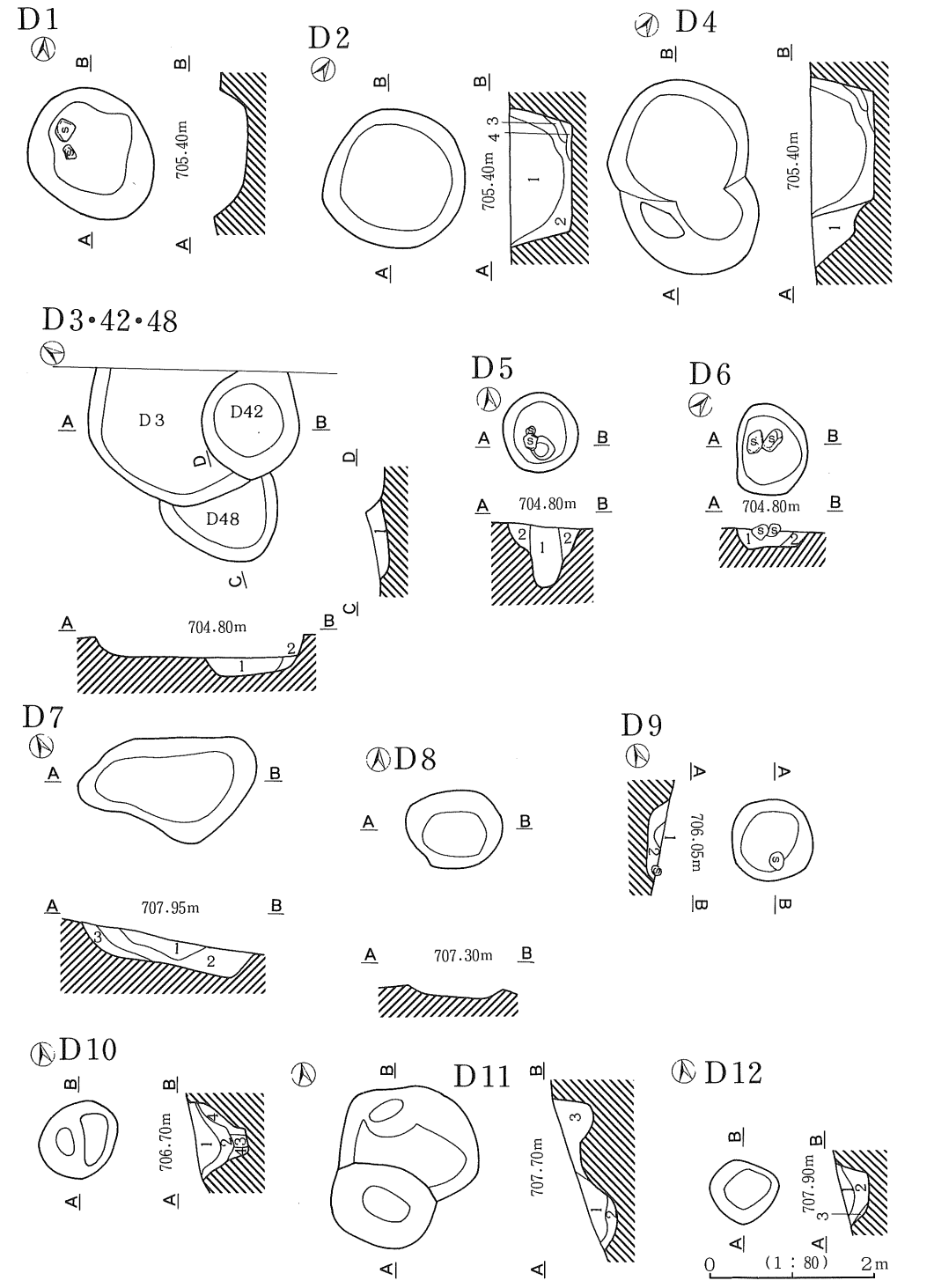
遺構はＦ－あ－３グリットに位置し、２間×２間の総柱建物跡である。柱穴は径60cm前後の円形を呈し、深さはＰ１-36cm、Ｐ２-40cm、Ｐ３-32cm、Ｐ４-42cm、Ｐ５-24cm、Ｐ６-46cm、Ｐ７-40cm、Ｐ８-41cm、Ｐ９-49cmを測る。

写71　Ｆ１号掘立柱建物跡

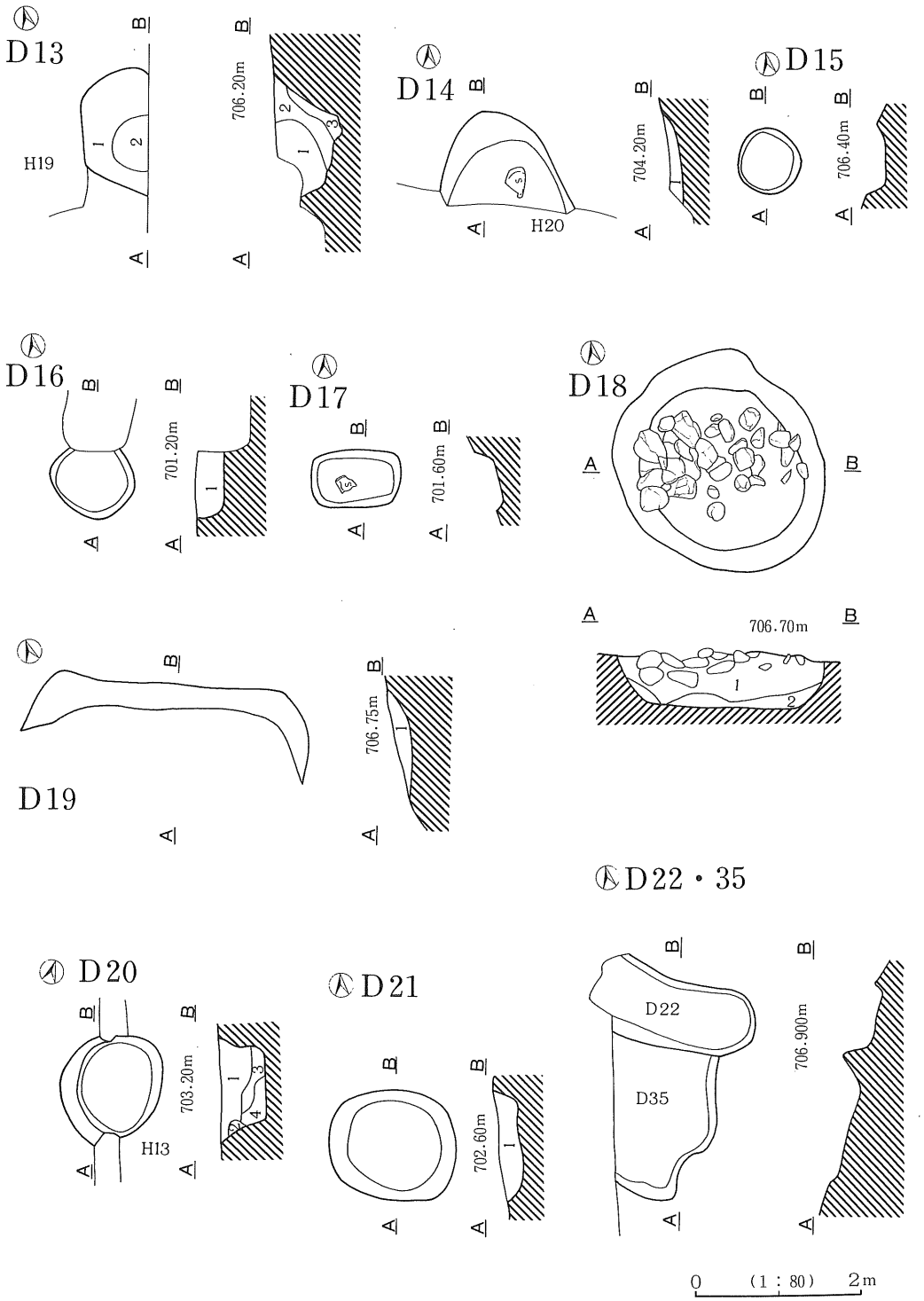


写72　Ｆ１号掘立柱建物跡

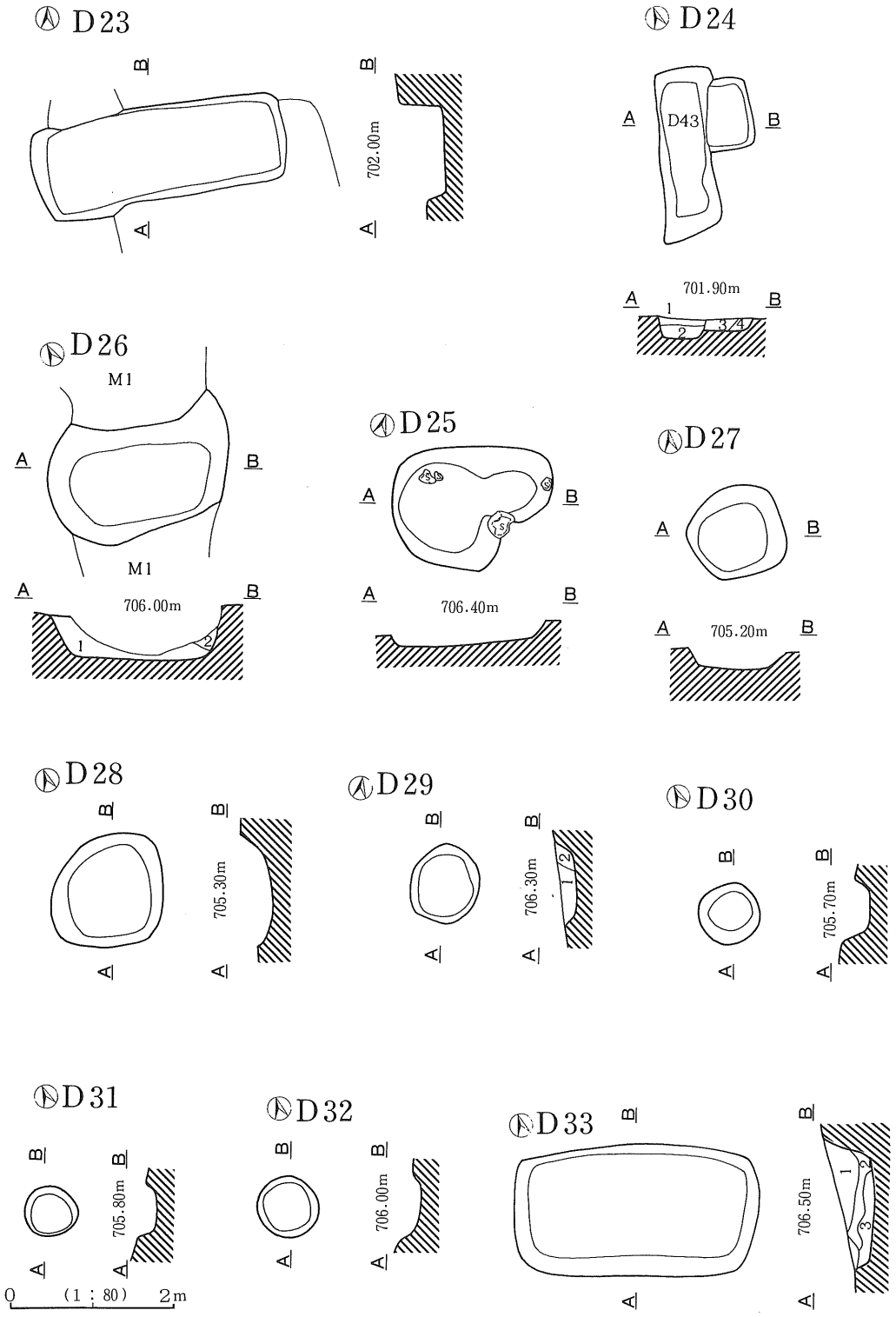
第４節　土坑（D）



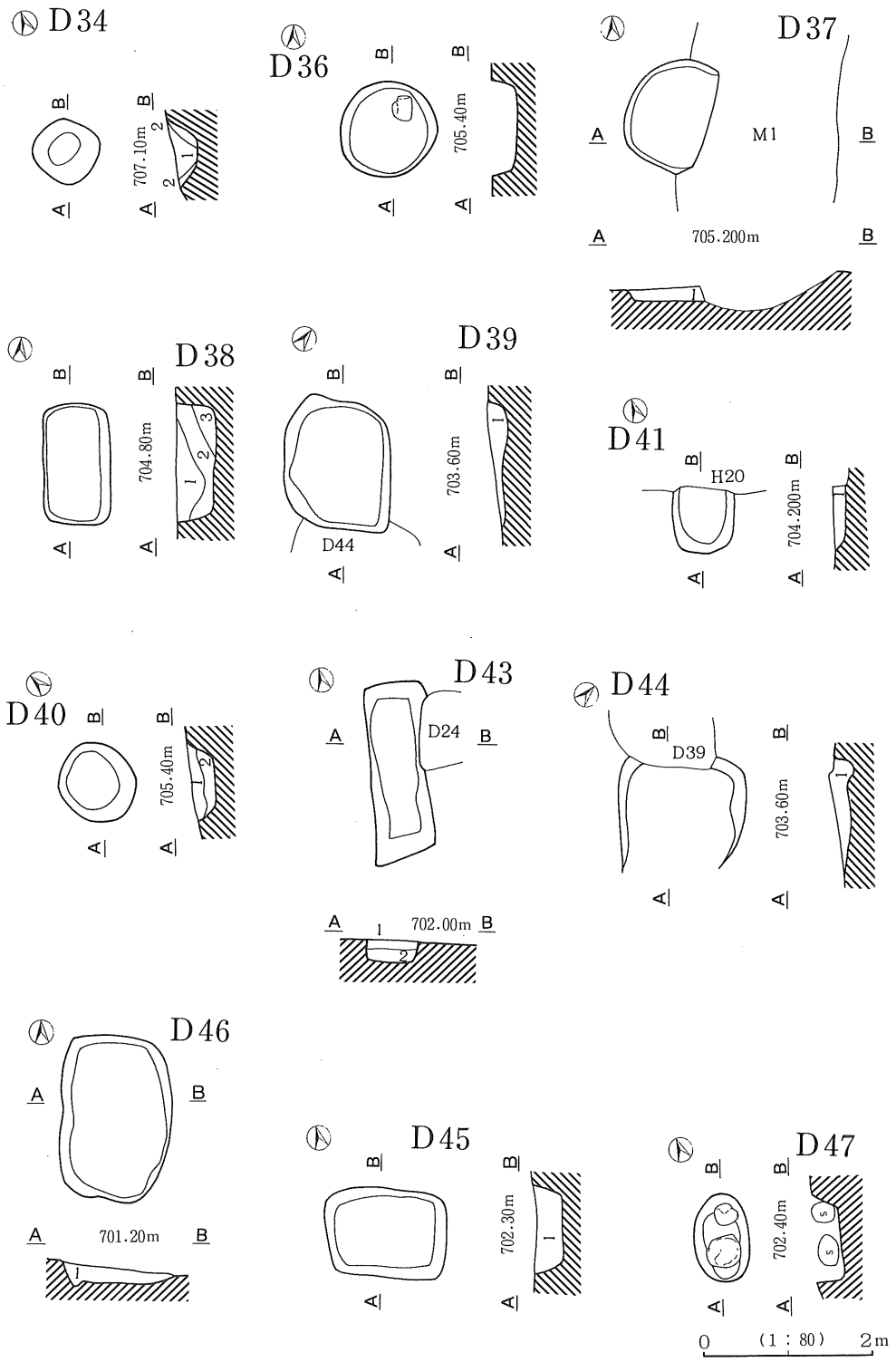
第74図　土坑実測図


D13
H19
706.20m
D14
H20
D15
704.20m
706.40m
D16
701.20m
D17
701.60m
D18
706.70m
D19
706.75m
D22・35
D20
H13
703.20m
D21
702.60m
D22
D35
706.900m
0 (1：80) 2m

第75図　土坑実測図


D23
702.00m
D24
D43
701.90m
D26
M1
706.00m
D25
706.40m
D27
705.20m
D28
705.30m
D29
706.30m
D30
705.70m
D31
705.80m
D32
706.00m
D33
706.50m
0 (1：80) 2m

第76図　土坑実測図


D34
707.10m
D36
705.40m
D37
M1
705.200m
D38
704.80m
D39
703.60m
D44
D41
H20
704.200m
D40
705.40m
D43
D24
702.00m
D44
D39
703.60m
D46
701.20m
D45
702.30m
D47
702.40m
0 (1 : 80) 2m

第77図　土坑実測図

Ｄ１号土坑　遺構はＤ－し－19グリットに位置する。規模は南北1.44m、東西1.5m、深さ48cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ２号土坑　遺構はＤ－し－19グリットに位置する。規模は南北1.7m、東西1.76m、深さ72cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ３号土坑　遺構はＧ－く－２グリットに位置し、Ｄ42とＤ48を切る。北側は調査区外となる。調査規模は南北1.52m、東西2.56m、深さ32cmを測る。平面形は円形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ４号土坑　遺構はＤ－し－19グリットに位置する。規模は径1.44m、深さ98cmを測る。平面形は円形に近い隅丸方形を呈する。

Ｄ５号土坑　遺構はＧ－く－２グリットに位置する。規模は径88cm、深さ72cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ６号土坑　遺構はＧ－こ－１グリットに位置する。規模は南北1.04m、東西80cm、深さ25cmを測る。平面形はやや東西に長い円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ７号土坑　遺構はＤ－い－15グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西2.16m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ８号土坑　遺構はＤ－い－16グリットに位置する。規模は南北0.96m、東西1.12m、深さ23cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ９号土坑　遺構はＣ－と－17グリットに位置する。規模は径96cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ10号土坑　遺構はＣ－と－15グリットに位置する。規模は径88cm、深さ64cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ11号土坑　遺構はＣ－そ－14グリットに位置する。規模は南北88cm、東西1.2m、深さ48cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

Ｄ12号土坑　遺構はＣ－そ－15グリットに位置する。規模は径80cm、深さ30cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ13号土坑　遺構はＤ－こ－18グリットに位置し、Ｈ19に切られる。東側は調査区外となる。調査規模は南北1.6m、東西80cm、深さ80cmを測る。平面形は隅丸方形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ14号土坑　遺構はＤ－け－20グリットに位置し、Ｈ20に切られる。残存規模は南北1.04m、東西1.76m、深さ24cmを測る。平面形は円形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

Ｄ15号土坑　遺構はＣ－せ－17グリットに位置する。規模は径80cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。

D16号土坑　遺構はF－こ－20グリットに位置し、北壁をカクランによって切られる。残存規模は南北80cm、東西96cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D17号土坑　遺構はF－き－８グリットに位置する。規模は南北72cm、東西1.04m、深さ42cmを測る。平面形は隅丸方形を呈する。

D18号土坑　遺構はD－こ－16グリットに位置する。規模は南北2.56m、東西2.48m、深さ64cmを測る。平面形は円形を呈し、遺構上部には多数の石が認められた。遺物は縄文土器片を出土した。

D19号土坑　遺構はC－お－19グリットに位置する。規模は残存部で南北93cm、東西3.25m、深さ25cmを測る。遺物は縄文土器片を出土した。

D20号土坑　遺構はH－し－２グリットに位置し、H13に切られる。残存規模は南北1.36m、東西1.2m、深さ48cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D21号土坑　遺構はG－う－８グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西1.52m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D22号土坑　遺構はC－す－16グリットに位置し、D35を切る。西側は調査区外となる。調査規模は南北88cm、東西2.16m、深さ40cmを測る。平面形は隅丸方形と思われる。

D23号土坑　遺構はF－ち－８グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西3.2m深さ56cmを測る。平面形は方形と思われる。遺物は土師器片を出土した。

D24号土坑　遺構はF－つ－８グリットに位置し、D43を切る。残存規模は南北48cm、東西96cm、深さ32cmを測る。平面形は方形と思われる。遺物は土師器片を出土した。

D25号土坑　遺構はD－し－16グリットに位置する。規模は南北1.6m、東西2.0m、深さ32cmを測る。

D26号土坑　遺構はD－さ－17グリットに位置し、M１に切られる。残存規模は南北1.12m、東西1.28m、深さ32cmを測る。平面形は楕円形を呈したと思われる。遺物は土師器片を出土した。

D27号土坑　遺構はD－こ－20グリットに位置する。規模は南北1.12m、東西1.28m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は須恵器片を出土した。

D28号土坑　遺構はD－こ－20グリットに位置する。規模は南北93cm、東西1.33m、深さ40cm、を測る。平面形は円形を呈する。遺物は土師器・須恵器片を出土した。

D29号土坑　遺構はD－い－17グリットに位置する。規模は南北97cm、東西80cm、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は土師器片を出土した。

D30号土坑　遺構はC－そ－17グリットに位置する。規模は径84cm、深さ40cmを測る。平面形は円形を呈する。

D31号土坑　遺構はC－せ－17グリットに位置する。規模は径64cm、深さ32cmを測る。平面形は

円形を呈する。

D32号土坑　遺構はC－せ－17グリットに位置する。規模は径82cm、深さ34cmを測る。平面形は円形を呈する。

D33号土坑　遺構はC－す－16グリットに位置する。規模は南北1.68m、東西2.96m、深さ48cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。遺物は須恵器片を出土した。

D34号土坑　遺構はC－し－16グリットに位置する。規模は径86cm、深さ42cmを測る。平面形は円形を呈する。

D35号土坑　遺構はC－し－16グリットに位置し、D22に切られる。西側は調査区外となる。調査規模は南北1.84m、東西1.2m、深さ33cmを測る。遺物は土師器片を出土した。

D36号土坑　遺構はD－せ－18グリットに位置する。規模は径1.5m、深さ34cmを測る。平面形は円形を呈する。

D37号土坑　遺構はD－さ－17グリットに位置し、M1に切られる。残存規模は南北1.2m、東西1.04m、深さ24cmを測る。平面形は円形を呈したと思われる。

D38号土坑　遺構はG－き－4グリットに位置する。規模は南北1.45m、東西82cm、深さ49cmを測る。平面形はやや隅丸の長方形を呈する。

D39号土坑　遺構はG－お－17グリットに位置し、D44を切る。規模は南北1.55m、東西1.28m、深さ27cmを測る。平面形はやや崩れた隅丸方形を呈する。

D40号土坑　遺構はD－こ－19グリットに位置する。規模は径88cm、深さ35cmを測る。平面形は円形を呈する。

D41号土坑　遺構はG－け－1グリットに位置し、H20に切られる。残存規模は南北74cm、東西70cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。

D42号土坑　遺構はG－く－2グリットに位置しD3に切られる。残存規模は径1.23m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。

D43号土坑　遺構はF－て－8グリットに位置し、D24を切る。残存規模は南北2.08m、東西65cm、深さ28cmを測る。平面形は長方形を呈する。

D44号土坑　遺構はG－お－8グリットに位置する。規模は南北1.2m、東西1.56m、深さ34cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。

D45号土坑　遺構はH－け－3グリットに位置する。規模は南北1.04m、東西1.44m、深さ36cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。

D46号土坑　遺構はH－こ－6グリットに位置する。規模は南北1.92m、東西1.28m、深さ34cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。

D47号土坑　遺構はH－け－3グリットに位置する。規模は南北1.12m、東西64cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

D48号土坑　遺構はG－く－2グリットに位置し、D3に切られる。残存規模は南北88cm、東西1.36m、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。

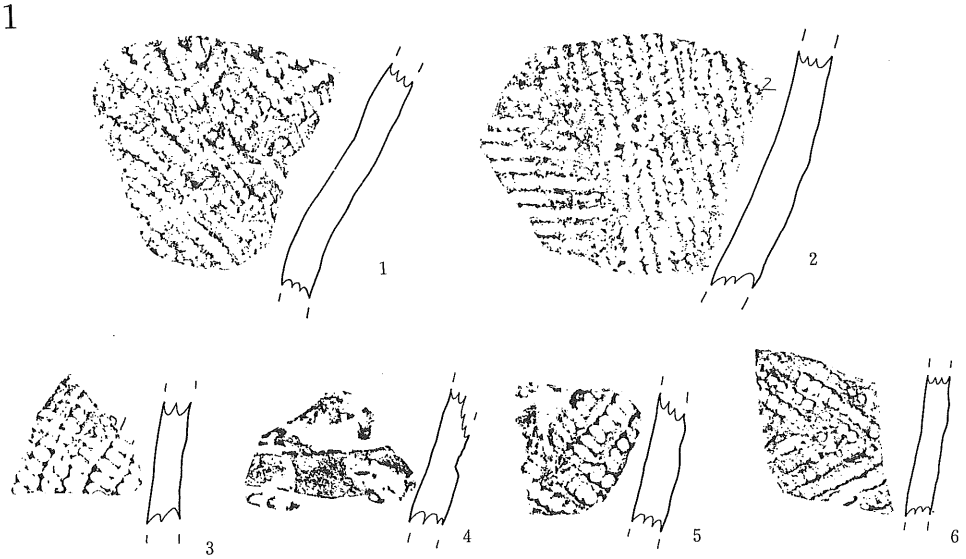
遺構名	層位	色調		混入物等
D 2	1	黒褐色	10YR2/2	ﾛｰﾑ粒・軽石含む。
	2	黒褐色	10YR2/3	ﾛｰﾑ粒・軽石含む。
	3	にぶい黄褐色	10YR4/3	砂質・しまりなし。
	4	暗褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
D 55	1	黒褐色	10YR2/2	ﾛｰﾑ粒・軽石含む。しまりなし。
	2	暗褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ粒・しまりなし
D 33	3	暗褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ粒・軽石含む。
D 4	1	黒褐色	10YR2/2	ﾛｰﾑ粒・しまりややあり。
D 5	1	黒褐色	10YR2/3	ﾛｰﾑ粒・軽石・石20cm大含む。
	2	暗褐色	10YR3/4	ﾛｰﾑ粒・軽石・石含む。
D 6	1	暗褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ粒・石5cm大含む。
	2	にぶい黄褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ土多く、軽石5cm大含む。
D 7	1	黒色	10YR2/1	ﾊﾟﾐｽ・炭化物含む。しまり粘性なし
	2	黒褐色	10YR3/1	白色粒・赤色粒含む。しまりあり。
	3	暗褐色	10YR3/4	ﾛｰﾑ土多量に含む。しまり粘性あり。
D 9	1	黒色	10YR2/1	ﾛｰﾑ粒多く含む。しまり粘性あり。
	2	黒褐色	10YR3/1	ﾛｰﾑ粒含む。しまり粘性あり。
D 10	1	黒色	10YR2/1	白色粒・小石多く含む。 しまり粘性ややあり。
	2	黒褐色	10YR3/2	白色粒・赤色粒多く含む。 しまり粘性あり
	3	褐色	10YR4/6	黒色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。しまり粘性あり。
	4	褐色	10YR4/6	白色粒含む。しまり粘性あり。
D 11	1	暗褐色	10YR3/4	白色粒含む。しまり粘性あり。
	2	黒褐色	10YR3/1	ﾛｰﾑ粒・白色粒含む。しまり粘性あり
	3	褐色土	10YR4/6	ﾛｰﾑ粒多量に含む。しまりなし。
D 12	1	黒褐色	10YR3/1	白色粒多く含む。しまりあり。
	2	暗褐色	10YR3/3	褐色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。しまり粘性あり。
	3	褐色	10YR4/6	ﾛｰﾑ粒含む。しまり粘性あり。
D 13	1	黒色	10YR2/1	ﾛｰﾑ粒含む。
	2	黒褐色	10YR2/2	ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
	3	暗褐色	10YR3/3	ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

第26表　土坑土層説明

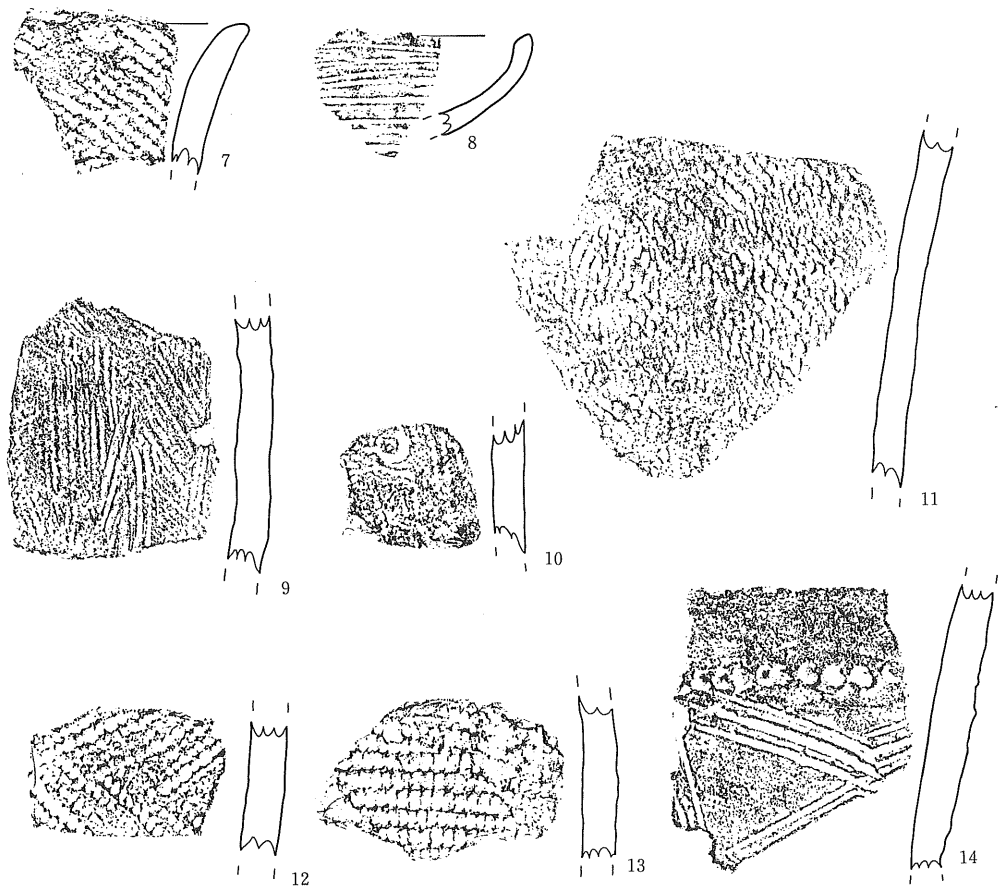
遺構名	層位	色	調	混入物等
D 14	1	黒褐色	10YR2/3	ローム粒・ロームブロック含む。
D 16	1	黒褐色	10YR2/3	ローム粒・炭化物含む。しまりあり。
D 18	1 2	黒褐色 黒褐色	10YR3/2 10YR3/2	ロームブロック・小石含むしまり粘性あり ロームブロック含む。しまり粘性あり。
D 19	1	暗褐色	10YR3/3	白色粒多く含む。しまり粘性あり。
D 20	1 2 3 4	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色 暗褐色	10YR2/3 10YR2/3 10YR2/2 10YR2/3	ローム粒・ハミス含む。 ローム粒・ハミス含む。 ローム粒・ハミス含む。 ローム粒・ハミス・白色粒含む。
D 21	1	暗褐色	10YR3/4	ローム粒・軽石含む。
D 22	1	暗褐色	10YR3/3	ローム粒・ハミス含む。
D 24	1 2	にぶい黄褐色 褐色	10YR4/3 10YR4/4	ローム粒・軽石多く含む。 ローム粒・軽石含む。
D 26	1 2	暗褐色 黒褐色	10YR3/3 10YR2/2	ロームブロック多く含む。 ロームブロック多く含む。
D 29	1 2	黒色 暗褐色	10YR2/1 10YR3/4	白色ロームブロック含む。しまりなし。 ローム粒・炭化物含む。しまり粘性あり
D 33	1 2 3	黒褐色 褐色 黄褐色	10YR3/2 10YR4/4 10YR5/8	ロームブロック・炭化物含む。しまりなし ロームブロック含む。 ローム粒含む。しまり粘性ややあり。
D 34	1 2	黒褐色 褐色	10YR3/2 10YR4/6	白色粒・炭化物含む。しまりあり。 ロームブロック・白色粒含む。 しまり粘性あり。
D 37	1	黒褐色	10YR2/2	ローム粒・ハミス含む。しまりなし。
D 38	1 2 3	黒褐色 黒褐色 黒褐色	10YR2/2 10YR2/3 10YR2/2	ロームブロック多く含む。 ローム粒・ハミス含む。 ローム粒・ロームブロック含む。
D 39	1	暗褐色	10YR3/3	ローム粒含む。しまりなし。
D 40	1 2	黒褐色 暗褐色	10YR2/3 10YR3/4	ローム粒ロームブロック多く含むしまりあり ローム粒・軽石含む。
D 41	1	黒褐色	10YR2/3	ローム粒・ロームブロック含む。
D 43	1 2	黒褐色 にぶい黄褐色	10YR2/3 10YR5/3	ローム粒・ハミス含む。 ローム粒・ハミス多く含む。
D 44	1	黒褐色	10YR3/2	ローム粒・含む。しまりなし。
D 45	1	黒褐色	10YR2/2	ローム粒・しまりなし。
D 46	1	黒褐色	10YR3/2	ローム粒・ハミス含む。しまりなし。

第27表　土坑土層説明

D1

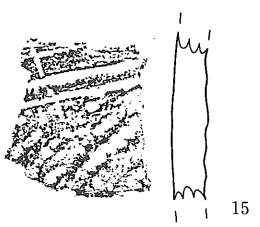


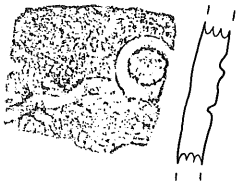
D2

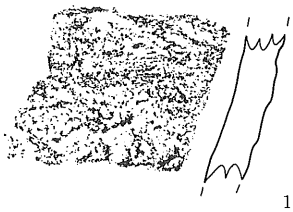


第78図　土坑出土遺物実測図

D2


15

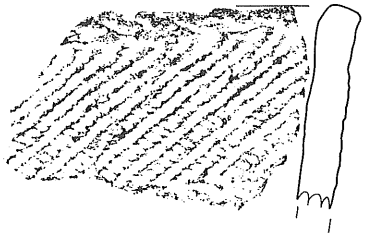

16

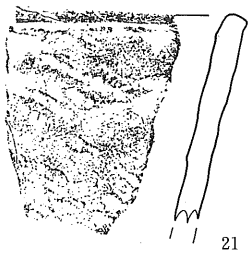

17

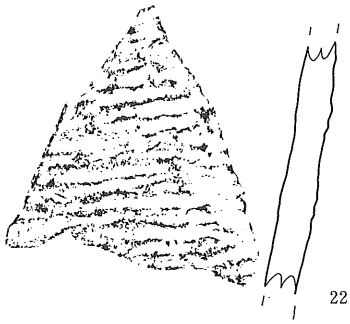
18

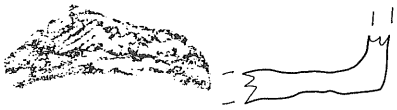
19

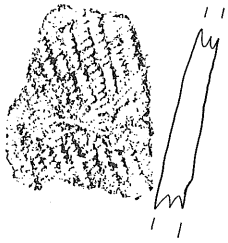
D3


20

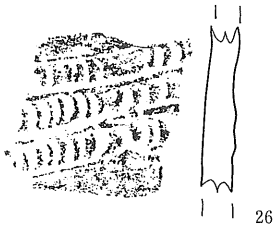

21

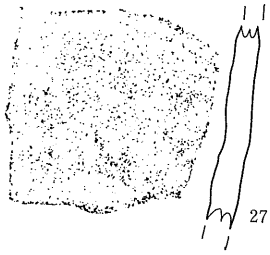

22


23


24

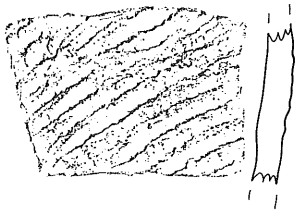
25

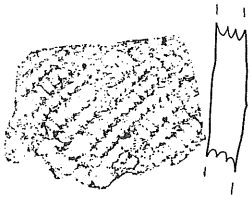

26

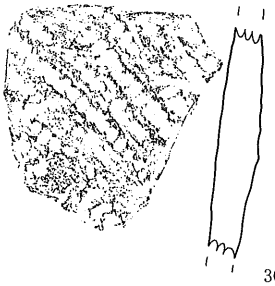

27

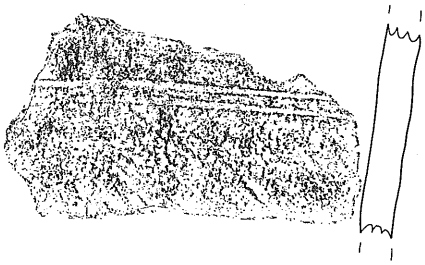
第79図　土坑出土遺物実測図

D4


28


29


30


31

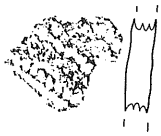
D6

32

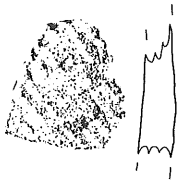
D7

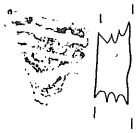
33

D8

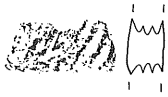

34

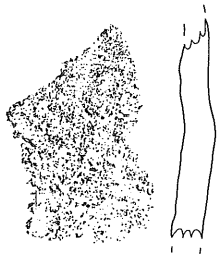
D9


35

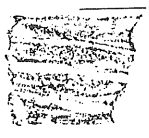

36

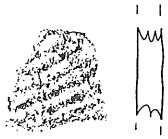
D10


37


38

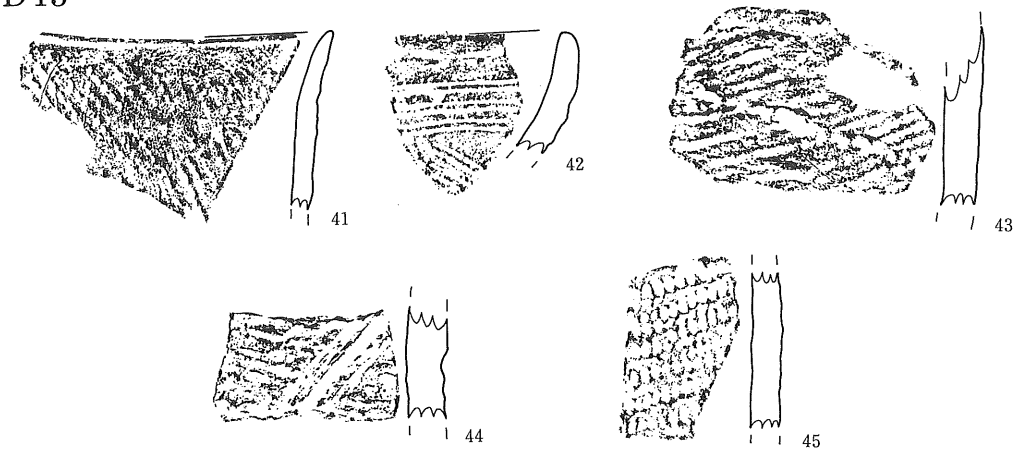
D15


39

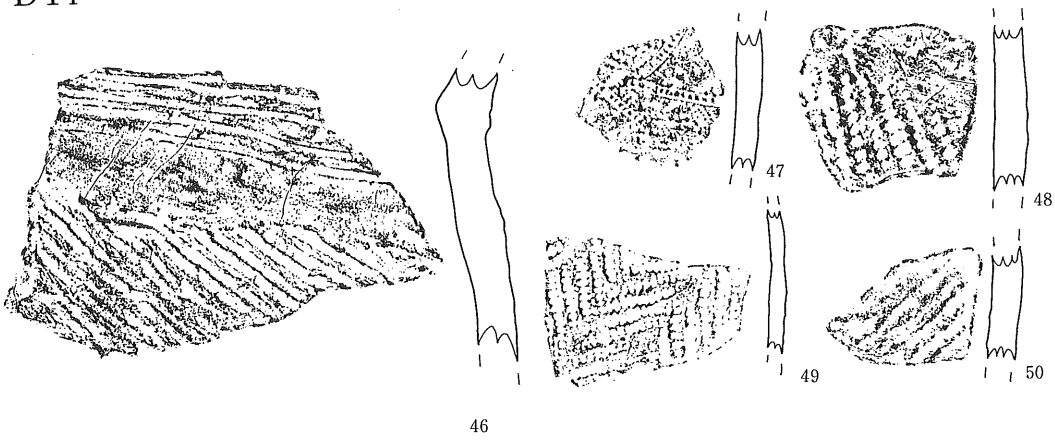

40

第80図　土坑出土遺物実測図

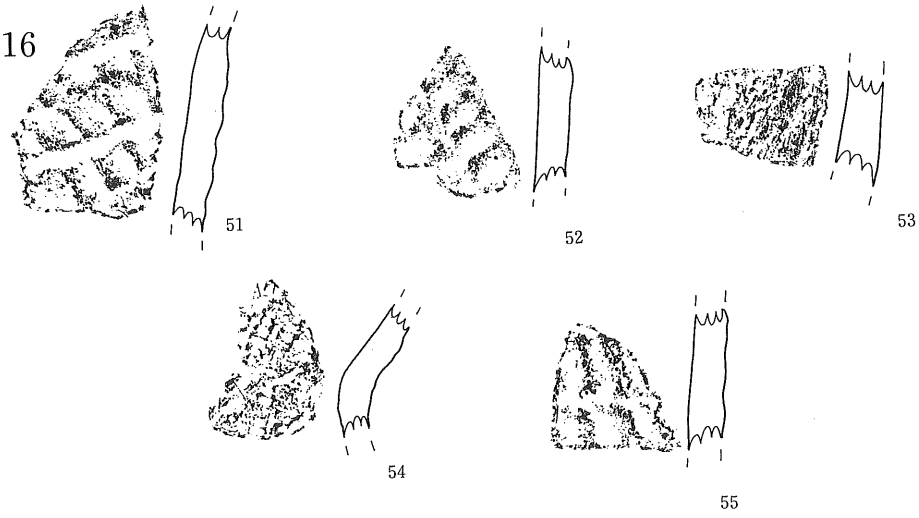
D13



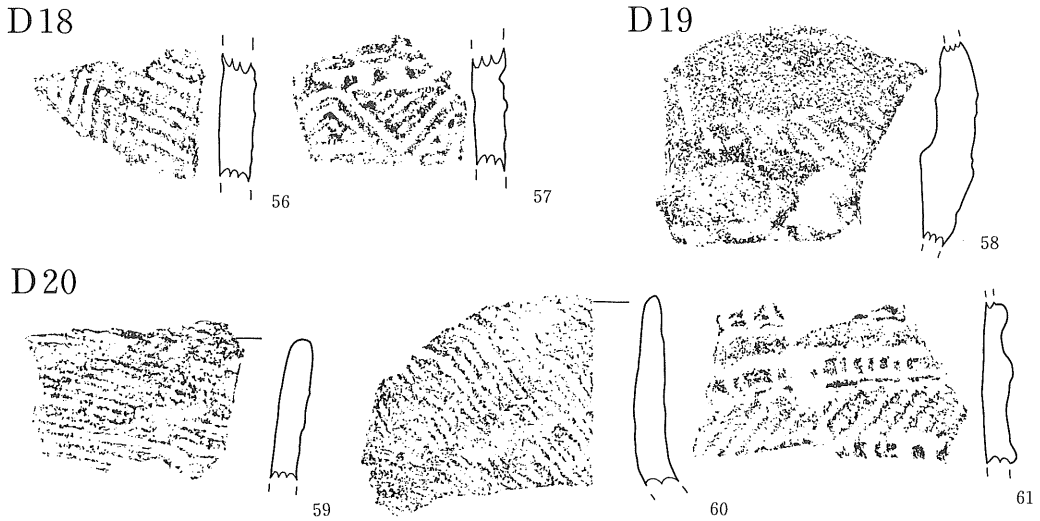
D14



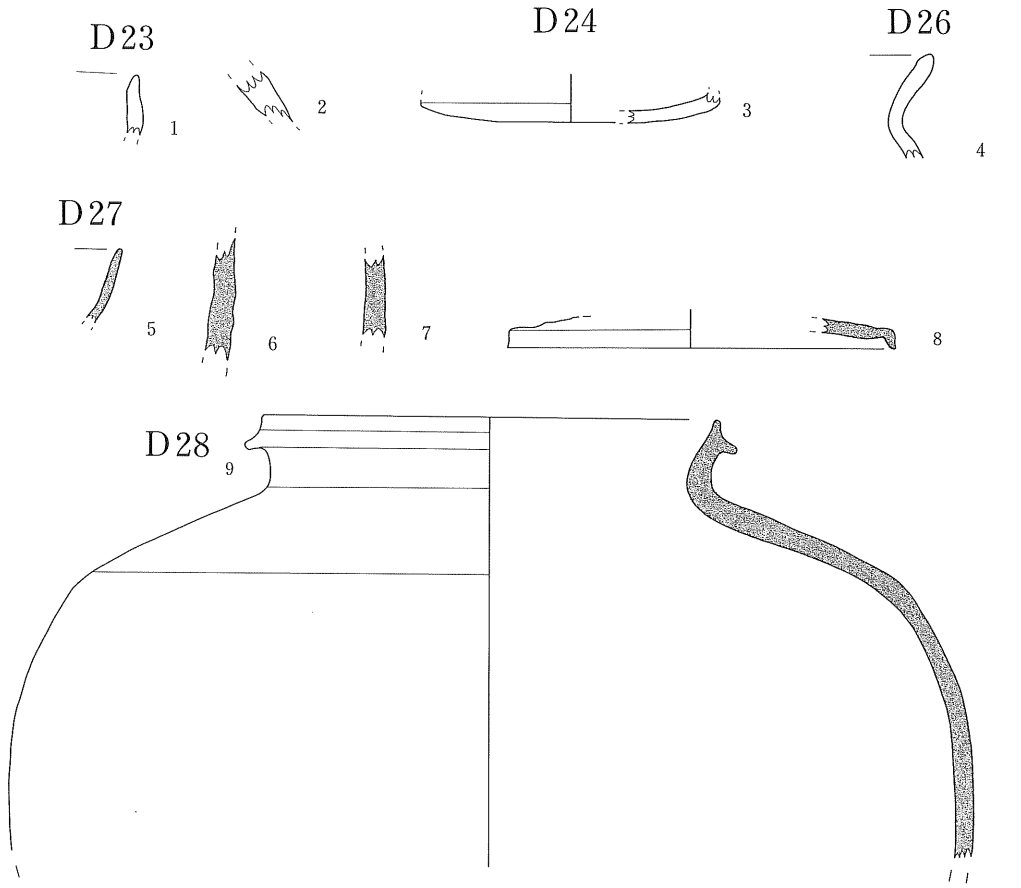
D16



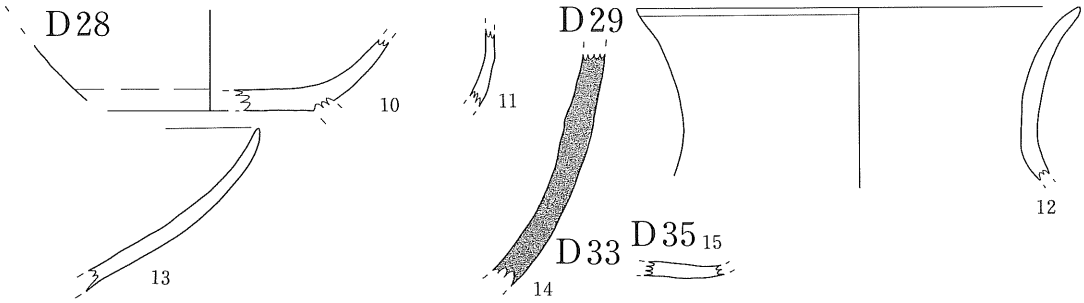
第81図　土坑出土遺物実測図



第82図　土坑出土遺物実測図



第83図　土坑出土遺物実測図



第84図　土坑出土遺物実測図

番号	遺構名	器　種	器　形	厚さ	部位	色　　調	焼成	備　　考
1	D 1	縄文土器	－	0.8	体部	5YR3/6 暗赤褐色	良好	雲母
2	D 1	縄文土器	－	1.1	体部	7.5YR4/3 褐色	良好	
3	D 1	縄文土器	－	0.8	体部	10YR2/2 黒褐色	良	
4	D 1	縄文土器	－	0.9	体部	10YR3/1 黒褐色	良	長石･雲母
5	D 1	縄文土器	－	0.7	体部	10YR2/1 黒色	良	
6	D 1	縄文土器	－	0.7	体部	10YR2/3 黒褐色	良好	長石
7	D 2	縄文土器	－	0.9	口縁	7.5YR4/2 灰褐色	良好	長石
8	D 2	縄文土器	－	0.6	口縁	7.5YR4/1 褐灰色	良好	
9	D 2	縄文土器	－	0.9	体部	2.5YR4/2 灰赤色	良	長石･金雲母
10	D 2	縄文土器	－	0.8	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良	長石
11	D 2	縄文土器	－	0.8	体部	2.5YR4/3にぶい赤褐色	良好	長石
12	D 2	縄文土器	－	0.9	体部	5YR7/4 にぶい橙色	良	
13	D 2	縄文土器	－	0.7	体部	5YR4/2 灰褐色	良	
14	D 2	縄文土器	－	0.8	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	長石･金雲母
15	D 2	縄文土器	－	0.8	体部	7.5YR6/6 橙色	良	
16	D 2	縄文土器	－	0.7	体部	7.5YR3/1 黒褐色	良	長石･金雲母
17	D 2	縄文土器	－	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	
18	D 2	縄文土器	－	0.8	底部	7.5YR7/2 明褐灰色	良	
19	D 2	縄文土器	－	0.8	体部	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	
20	D 3	縄文土器	－	0.8	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母

(単位　cm)

第28表　土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器　種	器　形	厚さ	部位	色　　調	焼成	備　　考
２１	Ｄ３	縄文土器	－	0.7	口縁	5YR4/2 灰褐色	良好	雲母
２２	Ｄ３	縄文土器	－	0.7	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良好	
２３	Ｄ３	縄文土器	－	0.9	底部	7.5YR4/3 褐色	良	雲母
２４	Ｄ３	縄文土器	－	0.7	体部	7.5YR4/3 褐色	良	
２５	Ｄ３	縄文土器	－	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石･金雲母
２６	Ｄ３	縄文土器	－	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良好	長石
２７	Ｄ３	縄文土器	－	0.7	体部	5YR3/2 暗赤褐色	不良	長石･金雲母･小石
２８	Ｄ４	縄文土器	－	0.7	体部	2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	
２９	Ｄ４	縄文土器	－	0.9	体部	5YR4/1 褐灰色	良好	
３０	Ｄ４	縄文土器	－	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	
３１	Ｄ４	縄文土器	－	0.9	体部	5YR5/2 灰褐色	良	長石･雲母
３２	Ｄ６	縄文土器	－	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	
３３	Ｄ７	縄文土器	－	0.7	口縁	5YR5/8 明赤褐色	不良	
３４	Ｄ８	縄文土器	－	0.6	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良好	
３５	Ｄ９	縄文土器	－	0.9	体部	7.5YR3/1 黒褐色	良好	長石・雲母
３６	Ｄ９	縄文土器	－	0.9	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	
３７	Ｄ10	縄文土器	－	0.8	体部	5YR3/3 暗赤褐色	良	
３８	Ｄ10	縄文土器	－	0.8	体部	2.5YR5/8 明赤褐色	良	長石
３９	Ｄ15	縄文土器	－	0.8	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	
４０	Ｄ15	縄文土器	－	0.7	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良	
４１	Ｄ13	縄文土器	－	0.7	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母･長石
４２	Ｄ13	縄文土器	－	0.8	口縁	5YR3/6 暗赤褐色	良好	長石
４３	Ｄ13	縄文土器	－	0.9	体部	7.5YR6/6 橙色	良	長石･雲母
４４	Ｄ13	縄文土器	－	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石
４５	Ｄ13	縄文土器	－	0.8	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	
４６	Ｄ14	縄文土器	－	1.1	体部	7.5YR4/4 褐色	良好	長石

（単位　cm）

第29表　土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器　種	器　形	厚さ	部位	色　調		備　考
47	D14	縄文土器	—	0.7	体部	5YR4/6 赤褐色	良好	金雲母
48	D14	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	
49	D14	縄文土器	—	0.4	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	長石
50	D14	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR5/2 灰褐色	良	
51	D14	縄文土器	—	0.9	体部	5YR4/2 灰褐色	良	長石・金雲母
52	D14	縄文土器	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	長石・金雲母
53	D16	縄文土器	—	0.9	体部	5YR4/8 赤褐色	不良	長石・金雲母
54	D16	縄文土器	—	0.8	頸部	5YR5/3 にぶい赤褐色	良	
55	D16	縄文土器	—	0.8	体部	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	長石・金雲母
56	D18	縄文土器	—	0.9	体部	7.5YR3/3 暗褐色	良	
57	D18	縄文土器	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
58	D19	縄文土器	—	1.6	体部	10YR6/6 明黄褐色	不良	
59	D20	縄文土器	—	0.7	口縁	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	
60	D20	縄文土器	—	0.8	口縁	10YR5/6 黄褐色	良	長石
61	D20	縄文土器	—	0.7	体部	7.5YR3/3 暗褐色	良	長石

(単位　cm)

第30表　土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器　種	器　形	口径	底径	器高	調　整	備　考
1	D23	土師器	坏	—	—	—		残存率口縁の一部　焼成　良 色調7.5YR6/4 にぶい橙色
2	D23	土師器	甕	—	—	—	内面クシ目痕の残るヘラ削り　外面ヘラ削り	焼成　良好 色調5YR4/6赤褐色
3	D24	土師器	坏	5.9	—	—	外面ヘラ削り	残存率 底部のみ　焼成 良好 色調7.5YR4/2灰褐色
4	D26	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ	残存率口縁の一部　焼成 良 色調5YR4/4にぶい赤褐色
5	D27	須恵器	坏	—	—	—		残存率　口縁の一部　焼成 色調N5/0灰色　良好
6	D27	須恵器	甕	—	—	—		残存率体部の一部 焼成 良好 色調N3/0暗灰色

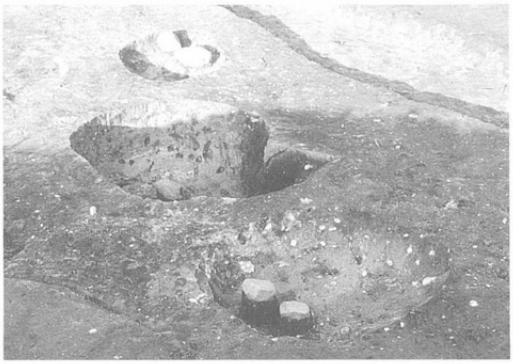
(単位　cm)

第31表　土坑出土遺物観察表

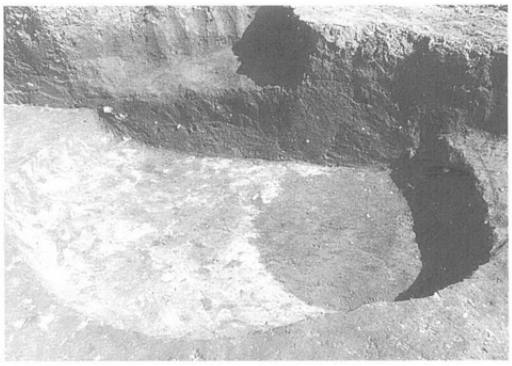
番号	遺構名	器　種	器　形	口径	低径	器高	調　　整	備　　考
7	D27	須恵器	甕	－	－	－	外面タタキ痕	残存率体部の一部　焼成　良 色調N3/0暗灰色
8	D27	須恵器	蓋	－	－	－		焼成 良好 色調2.5Y5/1黄灰色
9	D28	須恵器	甕	18.4	－	－		残存率10％　焼成　良好 色調5Y5/1灰色
10	D28	土師器	坏	－	7.9	－	底部回転糸切り	残存率15％　焼成　良 色調2.5Y4/3にぶい赤褐色
11	D28	土師器	坏	－	－	－	墨書土器 内面黒色処理	残存率体部の一部　焼成良好 色調5YR5/4にぶい赤褐色
12	D29	土師器	甕	17.4	－	－	外面クシ目	残存率口縁の一部 焼成 良好 色調7.5YR5/3にぶい褐色
13	D29	土師器	高坏	－	－		内面･外面赤色塗彩	残存率坏部の一部　焼成 良 色調7.5R4/6赤色
14	D33	須恵器	甕	－	－	－	外面タタキ痕	残存率体部の一部　焼成良好 色調5Y2/2オリーブ黒
15	D35	土師器	坏	－	－	－		残存率　体部の一部焼成　良 色調　10YR6/2灰黄褐色

(単位　cm)

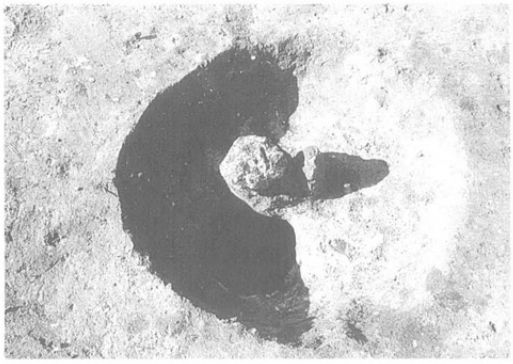
第32表　土坑出土遺物観察表



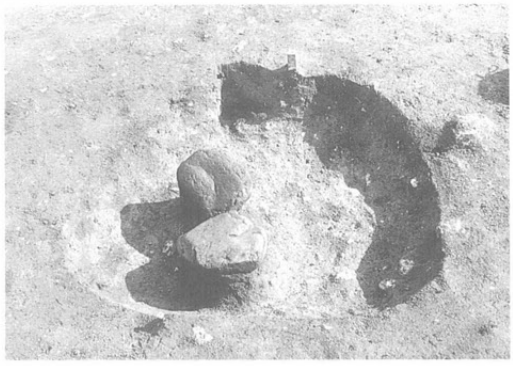
写73　D１･D２･D36号土坑



写74　D３号土坑



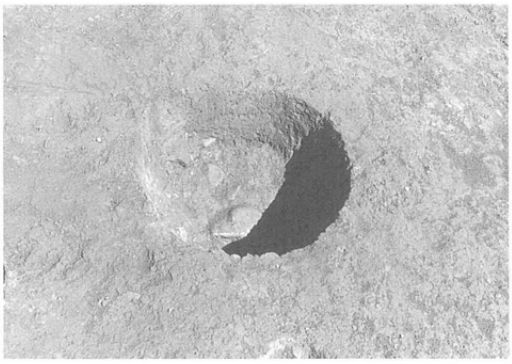
写75　D５号土坑



写76　D６号土坑

写77　D７号土坑

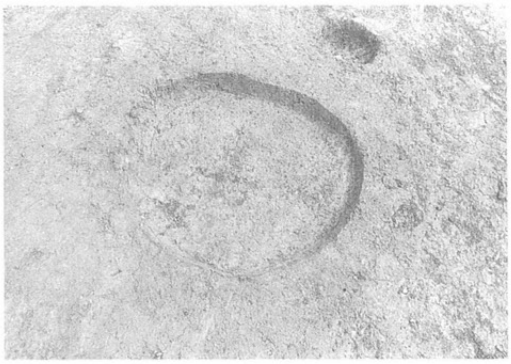
写78　D９号土坑



写79　D10号土坑

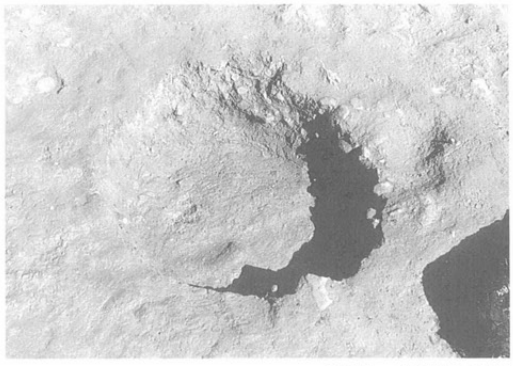
写80　D11号土坑

写81　D12号土坑

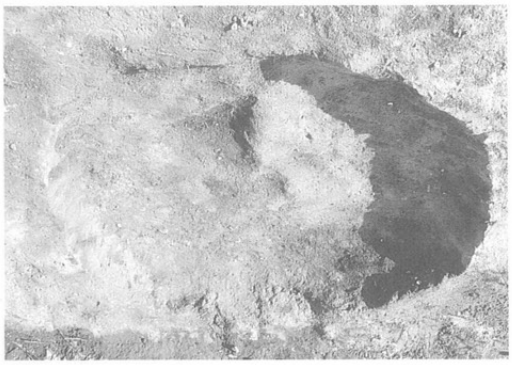


写82　D15号土坑

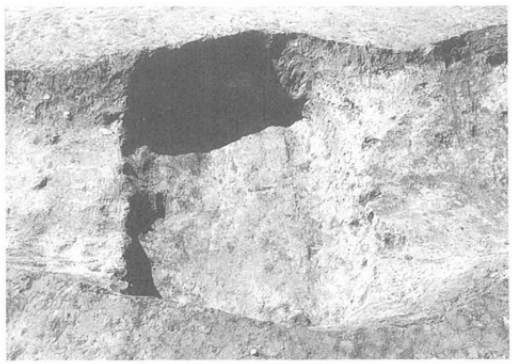
写83　D18号土坑



写84　D18号土坑



写85　D21号土坑

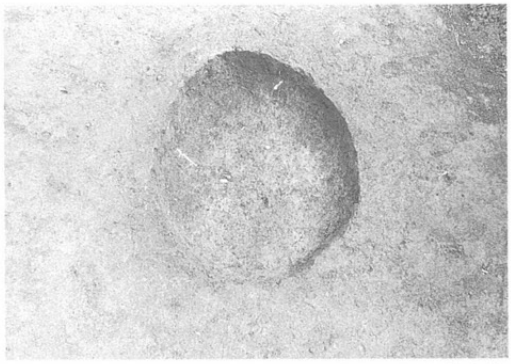


写86　D26号土坑

写87　D27号土坑

写88　D29号土坑

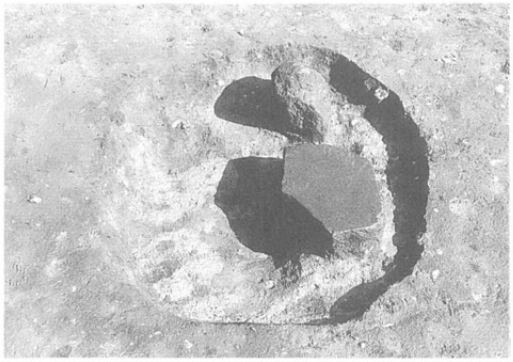
写89　D30号土坑



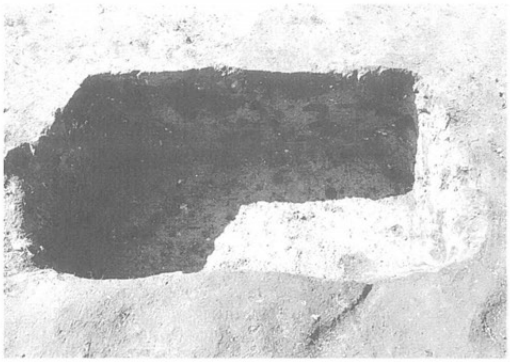
写90　D31号土坑

写91　D32号土坑

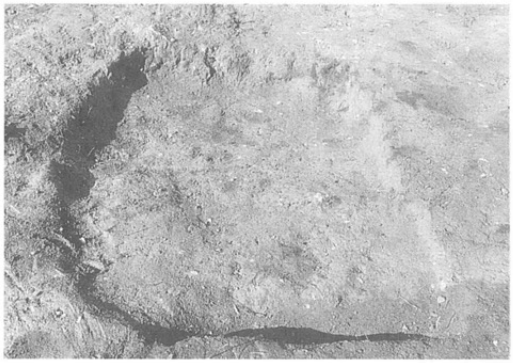
写92　D33号土坑



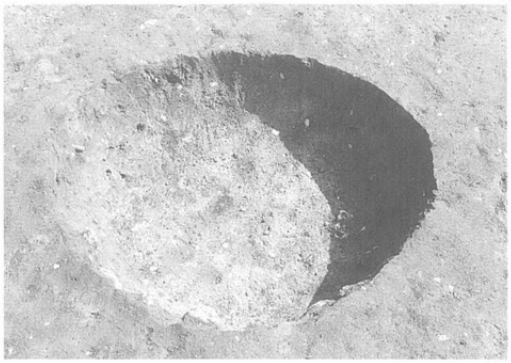
写93　D36号土坑



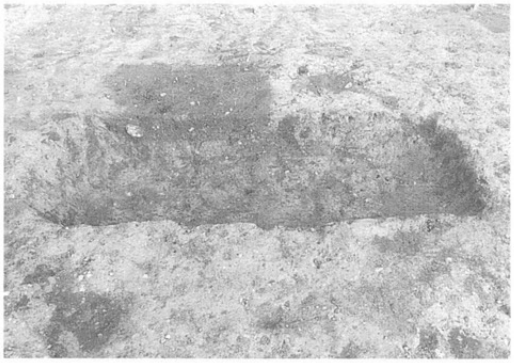
写94　D38号土坑



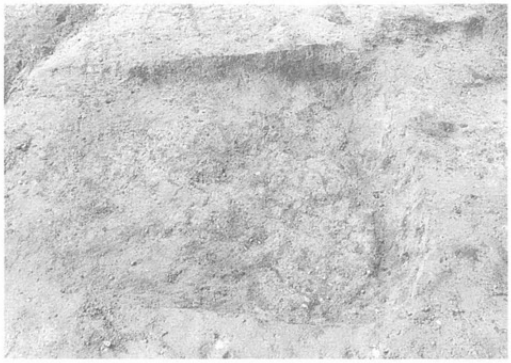
写95　D39号土坑



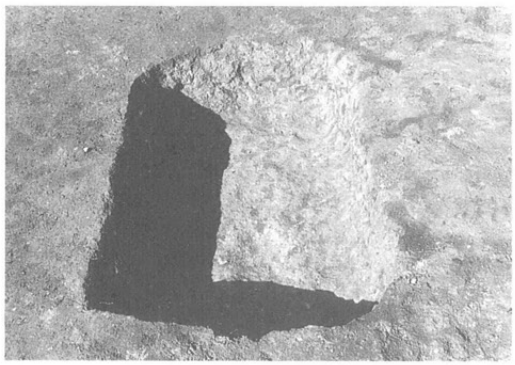
写96　D40号土坑



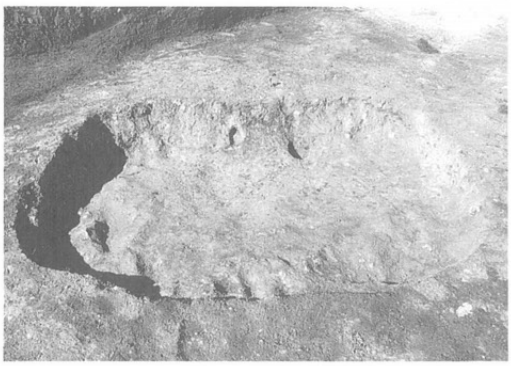
写97　D43号土坑



写98　D44号土坑



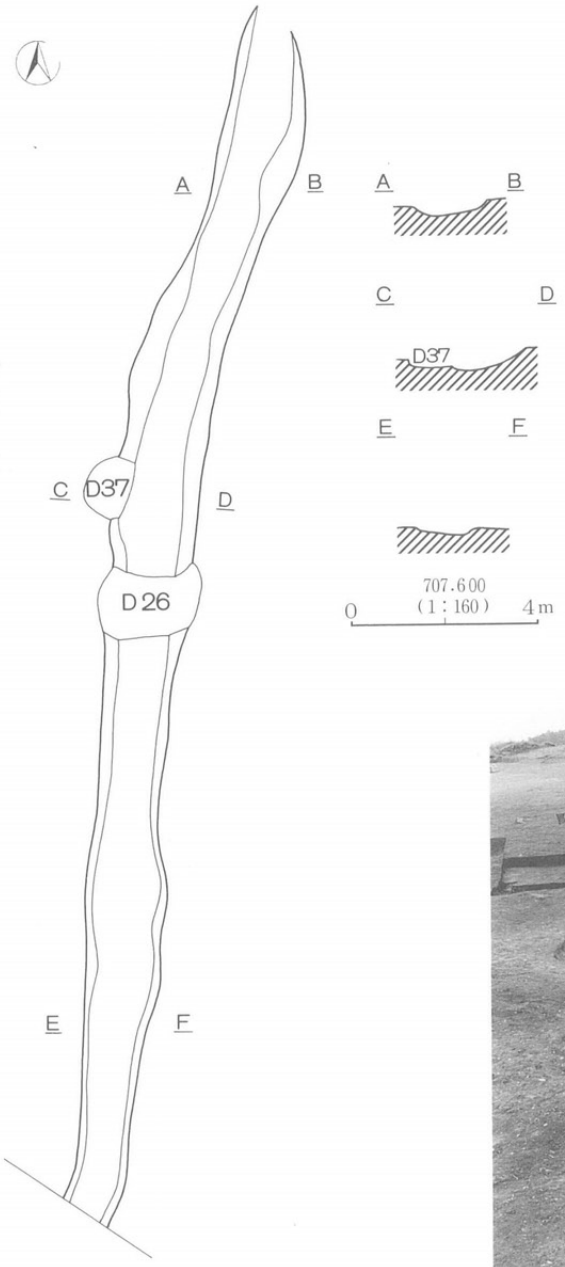
写99　D45号土坑



写100　D46号土坑

第５節　溝跡（M）

Ｍ１号溝跡



遺構は調査区東端の緩斜面上に位置し、Ｄ－こ－14グリットからＤ－さ－20グリットにかけて認められる。遺構はＤ26・Ｄ37と重複関係にあり両土坑を切る。規模は幅約2.0m、長さ26.4m、深さ30cm前後を測る。

第85図　Ｍ１号溝跡実測図

写101　Ｍ１号溝跡